Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大正三年一月一日發行（毎月一回一日發行）第一號

青鞜

讀者諸氏に

私は自分で編輯するこの雑誌を、出來る丈け、立派なものにしたいと思ひます。けれども如何に、私が自惚れて見ましても本當に貧弱な内容しか持つことが出來ません。私一個の微力では勿論どうしても讀者諸氏を満足させるやうな大家の執筆を乞ふことは出來ません。目次にならんだ人達はまだ世間の表に立つてゐない人の方が多數を占めて居ます。私は毎號々々かうして貧弱だとかつまらないとか云ふ非難を耳にしながらも何時もねうちのない雑誌ばかり編輯して居ります。けれども私の考へではそれにも相當の理屈はつくのです。私自らはこの雑誌自身に單なる苗床としてより以上の何の價値をも求めやうとはしません、私はこの雑誌を引きつぐ際に、一切の規則を取り去つて無規則無方針、無主義無主張と云ふことをお斷はりしました。主義の欲しい方規則のなくてはならない方は各自におつくりなさるがいゝ。何の主義も主張もない雑誌を凡ての婦人達に提供いたしますから各々に自由勝手にお使ひ下さい。お用ひになる方の意のまゝに出來るやうに雑誌そのものには一切意味を持たせません。と云ふことも其の際に申ました。何卒この貧弱な雑誌を覗く丈けの方でもこの事を御承知下さいまし、この雑誌は苗床としての價値より他には何にもありません。此處に芽を出した苗がどんな處にうつされ、どの苗がどう育つてゆくか——未成品——と云ふことに興味をもつて下さる方に初めてこの雑誌は雑誌自らの存在の意義を明らかにするのです。私はかう云ふ負け惜しみな理屈を楯に何と非難されても相變らず貧弱な雑誌を倦きずにこしらへてゐるのです。

——編輯者——

新年號

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

第六卷

第一號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一月號目次

婦人と社會……………一　スコットニーアリング　齊賀琴譯
兒童の世紀……………二　エレン、ケイ　山田わか譯
みちのくの雪（短歌）……………二七　原あさを
海にゆく弟に……………三〇　山田邦子
廢驛の夕（短歌）……………三七　齊賀琴
草笛（短歌）……………三八　三ケ島よし
薄ずみいろ……………四〇　奈々子
十五のSと社會と（小說）……………四七　青木しげ子
暗潮（小說）……………七五　佐藤欽子
青鞜社詠草……………九二　畔蒜琴等

最初の家……九五　五明倭文子
斷章（詩）……一〇五　吉屋信子
自分と周圍（感想）……一〇七　山田わか
初戀のなりゆき……一一三　岡田八千代
星の空（小說）……一一六　加藤みどり
蕀薩のはな……一四〇　茅野雅子
日本婦人の社會事業に就て
伊藤野枝氏に與ふ……一四三　青山菊榮
青山菊榮氏に……一五四　野枝
折にふれて……一六六　岡田ゆき
手紙……一七〇　青井禎
編輯室より……一七六　野枝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人と社會の進歩

——スコット、ニーアリング——

齋賀琴 譯

個人としての婦人

大百科全書の編輯者は十八世紀の末に出版されたその第一版に於て「Woman, The Female of man See man と言ふ婦人の定義を書き込んでゐる。婦人の品性、才能、及び勢力は、男子のその中に含まれてゐたのであつた。婦人は一個人ではなくて、僅かに一個人への附屬物であつた。婦人について何事かを知らうと思へばたつた一つの據り所は婦人その者ではなくて「婦人の全存在の本原」なる男子であつた。編輯者が與へたこの標題の説明は當時の一般の思想を代表したものであつた。

婦人に關する十八世紀のイギリスの狀態と二十世紀のアメリカの狀態との間には著しい、そして根本的な相異がある。今日の婦人を知るために私達は、單に「婦人を見る」ばかりでなく、現に婦人を引合に出すのである。Miss Cisely Hamilton は云つた。「私は婦人に依て個々の人間を了解した、人間の生活は婦人自らが關係するものである」「私にとつて婦人は

それ自らが實體である、そしてもし始めて婦人に逢つたならば私は、その婦人が旣婚者か如何かを質問する、それは只その婦人を稱びかけるのにミスと云ふべきか、ミセスと云ふべきか、その何れかを知りたいと思ふためである」(Marriage as a Trade 2 and 3) と。而して獨身の少女は男子の附屬者とならぬ故に過つのではない、彼女は只婦人たる事を止める時にのみ失敗するのである。

二十世紀のアメリカに於ける婦人は男子の助力なくして存在し、活動することの出來る一の完全な身體的、精神的有機體として觀察されて居る。アメリカの婦人は一個の人間である。その才能、品性及び勢力は、彼女が選擇の自由に於て選擇する事が出來るやうに、彼女自身に依て扱はれ處置せらるべき彼女自身のものである。自由な選擇を以て男性の附屬物から一個の人間に移るこの婦人の變化は、彼女が永い間爭つてゐた侮辱と埋沒の泥所から彼女を移して、進步的向上の方向に置く。

もし進步が具體的な目的を持つと云はれ得るならば、進步の具體的な目的は、高尙なタイプの個人であるやうに考へられる、人生の低い階級の中では個人は群集の中へ姿を沒する。動物生活のより高い組織が近づくに從つて、保護を要する子供の時代が追々增して來る、人間の間では騷がしい時代の中に必らず起る害惡に對して注意深く守護される子供は、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

進步した社會に於ては十年から廿五年にまで及ぶ。野蠻と未開とを比較すれば、文明と云ふのは子供時代の經過が段々長くなる事である事が了解される、子供時代の長さは人生の長さを意味する。より大なる個人の中ではより長い子供時代が生ずる。この故に時代の優れた產物なる進步した人間はいかなる他の生物よりも一層强く個人化されてゐる。

表面から觀察したならば種族は個人の前に置かれるであらうが併し個人が正しい見識の中に考へられた時は、――傾向及び性質を一時代から次の時代へ傳へるものとして考へられた時は、種屬は只個人のたえざる總合としてのみ表はれる。「種族とか種とか云ふものは一の表象、抽象的な觀念となる、そして個人は只一つの現實のものである」(Pure Sociology. P. 291) かやうな言葉の中に十九世紀の哲學と科學とは現代の思想――個人は徹頭徹尾大切である、個人は種族であると云ふ――のために大なる貢献を表はしてゐる。

然し乍ら凡そこれらの人々が心に懷いて居た處の個人は社會の一員たる個人ではなくて只一個の人間であつた。十九世紀の婦人が計畫することは一般に顧られなかつた、今日でさへも、一個の男子を宇宙の中心となし、そして婦人を第二位に置く見解は普通に允されてゐる。社會及社會學の議論の形式に表はれるこの觀念は、「すべてのものは男子中心である。そして婦人は生殖の仕事に必要な、人間の種族を繼續する唯一の道具ではあるもの丶

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一面から云へば些細な附屬物、一般の目的に於ての附屬的な要素である」と云ふ見解になる。もしこの假定が校正されるならば、社會及び社會力の研究はあらゆる歴史的時代に於けるが如く、男子のみが分解の仕事をするのだと云ふことを主張したのであろう、婦人はその生殖の仕事以上に直接いかなる社會進化にたづさはる事も決して望まれなかつたために。

然し乍ら過去十數年の間に個人主義は個人たる男子の發見から個人たる婦人の發見にまで進んで來た。婦人はその强ひられる劣等な位置を以て滿足されなくなつた、なほまた無邊無窮の局面に於て事件を觀察する科學者は婦人をこゝに止めることに滿足しなかつた。

婦人が蔑められると云ふ明白な事實は、恐らく過去に於けるその劣等な境遇からの産物であつた。ジョン、スチユワート、ミルが Subjection of women に於て論じたこと、またフレデリック、ウォードがその Pure sociology の十四章に一新時機を劃して書いたのはかやうな假説に關する勞作であつた、その Pure sociology の十四章に於てウォードは婦人の位置の低いと云ふ明白な事實は、長い年月の默從の結果であると云ふことを明瞭に示してゐる、「利他的の感情に依て和らげられたのではない人間の理性の眞の産物」なるこの默從は男子の理性力の進歩が彼に男子は身體的により强い組織體である、彼はその情慾の滿

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

足のために婦人を使ふことが出來る、そして彼の仕事を強いてさせることが出來ると云ふことを語つたために固執されたのである。この時代の婦人の默從の開始はウォードに依てかく説明されてゐる。――「タイムの流れを下る吾人の永い旅路に於て吾人は今一の暗黒な場所に到着した、而して私はこの物語の中に空所を殘さないのならば、この記述を喜んで省略するであらう」これにつゞくハーバートスペンサアからの引用は名高いものである――「書物に殘つた人間の歴史に於て最も悲しむべき點は婦人の扱ひ方である、而して吾人はなほ一層悲しむべき點を發見する書物に記されざる歴史を有するのであつた。當時もつと怖ろしい――キャニバリズム、四人の慘刑、幽靈や神に對する犧牲の供物などのやうな多くのことはあつたけれど、それらは只時折のことであつた、之に反して婦人を虐待するのは一般で、そして終始不變で、そして殆ど想像の及ばぬことであるために私はこれを最も悲しむべき點と云ふのである。

　ウォードは云つた。「かやうな狀態が一般に信じられたのは怪むことが出來ない、併し私は特に男子が婦人を扱つた「動物的本能（Brutal）と云ふ言葉に對して反對しなければならない、あまりに多くの人間の罪惡は、今なほ男子の中に潜んで居る野蠻性に責任を歸するが併じ男子が婦人を虐待すると云ふ事は明らかに不正である、何となれば禽獸の男性は女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性を虐待することがない、そして男子のために婦人が濫用されるのは主として人間の德であるから」

それ故過去に於ける婦人の服從の境遇は男子の身體的支配に基くものである。コンドルセイは云つた。「婦人の位置の低いことは男子に依ての力の濫用以外に他の原因はなかつたのである」と。この男子(その人は婦人を虐待し、奴隷扱ひした)に對する婦人の位置の低いことは、初期の基督敎徒がネロや奉行(その人々は基督敎徒を獅子に投げ與へた)に對して位置の低かつたことよりもより大きくはなかつたであろう。

併し乍ら男子はその支配權を證明することを求めた、文學に於て、詩に於て、科學に於て、彼はその特權を主張した、「たとへばマホメット敎徒はその見解から綿密な觀察をした後に、婦人は靈魂の無い肉であつたと云ふことを決定した。…………この問題に對して悩ましく神經質的に考へるのが習ひであつた初代基督敎の牧師は一時婦人を人間の形をした罪業として宣言した」(Marriage as a trade, Cicely Hamilton) この宣言の最もよい例はローヤ法王インノセント八世の法令に依て出版された十五世紀の「魔女の斧」と云ふ書物の中に見える。婦人のためにソロモンが誘惑されたことを引用したあとでこの書物は次のやうに云つて居る「婦人は曲つた肋骨を以て造られたために、その全くの精神的の性質は、一方に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

偏よつてそして德よりも罪惡の方へと傾いた。」(Pure sociology) 初代基督教教會の教師の一人なるクリソストムが云つたことを引用すれば斯樣である。「婦人とは何であるか、友情の敵、避けられぬ刑罰、必要な惡魔、自然の誘惑、願はしい苦惱、不變の涙の源、光るニスに蔽はれた自然の惡い仕事に過ぎない」

この問題はチベリアス、グラシアスの言葉に依て完成されたのである。「もし吾々が妻を持たないで居ることが出來たならばこの厄介者を追ひ逐はれたであらうが併し自然は吾々が妻なくして滿足して生きることが出來ず、畢竟妻なくして生きられぬことを定めたために、吾々は一時の快樂のためによりも寧永遠の利益のために求めなければならぬ」(Social life at Rome W.W. Fowler)

文學の中にも婦人に關してこれと同じ宣言が表はれてゐる、現代の批評家アンドリウ、ミチエルはかう云つた。「男子は婦人についてごく少ししか期待しない。婦人は男子の側で深切を受けるのを喜ぶだらうと云ふ事、婦人は愛されるために自分自身を許すだらうと云ふ事の外、何事も期待しない」(Essays in Fallacy, P. 49) ニイチエはこれと同じ見解をもう一層強く云ひ表はした。「婦人をして玩具たらしめよ、岩石の如く强にして繊弱(もろ)くあらしめよ」「男子の幸福は I will なり、婦人の幸福は He will なり。」「汝婦人に走るか？汝の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鞭を忘るゝ勿れ！』『婦人は常に猫又は鳥なり、たかだか牡牛なり』

科學者は彼等の身體上の特質精神的の性質及び道德的價値について男子と婦人とを比較した。男子は鉛の多くのボンドを擧げることが出來る事、男子は婦人よりもより强い正義の觀念とより廣い統合の力を有することを彼らは發見した、科學者が馬鹿々々しい程充分に斷定した、男子は婦人よりも高等であるとか男子は婦人に優つてゐるとか云ふ事のすべては證據立てられた。願はくば如何、日出はそれが最初に來るために落日よりも美しいと云ふ事や、雄の孔雀はそれが大きいために極樂鳥よりももつと美しいと云ふことを斷定せぬのであらう。あたかもすべての道はローマに通ずるが如く、すべての議論は男子はより優れて居つて、そして婦人はより劣つた動物であると云ふ結論に導かれる。

かやうな推論はそれが基礎とする根據のために不條理とされるばかりでなく、兩性の間のあらゆる比較は明らかに無用である。科學者でさへも兩性の間には相異のある事に一致した。ハヴエロック、エリスはこの全問題を非常に苦心して分析した後で男子は婦人よりもノーマルから遙かに遠ざかつてゐる、故に男子は婦人よりも區々別々であると云ふことを決定した。併しカール、ピーアソン敎授はこの同じ問題を充分論じた後に婦人は男子よりも一層區々別々であると云ふことを斷言した。この男女優劣問題は屢々高等の學校で引

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

用される「金と鐵と何れが一層有益であるか」とか少なからず奇怪な問題「ワシントンはリンコルンよりもより偉人なりしことを說明せよ」と云ふことゝ同じである。「有益」と云ふことも「偉大」と云ふことも兩つながら關係的の言葉でそしてその上何れも何のきまつた槪念を含んでゐない、ぢきもとに返る性質のある、つまらぬ用語である。男子と婦人に關する比較上の「善」「優超」「大切」と云ふやうなことについての陳述の眞相は正しく是と同じことである。人は同じやうな容易さを以て金對鐵の有益に、ワシントン對リンコルンの偉大に、或ひは畫家の天才對詩人の天才に言及するであらう。男子と婦人とは違つて居る。ある特徵は婦人の中によりも男子の中により強く表はれて居る、ある他の特徵は男子よりも婦人の中によく強く表はれて居る、併し「善」とか「惡」とか「優れて居る」とか「劣つて居る」とか云ふ槪念はハヴエロック、エリスが云つたやうに「絕對に無用で馬鹿げてゐる」故にそんなやうな比較は吾々の議論の中にとりあげられぬのである。

　この婦人と社會の進步の議論に於て、吾々は徹頭徹尾男子の能力に對する婦人の能力の關係をとり扱はないが併し婦人の能力がその機會に對し、その成功に對する關係をとり扱ふのである。もし婦人が能力を有するならば、偉業を爲すことが出來るならば、然らば婦人は個人として人生のドラマの中に一つの役目を果すことが出來る。世界は仕事に充ちて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐる、その仕事の多くは畢竟婦人に依て爲されることなくんば、爲し得られぬであらう。婦人が仕事に對する能力を持つと云ふことが示されるならば、社會正義のすべての關係と社會進歩のすべての必要とはこの機會とこの能力とが相まつて婦人の偉業を幾分か確かにすることを要求する。後章に於て吾々は婦人の力がもし機會を得て集められたならば必らず偉業を起すであらうと云ふこと、故に婦人はたえず進んで行く文明の先驅の中に個人としての位置を占むるであらうと云ふことを證明しやうとするであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

兒童の世紀

エレン、ケイ著
山田わか譯

第二章

未來の子供と婦人の勞働

現代生活のうちの種々なる要素の中で婦人問題程理論と實際がかけ離れて居て、しかも其れが無意識のうちに見のがされて居るものはない。婦人運動の首唱者は大抵の場合、硬直な基督教徒である。そして彼等は、力と活動を含有する人格の解散に彼等が干與し得ると云ふ考へには極力反抗して居る。彼等は個人主義及び自我主張を罪惡を意味する墮落した言葉だと思ふて居る。彼等は、又、婦人運動は實際に十九世紀の最大の利己主義的な運動であり、有史以來の最も烈しい自己權利の主張であると云ふ事を悟つて居ない。彼等は婦人の力及び人格に對する自由を、自己主張と云ふ意味ではなく、唯正義のための理想的奮鬪として、又貴き勝利として見て居つたのである。其の最も深き意味に於て、この運動は他のあらゆる自己主張の盡力と同じで、その目的は、自由の範圍内に於て、能力の充分な發達に付ての人格の權利を確める事である。この自由の範圍に到れば責任は又各個人に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

屬するのである。けれども個人、又は一階級、或は又一種族のあらゆる、かやうな主張は不條理な利己主義に陷り易いと同じやうに、婦人運動も亦其の弊に陷り易いものである。

婦人解放に對するこの大なる深い嚴肅な運動は、後には婦人問題と云ふ新しい、名を得た。この名稱の變化は思想の態度の變化を意味して居る。本當の解放運動、則ち、婦人の制限された力、制限された人格を自由にする運動から、この運動は一つの問題となり、役員をもつた社會制度、信仰箇條をもつた敎會制度と云ふやうなわくに入れられてしまつた。實に我々は書物に於て、演説に於て全人類の幸福及び發達に關聯した婦人問題が論ぜられ奬勵されるのを聞く。けれども實際にはこの婦人問題が一事實、則ち、それ自身の目的をもつ一主義となつて以來、この運動の首唱者等は、當時の他の大問題との其の關係の價値をだん〳〵と見失つて來た。故にこの問題は唯市民權及び婦人の勞働の範圍を增加するやうに傾いて居る。この兩方の場合に於て、人は實際には上流階級の婦人を主にして考て居る。この市民權及び勞働範圍の增加は今迄の目的であつた。そして其れは正當な事であり又正當とされべきである。けれども、この目的に向つての奮闘中に、この目的を目差す人々は、あらゆる權利のうちの最高な、そして、第一にもたねばならぬ權利とは益々遠ざかつて來た。其の、一個人としての婦人がもたねばならぬ最高な權利とは、彼女が彼女自身

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の思想を考へ、彼女自身の道を進んで行くのである。

これは婦人の權利擁護者の考へと大分違つて居るかもしれない。この一派の婦人運動者は、一方に於て、個人としての婦人のもつて居る自由を承諾する事からは甚だ隔たつて居ると同時に他の一方に於ては婦人の自己主張の結果に付ては盲目である。彼等は外的な方面にのみ心をそゝいで居つて、現代の勞働界の狀態の上に、人間と家族の生存の上に、又全體としての社會の上に、この運動の深い革命的な結果に付ては盲目である。

婦人に關する法律の不公平な條項を取り去つた事や、以前には僅か十人計りの婦人が占有して居た勞働界に百人計りの婦人が入りこんだ事や、又以前には一人も婦人が居なかつた處に一人でも婦人が這入つた事など、これ等は女權運動の進歩の里程碑（マイルストン）である。けれどもこれは女性の能力、性質及び周圍の狀態などには思慮する事なく追求された方面である。

婦人の權利を絶叫する或る勇者が、或る一人の婦人の屠殺者になつたのを聞いて、他の婦人達に「あなた方も進んで同樣な仕事をなさい」と云ふた事や、又或る一人の若き亞米利加婦人が死刑執行者になつた事などはこの關係に於て最も特色ある現象である。

今日の婦人解放は、もはや魂と心を大きくする性質の自由ではなくなつた。何故ならば其れは全く官制的で、營業的で、そして又獨斷的である。温き人生の根本には觸るゝ事な

く、唯、全く利己的な自己中心の運動となつた。其れ故、婦人の解放を切に希望して居るにも拘らず、私は、他の幾人かの人々と共に、この運動には干與らないのである。女權の首唱者は、他の人權に對する運動の首唱者の如く瑞典の諺の眞理をよく說明して居る。それは「我々が、他人の逃げ馬だと思つて追ひつゝあるのは、實は我々の荷車につけられた馬である」と。如何に盲目的に女權の熱狂者が時代の他の必要に迫まられて跳び廻つて居るかは、今日の大問題――私は社會問題を意味するに對する彼等の態度を見れば、最も明瞭に計り知る事が出來るのである。

舊い、女權擁護者は、成人した婦人は彼女自身を保護するために、成人した男子と同等な權利をもたねばならぬと主張する。そして又彼等は、婦人は結婚したからとて又小供があるからとて働いてはならぬと云ふ理由が何處にあるかと問ふ。彼等は又云ふ。保護的法律は大工場からも小工場からも婦人を逐ひ出す。そしてこの法律は婦人を扶助する事からは甚だ隔たつて居る。故に、婦人と男子と同じ保護的法律を要求せねばならぬ。とそして彼等は婦人のために技藝敎育と勞働の範圍擴張とを要求して居る。

この議論は、婦人の勞働範圍の制限は現代に於て最も要用な原則の一つなる、個人の自我確定に反して居ると云ふ見解から見れば、其れは論理に叶つて居る。これは成年男子と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

同じやうに成年女子の職業選擇の權利を含んで居る。けれども性の理由の上の特權が、法律の前に、婦人を男子と平等にする事を妨げる。

凡てのこれ等の議論は、婦人運動の全體を亂して居る詭辯的な觀念の上に其の基礎をもつて居る。この觀念は、婦人の生付の制限を婦人から取り去ろうとして居るのである。其れは又他の詭辯的觀念をも含んで居る。この詭辯的觀念をもつて、資本主義の社會は、男女、及び子供に對する保護的法律の凡ての要求に、對して居る。そして、かやうな法律は個人の選擇の權利に干渉して居ると云はれて居るのである。

誰でも社會的に目の開いて居る人は、この自身の生命を支配すると云ふ權利は資本主義の基礎の上に築かれてある社會に於ての實情を語る、空虛な言葉である事に、氣が付く。けれども其れが婦人に關する場合になると其の空虛は二倍になる。婦人は男子と同等な市民權をもち得るによつて、婦人も亦男子と同樣、徵兵の義務を果すべきだと婦人が希望したのを私は未だ聞いた事はない。けれども、もしそれを希望する婦人があるとすれば、それは、婦人が女性であるからと云ふて徵兵を逃れる特權をもつ事は出來ないと云ふ議論の結果であるであらう。軍事訓練のために失ふ時間及び其の不愉快から、又戰爭の危險及び其の恐怖から免れると云ふ事は近世社會に於ける最大特權である。婦人が軍事服務に絕對

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に不適當ではないと云ふ事は多くの場合に於て、殊に南亞戰爭に於て婦人がよく證據立てゝ居る。故に女權主張者が彼等の主義のこの極端な結果に逡巡し、そして婦人が戰時に於ける軍事服務から逃げる特權の有力な理由として母の作用を持出す時、(いつかは婦人が今男子の享有して居る市民權を得べきではあるが)彼等は最高度の矛盾をして居るのである。他のもつと論理的な婦人は又宣言して云ふ。戰爭よりも猶破壞的な工場と云ふ戰場に於ては母の作用が婦人に對して或る特權を要する。そしてこの母の作用は、彼女の生活を支配する個人としての權利の或る制限に服從しなければならぬ事になる。則ち彼女は、自然が女性に與へた制限を、未來の子供の權利を侵害せずには、通り越す事が出來ないのである。

結婚を避ける事、或は又、親子になるのを避けて結婚しやうとする事は、男子と同樣、個人としての婦人の自由選擇である。親たる重き負擔から免れやうとする動機に、ほんとうの利己主義と本當の他愛主義との二つがある。又彼女の自我發達及び彼女の行動の自由に障碍であると認めるものから遠ざかり孤立するのも、男子と同樣、個人としての婦人の自由選擇である。もしこう云ふ見地から、戀愛及び母態を見るならば婦人は戀愛も亦子供もなくて差し支へはない、もし彼女が其れを最高な幸福と見るならば、彼女は第三の性、則ち勞働蜂或は無性蟻になる權利は充分ある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

大多數の婦人のためには母態が生存の中心要素である事を、私は長い以前に旣に主張して居た。この問題を論ずるに當つて私はいろ〳〵の事物に就て考へて見た。則ち、必要に餘儀なくされだ婦人の勞働、又能力の自由に刺戟された婦人の功名心、或は又時代思想の影響によつて變化を受けた婦人の智的生活、こう云ふ事が先づ暫くの間、婦人の母たるの本能を覆ひかくして居た。そして此處に危險はひそんで居たのである。今こゝに、其れを說明するのも、あながち遲すぎはしないであろう。世間には戀愛の感情を實際に又絕對にもたない婦人がある。又彼女の正しい要求である精神的な深重な愛の對者を近代的な男子のうちには見出し得ぬ婦人もある。又戀愛を志望して、それで母態を嫌ふ多くの婦人もある。そう云ふ婦人は絕對に母態を恐れて居る。獨逸の有名な女流著者ガブリーレ、ロイテルはこの恐れに付いてこう云ふて居る。母態に對する恐慌は婦人をして常に用心深く敏捷に且つ自己防衛の態度をとらしむる。この恐慌は現代の多くの奮鬪的な創造的な婦人達を襲ふて居る。この恐慌及び忌避は婦人のうちに非常に强く働いて居るので、人は其れを闇黑面の邪惡な本能――凡ての他の不自然な本能の如く、これは慘酷な必要を通じて生れたもので、又必要であるが故に服從しなければならぬ本能――だと信じる事が出來るやうになつた。それは恰も婦人のうちの奧深いところの秘密な聲が彼女等に、性の要求に從へば婦

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人は彼女等の力、則ち光澤及び彼女等を高める智識の鋭敏さをも失ふ、とさゝやいて居るかのやうである。故に恐らくは或る種類の婦人がこの恐慌をもつのは至當な事であろう。と

病氣並びに健康の諸現象は必ず或る一定の原因から結果して居ると云ふ事を、私は前述の獨逸の著者と同じやうに、信じて居る。そして人は彼等自身の如何なる種類の發達でも幸福でも、或は又墮落でも、自由に選擇する權利をもつものである事を、私は今日迄のどの女權主張者よりも、多く信ずるものである。とにかく私は母態を避けやうとする婦人に付てはこの先き何にも云はないつもりである。

子供の柔かい手を握つても可憐の情を催す事の出來ないやうな婦人、又、他の個人――子供――のために全く自分を忘れる事の出來ないやうな婦人がもし母になつたなら、それは大なる不幸であらう。又そう云ふ婦人の子供は婦人自身よりも猶一層不幸であらう。

こう云ふやうな婦人は今日に於ては少なくない。そしてこのまゝの狀態がつゞけば、そう云ふ婦人の數はます〳〵殖える計りである。だが彼等のうちの或る婦人の母たるの本能は全く死せるのではなく、唯眠つて居るのである。

心理解剖の能力のある、生理上、心理上の敎化を受けた現代の婦人は度々男性の無智、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

粗野、及び押付けがましさには反撥される。こう云ふ婦人の愛の凡ての因子は、決して開く機會をもたなかつた蕾のやうに、縮まつてしまつて居る。則ち彼等は愛の眞の目的を拒み、或は見逃して居る。そして彼等はそうした犧牲を、或る義務に對する熱心や、又は同性の友情でつぐのうて居る。しかし、こう云ふ事は早晩悲劇に終るものである。

母態となる慾望を全く棄ない女性は、少女として、猶それ以上に婦人として、未來の子供に對する義務をもつて居る。そして其の義務から逃れやうとすれば其れは絕對の手前勝手である事を私は、唯、主張したいのである。この手前勝手は、度々、種の保存の衝動の如くに、人生を支配する大なる衝動に變裝する。則ち手前勝手を自己保存だと言いなして居る。現代の勞働婦人のこの止むを得ぬ利己主義は、婦人解放に熱中して居る人々の目に恐しいものに見ゆる筈であるが彼等は其處に氣が付かない。

餓死を免れるために、最低の生活を營むために、駄馬のやうに婦人が勞働する時、彼女自身を支配する個人としての權利に就て、婦人の自由を論じたり、又婦人に對してと同樣男子に對しても職業の自由撰擇は空文である今日の狀態に於て婦人の自由を論じたりする事は最も穩かに見ても、それは無意味である。其の所謂自由に付て私は次に少しく說明を試みて見やう。

英國の白鉛製造所に婦人が働いて居た時、或一製造所に於て七十七人の工女がしらべられた事があるが、この時のしらべによると、この人數のうちに九十度の流產、二十七度の死產があつた。其の上に母體にある鉛毒を受けて生れたゝめにヒキツケて死んだ幼兒が四十人あつた。實にこの職業は十八才から二十三才位迄の婦人に最も有害であつて、こう云ふ種類の職業から跛、盲目及び他の疾病が結果するのである。

或る英國の醫者が何年かの精密な研究の結果を發表して云ふ。製造業地方に於ける莫大な小兒の死亡は、重もに、生れて二三週間の後には生母の注意を缺く事に原因して居る。嬰子は少なくとも生れてから六ケ月間は生母の乳が必要である。母の乳は如何なる人工的な方法にもかへられ得べきものではない。まして、其の人工的方法が不注意に用ゐられた時には其の害は恐るべきである。たとへば、ノッテングハムに於ける、レースを產出する、そして其の地方の人々が婦人の勞働制限の法律を苦情云ふて居る、其の織物業地方に於ては、全體の子供の二割づゝは年々死亡して居る、製造所地方は農業地方の四倍或は五倍の小兒死亡率を出して居る。けれども小兒の死亡は比較して云ふと未だ其の禍が輕いのである。もつと不幸な事は、生き殘つた子供は其の幼年時代に母の注意を受けなかつたゝめに或る不治の病を得て一生涯苦しまなければならない事になるのである。と

シレシアに於て、少年少女が硝子製造に雇れる處では、其の仕事が彼等の身體の構造を變曲してしまう。

故にこの製造に從事して居る女が産蓐に入つた時には其の苦惱は激甚である。これは産科術の研究に無比な材料となるので多くの醫者ははる〴〵シレシア迄出かけて行つたものである。

女權主張者の意見の通り、もし婦人が自己保護の權利を、彼等が成熟する前に得たならば彼等は生理的に滅びる事になる。もしこれ等の事實が婦人の保護に關する問題でなく、兒童保護に關する問題だと云はれ得るならば、其の解決は比較的容易である。兒童の生理上及び德義上の利益は婦人のそれ等と相互に深く關係して居て、この兩者を別々に離して考へる事は不可能である。蹇の婦人が生む子は發育不十分でイヂケて居る。反抗力もないやうな虛弱な體で勞働の重荷を負ふて居ると、其の虛弱は子供に遺傳する。この原因結果は最も密接に此處に關係して居るから、我々は正確に婦人勞働と兒童の勞働との間を區別する事は出來ない。

女權の主張者でも權利に對する彼等の請求の制限を、他の個人――子供――の權利の始まる處に見出さなければならない。自分の庭を作るために隣家所有のものを取つてもいゝ

と云ふ處迄、婦人の個人としての權利をすゝめてはならない。或は又、他人に屬する水力の一部分を自分の仕事に用ゆるやうな事が出來ると想像してはならない。

女權の主張者は、婦人の個人の自由としての權利は他の個人――未來の子供――の權利に制限されて居ると云ふ事を見ないであらうか。未來の子供は子供自身の固有の權利と活力とをもつて居るが、この子供の權利を、前以て侵害する權利を婦人がもつ事は出來ない事を彼等は見ないであらうか。

或る動機から、其の動機の大小に拘らず、婦人が結婚を避けて、勞働に從事し、其のために自身を破滅に導く事は彼女の自由の權利である。もしも、そうする事によつて、後に他人の厄介にさへならないのなら其れは差し支へない。

けれども母になる事を期待して居る婦人は、勝手な過度の勞働によつて、或は他から無理しいに負はされた勞働によつて、未來の子供の生命及び能力を犠牲に供してはならない則ち、後に世人から輕視されるやうな虚弱者、病者、又は生理上不完全な子供を生んではならないのである。

自身の一生を制裁する婦人の個人的自由に對する主張、則ち、結婚をして居るから、子供があるからと云ふて、婦人の職業選擇の權利は、如何なる制限法も、これを制限する必

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

要はないと云ふ主張は、子供に計りでなく、婦人自身にも最大な傷害だと云ふ事が女權の獨斷的な主張者には氣が付いて居ない。自然が不平等につくッたものを人間が平等にしやうとする事は、必然、弱者の上に害を及ぼさずには置かない。平等にする事が正ではない却つて、事實はそれとは反對で其れが大なる不正に陷る事は度々ある。

現代が呈出した解決法なる一致共同と云ふ社會的感情の影響を受けて居ない、舊式な個人主義の見地から婦人の勞働を論ずる女權の主張者には、如何なる强固な論證をもつて行つても、彼等の其の非を悟らせる事は出來ない。幸に保護的法律は女權主張者によつてつくられるのではなく、それは各階級の男女に援助される勞働者の運動がつくるのである。

其の結果、勞働時間の規定に對する運動は確實に其の地盤を得つゝある。短時間に勞働を烈しくする事によつて、長時間に於て仕上げられるだけの仕事が出來ると云ふ事は經驗によつて明かである。第一に考へなければならぬ事は子供及び若年者の勞働に付てゞあつた。又婦人の健康並びに彼女等の子供の上に及ぼす工場生活の影響は世人の注意を惹起して、最初英國に於て、次で歐洲諸國に於て、婦人の就業時間の規定が男子と同樣、必要と認められて來た。其の規定の要目は三ッであつた。そして今日でも猶それがつゞいて居る。則ち、婦人の最長な就業時間、婦人の夜業を制限するか或は絕對に禁ず

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る事、又健康に危險な性質を帶ぶる產業及び鑛山內に於ける婦人勞働の禁止、最後に姙娠者の保護等である。今、歐洲諸國に於て婦人の勞働の最長時間は八時間から十一時間である夜業鑛山內の勞働及び臨時の勞働は禁止になつて居るか或は可なり制限されて居る。そして又三週間から八週間の休暇が產蓐に入る婦人のために既定されてある。

凡ての點から見て、一日八時間の勞働は婦人の就業時間として最長である。これは男子の勞働に對してよりも婦人の場合に於て多くの理由がある。八時間勞働は男子に對してと同じやうに婦人に對しては永久の健康を享有する事を意味する計りでなく、それは精神の向上を計る餘裕を得る事になる。殊に既婚婦人にとつてはこれは缺くべからざる要求である。この時間がなかつたなら彼女の家庭はみだれて家族の慰安は皆無になる。彼女の子供は生理上の注意を受ける事は出來ない。彼女は子供の敎育に力を添へる事は出來ない。故に勞働時間の規定は男子によりも婦人に必要である。何となれば家事の重荷は重に婦人の肩にかゝつて居る。夜業及び鑛山勞働の危險は、健康及び道德の見地から、あまり明瞭でこの場合に於ける保護的法律を辯護する餘地はない。

けれどもこの法律に對する反對は女權主張の理論計りではない。女權論者と同じやうに社會主義者も、其の反對の性質は異ては居るが、一層强く其の法律に反對して居る。社會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

主義者は云ふ。その法律は無職の婦人を多くする。そしてそれ等の婦人は生きるために賣春婦にならなければならない。と、けれどもこの議論は、勞働婦人の過多の結果なる安い賃銀は矢張り同じ運命に婦人を導くと云ふ事を忘れて居る。又、彼等は云ふ。保護的法律が婦人の職業を妨げるならば、婦人は子供を養育する事が不可能になるから、彼女等は自分の替りに子供を工場に出すやうになるであらう。と、けれどもこの難題はすぐ解決がつく、十五才以下の子供の勞働を禁じればいゝのである。

又、こう云ふ反對論もある。もし婦人が法律によつて彼等の職業を妨げられるならば、その結果は彼等が保護されるのではなく、職業が保護される事になる。と、この場合に於ける救助法は確に困難である。けれども不可能ではない。今日婦人が勞働の自由權を得るために騷擾のうちに費して居る精力の十分の一を、彼等に適當な職業に彼等を準備するために用ゆればいゝのである。もし、又、それすらも出來ない場合に於てゝも、保護的法律はその法律から生じる缺陷を補ふ力をもつて居る。保護的法律は常に職業を破壊するやうに論ぜられる。新しい製造法や新しい器械が安い勞働力に替へられる。其の結果、保護的法律に保護されて居る人々は其の法律のために經濟上苦しまねばならぬと云ふ苦情を度々聞く。けれども、産業要案が相互に利益を與へる結果は、一時の苦しみも、いつか平均が

とれるやうになる事は長い經驗がそれを證明して居る。保護的法律のこの結果に對する有力な救濟は職にはなれた人が仕事を得る權利及び賃銀の最少減度を規定する凡ての勞働團體の項目のうちに見る事が出來る。これ等の要求が勞働時間規定の要求と相まつて――この規定のうちには日曜日及び夜の休業、又勞働者の怪我及び老年に對する保護も含む――男女勞働者のために解決せねばならぬ重なる問題である。これ等の要求がいれらるる迄はラスキンの近代産業制度に對する評言、人間のうちの本當の人間性を殺す制度が、男女勞働者に對して當を得て居る。ラスキンは又云ふ。我々現代の人間はあらゆるものを製造する。けれども本當の人間をつくる事はしない。我々は綿を晒して白くする。

我々は鋼を硬くもするし改良もする。我々は砂糖を精製する。我々は磁器をつくり書物を印刷する。けれども一個の生きた魂を矯正したり改良したりする事は、決して我々の利益の計算の中には這入つて來ない。と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みちのくの雪

原阿佐緒

かりそめに病める兒抱き日あたりにする〻この中の金絲雀をきく

久方の空より地につくつかでおほかた消ゆるはつ〱の雪

雪降ればわれこの家に封じられ果む運命をいよゝ知るかな

あきらめよ都のぼりをあきらめよとて降るごとしみちのくの雪

雪降るよとて疾く兒をばかき抱き寢る夜淋しもわが山住ひ

氷雨降る頃としなれば思ひ出づることの多かり身は獨り居て

初雪の降り止みし頃かなしみのわが窓を訪ふ友の文かな

ひとそらの文よりえたる悲しみの忘られもせず初雪の降る

もの書くもうしひたすらに君思ひ泣きてありたきこの一日かな

夕されば門邊に立って子守唄するならひさへ久しくぞなる

白壁をそがひに咲ける紅薔薇のあかきがごとくいちじろき戀

乳を含くむ吾兒が和髪かいなでつ君を思へり夜の焚火に

湯化粧も身にわびしけれ雪の夜の焚火の前にひとり座れば

訪へばまづ畫の具の染みし手に吾兒を抱きし人をふと思ひ出づ

碁の石の指先によき觸れ心地寂しきまゝに並らべても見ぬ

君が掌のぬくみ移れる碁石をばふと握りても見たき氣まぐれ

忘れ居し人のひとりをゆくりなく思ひ出けり君をふと見て

めづらかにあかるき顏の吾をしも鏡に見つゝふと恐れけり

はしたなき自棄につぎわがあきらめのおそひ來る日は命死ぬべき

忘られて忘れてともにやすさをばおぼゆる日來ば一大事ぞも

かなしくも君に知られぬ心をば抱きてつひに捨てられもせん

朝の閨はしき寢息もきこえ來る心地に戀のそそらるゝかな

見せばやな都のはしきをとめより君が兒の瞳の淸らけさこそ
うす暗らき燈火のもとに山風をきゝつゝ君が妻の書く文
黑髮もなほゆかたかなれ君を見む日を近かみかも兒もすこやかに
君が兒をおほしたてつゝたゞひとり打ちも行く身はなほ惜しまねど
たま〳〵に淋しと君の書きこせば何か笑まるゝ勝ちえたるごこ
わがあらぬ君が家居にのこし來し玉くしげさへ塵に染みけん
腹立たし親の一語に亂されしよき幻影のまた浮かび來ず
生きてわがなすことのみな値ひなく思はれて來しことの寂しさ
吹雪するあさけの窓に見る山の今日は見えずも淋しわが兒よ
みちのくの冬は淋しもましてわがひとりゐにふる雪は日にけに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

海に行く弟へ

山田邦子

いつかゆつくり話さう〱と思ひながら、何んだか機會がなくてとう〱話せなかつた。船に乘りこんだばかりには氣も落ち付くまいから、船醉ひもすんでそろ〱船に慣れて來た頃、故鄕の事など思ひ出されるやうな時に此手紙を落ち付いて一讀して下さい。

めつたに逢はなくても、又逢つても別だんこれといふ話をした譯でもないが貴方が東京に居るといふ事は何か私の「力」でありました。一年も二年ももう海に行つたきり歸らないかと思ふと前の事などいろ〱思ひ出されて何んだかやたらに名殘惜しいのはいつもの私のくせでありませう。何事に對しても執着の强い未練の深い私と笑つて下さい。けれども亦一方に貴方がいよ〱其新生涯に入る事に成つたのだと思ふと、殊にそれが陸と海、といつたやうな步む處さへ異つてゐる全くの新生涯に入るのだから貴方としてはさぞ氣持のよい事だらう。種々の意味から何かしら氣もいそ〱とするだらうと充分に察して美しく思ひます。

それらについてはいくら言つたつて同じ事だし又言つた處ではじまらないから止めませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

う、私はたゞお別れと言をふか、新生涯の門出のお祝ひのしるしと言をふか、とにかく此聖書を一冊贈ります。然しこれを贈るからつて私は何んにもキリスト敎の聖徒めいて所謂道を說くやうな意味から贈るのではありません。貴方と姉弟でしかも罪深い迷ひの多い人間の私として「此書はたしかに大眞理大意義を含むだ本だから人間としてお互に死ぬまで研究(?)しませう」といふやうな意味でお贈りするのです。

私は貴方よりもより以上神の御前に罪の深いものであります。だからそれだけまた又苦しみを持つてゐますし又苦しんでも來ました。それだから又それだけ貴方よりも種々の經驗をふんでゐますし（と言つて何も自分の罪人である事を誇つてゐるのではありません、こんな事は言はずと分つてくれるでせう)。―其心から暖かに貴方を考へて、感じてゐる事は少しばかりお話して見たいと思ひます。

貴方の此度の病氣はもとより輕いもので、殊に海に行けば必ずといふ位治るといふ事をきいてから其點では私は深く安心してゐます。けれども亦神經質な自分から押して、たとへ輕いにしろ、さういふ病氣にかゝつたといふ事は貴方としてさぞ不快であらうし又悲觀であらうと心から察し、同時に私も貴方の爲に悲しんでゐます。けれども私は又一面に非常に殘酷なやうではあるが貴方の爲に感謝するやうな心もあります。それは從來のまゝの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

貴方であれば非常に悲しい事だけれど、拘くもあの病氣其ものは、貴方の心髓に安夢をむさぼつてゐた魂に警告を與へるものとなつたに相違ないと思ふから。眞の人間として生きてゆく、卽ち眞に生きてゆく自覺を握られる爲に私は或る意味から感謝してゐるのです。

自分よりも年の若いものをつかまへてこんな事を言ふのは或は無理かもしれないけれど、貴方があまりに苦勞を知らないで成長して來たのを思ひ又其まゝで成長してゆくのを見て私は一年も前から可成り氣にかゝつてゐました。それは一面にはほんとうに願はしい、美しい事でありますけれど其願はしく美しい事は要するに子供を見た時、花鳥などを人間が見た時の心持であつて、願はしく美しく思はれる其もの自身は或る意味から獨立して生たものではないと思ひますから。唯一つのものが足りないのですから。それは卽ち生た魂、自から生を握つた魂であります、さうして此一つを完全に握るためには其美しいもの純なものも破られねばならぬ事もあり汚がされねばならぬ事もあります。之が自から「罪人なり」と思ふ人間の苦い有難さだと私はかく思ふのです。其一つを完全に握つた處に神があり其一つが眠つてゐる處に子供のやうな、花のやうな美しさがある。其不朽と此美しさとの間に後れ先きだつて人間が生きてゐると私は思ひます。行着けるか行着けぬかは死ぬべき人間の現在で押し測るべき事ではない、唯吾等は步み續くる人でありたいと思つてゐます。低

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い處にうづくまつて、亦夢を貪る人でありたくない、生きた人間として歩んでゆきたい。

私は去年の八月頃まで死の恐れに襲はれ、自分は間もなく死ぬやうな氣がして人知れぬ非常な煩悶をしました。人が聞けば可笑がつて、いゝ茶話となる位私は病的に死を怖れ嫌つて、時には居ても立つても居られぬ程の思ひとなり、空をゆく雲を見ても女の兒のかけてゐる赤いリボンを見ても、何を見ても何を聞いても只悲しく恨めしく、何となく自分とはかけ離れて、明るい生を喜んでゐるやうで、自分一人が賴りなく、恐ろしい力に引さらはれて行かねばならぬ運命に迫られてゐるやうで、私はどうする事も出來ぬ苦惱に、石の上に座して滅びゆく運命をたゞ祈るやうな心で祈つてゐました。それは神經衰弱の爲でもあつたでせうが又私は私の魂が身體の成長する割合に成長する事が出來なかつた不調和から來た甚だしい衰勞の爲であつた事をやつと此頃知りました。とてもお話にならない亂離と絕望が私を地の底にねぢ伏せてしまひました、光りのない力のない、陰欝な沼のやうな生活に私はだん〴〵魂の變つて滅びてゆくのを覺知しました。此望みない私を根底から引あげてくれたものは此聖書でありました。私は不信仰もので又强情で我利盲ですからほんとに神の誡めに背いてゐる事は今もなほ毎日〳〵澤山であります。又私は自分を僞つて暮してゐます（それを思ふと苦しいけれど）しかもなほ此やうな私にさへ生の永遠をさゝやき示

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して下された神、生き甲斐ある生を示して下された神はほんとに感謝すべきであると思ひます。始めから「生命」が大事でない人は始めから話になりませんけれど、然し口にこそどんなに「生命」を何んとも思はぬなど〻、言つても、それはたゞ氣が付かないのに過ぎないので、死ぬのが厭でない、生命の大切でない人は凡らく半分もないと思ひます（其くせ私はよく死ぬ事は何んとも思つてゐないといふ人に逢ひます、）貴方も曾ては「生」其ものをそれ程痛切に感じてはゐないらしく、又さういふ事を口に出して言つた事もありました。然しそれはたしかに貴方が氣が付かなかつたに過ぎなかつた事を、胸を病んで今始めて知つたでせう？私はそれで感謝するのです。或る人の父親が其子に「己れは無宗敎だ」など〻言ふ事を威張つて人に話すな、「人間に宗敎のないなど〻いふ事は恥しい事だ」と言つたと言ふ事を私は其子の人から聞きました、さうして深く心を動かされました。ほんとにさうだと思ひます。それは半可通をふり廻ししていやにてらつて見せるのは厭味ですけれど、然しそれでもなほ今の私はかう言ひます、それでもなほ全々無宗敎を鼻にかけてゐる人間より取りどころが有ると思ひますと。其人が心底から自分を僞つて神の名を稱え人を欺くとなればそれは惡い事ですけれど、おつちよこちよいでも何んでも半分きり分らないのにチヨク／＼と神の名を稱えるとも之等の人は又いつか救はれる時の有る人ではなからうかと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は思ふのです。神の御目より見たらば分つた人だつて半可通な人だつて、智識の點では五十歩百歩、たゞ後者に眞の謙遜が加はりさへすれば神は喜んでめでゝ下さりませう。まして貴方はどの道から言つたつて、おつちよこちよいといふ人ではない、それを思ふと私は非常に心強い喜びを持つて之を是非とも貴方にあげたく思ふのです。どうぞ一句づつの拾い讀みでもよい、分らなくてもよい、續けてよまなくてもよい、氣の向いた時だけでよい、何でもよいから只始終自分の側に置いて讀める時讀んで御覽なさい、自分が何か問題を持つて來るとウネ〳〵と波の打つ樣な底力を持て始終生きてゐるものが此書の中に動いてゐる事がいつかは分る事を信じます。其意味の深さは言ひ盡せるものではありません。

あゝ神の智と識の富は深いかな。其審判は測りがたく其蹤跡は索ね難しといふ事がロマ書といふ所のなかにありますが此の言葉の持つてゐる意味は實に吾々の血の一滴にもふくまれてゐる事が分つて來ます。神の能力の絶對で、しかも全智全能なる事が分れば死も自から心安く力強く生てゆく事が出來ます。

私が私の性質からして一番心引かれて讀んだのは四福音書中のヨハネ傳と、書簡のうちではロマ書であります。ヨハネ傳の始めに「光は暗きに照り暗きは之を曉らざりき」といふ句がありますが之こそ萬人を貫いてゐます。貴方も亦神の造り給ふた魂を持つた人。たゞ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それを曉らないだけです。丁度生命が惜しいといふ事が内に有つても分らなかつたやうに然し又貴方はいつものくせで「分らなければ分る時の來るまでうつちやつて置く」と思ふ心があるかもしれませんがどうぞ魂の事だけはそんな呑氣な事を思はないで下さい、それは分る時が來なければ分りますまい。然し日頃の研究はいよ〳〵分る時が來た時其なかゝら握り取るものを大きくします。ほんとにしつかりしたものにします。日頃の研究が怠つてあると、いよいよの時に十歩ふみ出せるものなら一歩きりふみ出せないでまご〳〵としてしまうのが常であります。かう言ふと氣を惡くするかもしれないが此度の貴方の病氣についてもやゝ其感のないではないやうな氣がしました、まご〳〵しても前へ一歩づゝでも出さへすればいゝけれど、どうかすると妙にそれてしまう事がないではないと思ひます。さすればそれは其人がそれだけ「生」を淺く渡つて行つたといふもので其人として爭はれぬ愚かさであると思ひます。貴方がそんな方へ行く人とはそれは思はないけれど、どうぞ此機によつて心にも更に心を入れて生命について研究(此言葉はあたらないかもしれないが)して下さい。こんな事を言つたつて私だつてまだ分つてゐても肉體がなか〳〵言ふ事を聞いてくれません、そこに私の苦しみがあります。唯お互にほんとうに氣をつけてどうか生き甲斐のある一歩一歩を固めてゆきませう。ではお大切にね！これだけ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

廢驛の夕

齋賀琴

家を出でゝタイピストにならむとふと思ふこのさびしさのきはまりもなし

ひえ〴〵と澄み渡りたる初冬の海見てさびし漂泊の身に

頼朝が旗擧げせりし伊豆の山今たゞ松の生ひ茂る見ゆ

廢驛の夕べはさびしチャルメラのかなしき笛と冬の入陽と

親よりもはらからよりもなほ深くたのめるものをあはれ師の君

運命の一すぢの道ふみかたく師を泣かしむる不孝の子かな

伊豆の國蜜柑畑にあか〴〵と冬の陽照りて水の音する

濠ばたの草はかなしくこがらしに吹かれてありぬ別離の夕べ

こし方のかなしきこともうきことも一夢のごとし君とわかるゝ

何事も世にいとをしき師の君のおほみことぞと思ひさだめむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

草笛

三ヶ島葭

身に堪へぬ重きうれひを招くまで我てふものを恃みてありぬ

あさましきおのがむくろを世におきてわが見ることか生くるといふは

我のみが君をば思ひ我のみが君をば捨つる心地するかな

うつくしき心もなくて絶るのみ思ふといふも悲しかりけり

いましめを解きたる人のそのほかの誰にか我の捉へらるべき

こころにもおのが口にもなしがたきものか苦しくわが求むるは

君によりかよわきものとなれるとき心亂れて君をさへ打つ

あぢきなしかかるまことのつぶやきも君を思へばあやしくなりぬ

胸を刺す悲みのみぞよみがへるこの日心の貧しともなし

心ゆえ幸ひをはたかなしみを知るてふことは人に知らゆな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづからをまだはかなしと思はざるその時已に涙流れし

いたづらに待ちたる故か忘れたる心のごとくむなしくなりぬ

かのこともこのこともとくなしをへん然る後ぞとものだのみする

夜も晝も寄りそふ君になつかしさふと迫るこそ寂しかりけれ

おのが非を見じとするごとおのづから涙に閉づるわが目かなしも

日もすがら默してありし心すら思ひいづれば美しきかな

みにくさの日にあらはるるわが心目には馴るれどすべなかりけれ

涙して恨みなげける人よりも忙しき人はいたましきかな

辛うじてよみがへりたるしるしにと一とき我に涙流るる

倒れたる身は起きがたし碎かれし夢まぼろしは惜しからねども

まことをば語るがゆえにおろかしく見ゆるおのれとおもひけるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

薄ずみいろ（四回）

奈々子

もし萬一わたしの家が退轉するとか、一家が離散するような場合で、私をためになる家へ嫁らうといふのなら、わたしは何もかも諦めた上で、さう親達を困らせはしなかつたでせう。賣女に賣られるのと同樣な心持ちになられゝば、心の操がどうの、自分に潔よくないのと、いま思つてゐるようなことは自分から封じこめて、自分と自分の思想を入定させてしまひませう。もしまた、私が子飼のときから勤めをさせるつもりの太夫衆に育てられてきていたら、心の貞操と肉體とを、ひとつにして泣死にするようなことも、慥今のまゝの心持ちでゐてもなからうと思ひます。けれども、わたしは清淨でなくつてはならない處女です、一度破れたらば心の疵は體とともに、どうして癒すことが出來ませう。わたしは嫌といふことの理由の云ひにくい、切ない立場に泣いてゐる、わたしの魂のために泣いて泣いてやつて、病らつてゐるのが無理ではないと自分では慰めてやつてゐますが、家の人達は泣くために病氣してゐるとは思つてもをりませんでした。病氣のためにあゝ泣くのだと云つてをりました。わたしは芝居や、ものゝ本で知つてゐる、嫌な人を嫌ひ通した、傾

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

城や藝妓を羨ましく思ふと一所に、嫌が嫌で通らない、堅氣な家の娘ほど虐げられるものはないと呪はしいことさへ思つたりいたしました。

わたしの枕許には、二の膳つきの御膳部に、赤の御飯をつけて据えられました。先方からよこした結納の品々もずらりと飾りつけられました。帶代に金貨の包んであつたのが、昔の小判ほど品位がないといふようなことも咄されてゐました。わたしは金貨を包んだといふことや、けばけばしい大きな島臺やなにかを見ても、先方のうちの家風といふものが知れると思つてをりました。

「こんな安心した嬉しいことはないよ」とお母さんは一人でにこにこなさつてでした。わたしはもう取りかへしのつかない羽目になつたので、涙も干涸びてしまひました。自分の身にかゝはる事ではないような氣さへ起つてきました。ゆつくり養生して、來月の末にと云はれたのだけが耳にはいりました。來月まで、來月まで、わたしはかうしてはいられない、一日も早く起て、わたし自身の生てゐる日の殘りだけを、自分の心ゆくばかりに暮さう、そして其日までに、自分の通つてゆく路をきめてしまはう、死なうと決心をしようか、逃げようか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――逃げて何處へゆく、お前のうちの親類はあいにくと東京ばかりではないか、それも御維新に大きな店はつぶれてしまうし、お母さんの實家の方の親類は士族なので、みんなしがなくなつてしまつてゐるではないか、何處に賴母しいかくまい手がある。

わたしの心は味方のないことをかうも私語きました。全く手をわけて探しだして手柄にしようとするものはあつても、かくまつてくれるような近親はありませんでした。では死ぬか、と云へば、死んでは親達へ濟まないといふ、母の胎内にゐるうちから敎へられた傳習と、わたしといふものを作りあげてゐる遺傳の血潮とが、親不孝といふ名のもとに、わたしの折角の勇氣もうちくだいてしまうのでした。わたしは全くどうしてよいか、自分の體内で、二つの矛盾した考へが戰つてゐるのを、制することも出來なければ、どちらかを征伏してしまうことも出來ずに、心の葛藤に疲れながら、人に云はれるよろこびの言葉をつらく聞きながら、近づいてくる悲しみの日を逃れるあてもなく、寢たり起たりしてくらさなければなりませんでした。

私の心は日がたつまゝに不思議と落附きが出てきました。よい考へがついたといふのでないのに、自分でも不思議なほど落附くことが出來ました。兩親はそれを見てはじめて安

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

堵したような顔を見せました。井口は口癖のように「恐悦、恐悦」と云つてお辭儀の安賣りをしに來ました。私は人ごとかなにかのようにそれを聞いてゐました。妹が袖を縫つてくれれば自分でも下じゆばんなぞを縫つたりしました。胸の中では親の味方と、自分の味方とが一刻のやすみもなく戰ひあつてゐるのに、表面だけは影が薄く見えるほど、さびしく思ひあきらめた風情がたもててゐました。師走にはいつてから、やつれた肩へ重い新調の縮緬の羽織をきて、お母さんにつれらて仲人の家へ挨拶にゆきました。

先方から頼まれて仲人に立つた御夫婦は、私のうちの者はみんな初對面でした。五十以上の舊家の御夫婦は、お寶は澤山にあつても子供のない方達でした。二人とも禪をおやりになつて、そしてお茶人でした。おちかづきのお盃がすんだあとで、

「このお娘さんをあすこへおやりになるのはお可愛さうだ。まるで肌合が違ひます。私達が早く知つてゐたらやらせるのではなかつたのに。」と奥さんが、思ひやりの深さうな目つきをして私の方を見ながら仰しやりました。

わたしは初て聞いた救ひの言葉なので、堪へようとしても涙の方がさきへ迸ばしつてしまつて、かくすことも出來ませんでした。其場をつくらふために、よんどころないように、

「どうも氣が進んではゐないらしうございますが、先方樣があんまり御懇望なものですか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら。」

お母さんはお仲人へも私へもかねた言譯けらしく、さういつて困つたといふ薄笑ひをされました。

あの方を伯母さんだと思つて――、そんな突飛なことが出來るものではないと知りながら、溺れるものが繩のはしへも縋るやうに、あの方にかくまつてもらはうかしらとも頼めないことも頼み甲斐のあるやうにも附會けて見たりしました。

わたしといふ心の卑怯者が、天の裁判にあふ日が來てしまひました。わたしは其日をどうして暮しましたらう。そしてどうして其夜をすごして、今まで此世の呼吸を吸つて生伸てゐるのでせう。わたしはあんまりわたしといふものが、生の執着にふかいのが憎くなつてきました。怨む人はない、誰を怨むにもあたらない自分を怨めと、わたしは二六時中自分の魂を搔むしるやうにしてゐます。わたしは自分の心へ對しての反逆者です。自分の心へ裏切りをして、肉體はあんかんとしてゐます。靈魂の貞操は汚さないと、安直な氣安めをいつて、生てゐるうちもないのに日をつんでゐます。

其宵も逃げださうとして、振袖を着たまゝで幾度立つて見たり座つて見たりしましたで

せう。勇氣といつたらこれつばかりもない、卑怯なものにはそれ相當の思ひやりが出て、わたしが身を隱したら、宴席につらなつてゐる、お父さんとお母さんはどんなに面皮をかくだらう。寄つてたかつてお二人を詰り苛責むだらうと思ふと、わたしには思ひきつたことも出來なかつたのでした。其場の樣を自分の心に描きだして、平日家のことにはあんまり關渉しない、やさしい、割合に年の多くつもつたお父さんに、老てからの恥を滿座の手前からしたくもない、おど／＼と取亂した樣をさせたくないと思ふ下から、色直しのなんのと、幾度か着代る着がへのたびに、時間のすぎてゆくのと、蟻が蟻地獄へおちた刹那の思ひに身をしめられて、心を戰かせ、冷たい汗を絞つてゐました。

盃のとりかはしの時に、私は無意識に盃を上へあげました。女蝶男蝶の小さい子供達は、なんの思慮もなくつぐのをやめました。けれどその盃の酒を一口もふくまなかつたからとて何の心ゆかしになりませう。花弁の片々が破れておちたときに、人々は不吉の祥のように顏をしかめて、其場をほどよく取りつくろはうとしました。わたしはそんなことでも嬉しいと思つたのです。今では身がそこなはれて死ぬか、でなければ、今の薄墨色の生活が破壞されなければ、わたしは誠の人間にはなれない、生れてきただけの價値がないと思ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ようになりました。

わたしの心持ちを書きたいのは、これからの事なのですが、また折があつたらにしませう、どうやら書いてゐるのが人目についたようですから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十五のS子と社會と

青木しげ子

壹

影ばかりが道路には敷かれて居た。市街の夜は軒々も死に落ちる暗い匂ひに、默つた空氣のいきれは隙間もなくかさみ合つた。時々に空の裡で光る星が其影を投げ出しては、かれた樣な夜鳥の喉元にしめつけるのか、一聲、二た聲、電柱で啼く鳥の羽ばたきがした。一樣の灰墨色に迫つた夜の寂寥は、まばらにともされて家々の電燈をはげしく打つた。

十五のS子は其時――町の家を飛び出した。丁度其夜の影の塊とでも云つた風に――二三丁も行かぬ中に顏色の惡い、弱々しい彼女の薄い影法師は、しつくりと夜の面に溶けて入つた。彼女は茶色にやけた肩掛を頸にくるくると卷いて、左手を脇から突入れ――小走つた。右の手先で懷中の何やらを、ちやら、ちやら、音さして數へて見ると、六つばかりある事がわかつた。彼女は猶も、も一度數へ終へると慥かに六錢あつた。そして「六錢あると思ふと俄かに胸さわぎがし初めた。「自分の小遣が六錢殘つて居る――」その意識が、どうしてこんなに、心を騷がせるのか、はじめは如何しても判明しなかつた。唯、無暗と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

胸の中がやける様に思はれた。何ものかの力強い壓迫が肋骨を押す樣に思つた。夫に投げ入れゝばすぐにも爆發する樣な聾いものがこびりついてゐるやうな無氣味さが感じられた。二三歩行くと、T町の曲り角の餅屋の前に彼女の足は不思議に止まつて居た。どうした事か、今までの胸騷ぎがおのづと靜まり、或る落付きさへも意識に上つて來たのであつた。彼女はすぐに分つた。「この店だな、今の胸さわぎは、」彼女は今日初めて思ひ立つた父に對しての行爲を其時も一度その店の前で考へさせられた。「父は大兄の家に病身で居る、そして父は燒餅が大好物である、父は今迄に子供からものを受けた經驗をもつてゐない。あの人は氣の毒な人だ、そして私には今小遣ひが六錢殘つて居る――そうだ、矢張り買つて行かう。父は私の今夜訪れるのを夢にも知つて居ない。その夢の樣な私が現はれて、しかも好物の餅をもつて行つて、「ねお父うさんこれお上りなさいな」とこう云つて病氣を尋ねて上げたら、どんなに喜こぶだらう。」彼女は父にとつても初めての經驗であり自分にとつても初ての試みであるこの行爲の効果に希をかけた。彼女はこの店の前に來るまでそれが不安と疑惑とにあつたのが、この店の前にたつて初めて、その効果としての二人の歡喜が實現せられた樣に思へたのである。彼女は六錢の中を五つまで拂つて、代りとして、あたゝかい燒餅をうすよごれたハンカチーフの中に入れて貰つた。彼女には見えも、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氣まり惡さも何もなかつた。女學校に通ふのであつたけれど、むしろ飛びこんで入つたのである。皮づゝみを受取つてその店を出ると、又彼女には父の事が考へられた。「父はどんなに喜ぶだらう」しかし又一方には「どう思ふだらう」と云ふ不安もあつた。

今頃父はどうして居るだらう、あの布團の側に重つて居るか、それとも階下の火鉢の前にうづくまつて居るだらうか、あの布團の側には、白い瀬戸物の痰吐きがある。うす汚れた渋紙がちらかさつて居る――それから古新聞の山と、床の間には西國の大師廻りの札本と札所で押して貰つた赤い印のついた白木綿のかたぎぬと、その横には塵まみれになつた箱の中には、もぐさ、と線香の匂ひがしまはれてゐる。彼は父の陰氣な顔を見る様であつた。そして其眼にしみついてゐる或暗い運命に衝きあたつて慄いた。

「あの人は何と云ふ氣の毒な人であらう、父は早くから兩親を亡くし、肉親者は一人もなかつた。父には兩親の愛と云ふものを受ける時間が與へられなかつた。自分と云ふ眼を明けた時、すでにその日〳〵は小僧の境遇にあつたのである。主人の權利の手が殘酷にも小さい父の頭に下り、叱責のつばきが顔にとんだ、無智な父には唯默忍が敎へられ、朝に夕に小僧の忍從で送られた。二つの眼はその事で常におびえ、あかぎれの切れた手からは紫色の血の流れるのをなでこすつた。父は何故勉强をしなかつたであらうか、否、その時間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さへも總て主人の仕事の手傳ひにあつたのである。たゞ自己を平安に、無事に過すことは單にこの忍從によつてのみ得られるものとして、無智の父の眼には、むしろなつかしまれたのである。「怖ろしきこの先入觀よ！」Ｓ子は愛のない過去の父の生活について涙を流さずには居られなかつた。

父には眞の愛と云ふものが與へられなかつた。母と結婚した事についてもその間に愛の交渉があつて成立したのでも勿論ない。母は母（祖母）の意のまゝに、父は媒人の手によつて、その形の上の式が擧げられたまでゝある。そして父は初めて一家の主人として、Ａ家の養子となつたのである。

父の位置はかはつた。昨日までの小僧は主人の席につく父の位置と變つた。父には何故愛がなかつたらう。老父には愛があつた。たゞ與へられた愛を持た無かつた。蒔かれた愛の芽を持たなかつたまでゝある。父はやさしくなかつた。主人の權利はあさましくも父の手を動かし、小僧の幾人はその手に操られ雇人の幾人は月ごとに違つた。父の影は茶屋に現はれ、酒におぼつかない足を叉しても家の戸に投げかけた。子供には少しもかまはなかつた。家人のすべては後悔し、かつ嘆いたのであつた。

「おゝ芽の無い愛、芽のない愛」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼女は呪はれたかの樣に立ち止まつた。ギクリと彼女はしたのである。と丁度T町の大兄の家の露路角に來て居た事に氣がついた。

S子は子供の樣な足どりで小走る樣に、そのつき當りの家の玄關をさした。

なかは暗かつた。薄暗い電燈の光が何かしら彼女に力ない氣分をつぎ込んだ、そしてもやく〳〵と立てこめてゐる冷たい賴りなさの眞中に、頸を垂れてうづくまつてゐる父の影を見た時、S子は小脇に持つたハンカチーフ包をソツト右手にうつして父の側にすり寄つた。

「今晩は御父うさん」

父はキヨトンとした眼をS子にうつした。火鉢をかゝへたまゝその咳の出る頸には灰色に褪色した頸卷をしめてゐた。その膝の邊りにもフランネルの膝かけをはめてゐた。

「S子かい、まあこゝへおよりよ、重いでな、」

父は火鉢の邊りを出しS子の爲めに明けた。

「今みんなはお湯に出かけたよ、その間に一寸ながしのものを洗つてしまつたところなのだ――」

彼女の眼は火に近い父の手の上に落ちた。瘦せた骨ばかりの手はうすい皮膚の皺と共に彼女の眼球にしみついた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「この手はいつの間にこうまで痩せたらう、此手に嘗ては瓩も切れた、血も流れた。併し此手はよく荒仕事にも堪え――そうだ。此掌の過去にはあの煙草の火さへも長く載せられてゐたと云ふではないか、又この手にかつて一家の主權があつた時、肉の張りつめた手の未來がどうして流し元の洗ひものをするなどゝ考へられよう。一家の物質の力が此手に握られてゐた時この手はこんなにも慘めを示してはゐなかつた。」

彼女の眼にはあつい涙が一杯に溜つた。あゝ父よ、貴方はあなたの子(大兄)の手に一家の支配が任された時から、あなたは如何してそんなに泣おど〳〵しい氣象の人となられたか何があなたをそうした意氣地ない人と變らしてしまつたのか、又義姉はあなたの三度の粥をどうして炊いて上げないのであらうか?

S子は父を見詰て居るにしのびなかつた。父は愛に飢えて居る、眞實の愛を父は知らないで居る――眞實の愛を父はどんなに欲して居るだらう。噫併し父には愛そのものゝ本質さへ疑はれるのである――

誰がこの氣の毒な父に誠心からの愛を與へるであらう。誠がこの父に愛の芽を蒔くであらう。彼?彼女?、それはすべてS子の心を寂しくするのみであつた。と其時S子は又ある烈しい惱ましさに犯される事をしつた。彼女はゾットト身慄ひをする程忘れてゐた二三日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

前の祖母との對話を思ひ出した。彼女の瞼は自然と伏せられ、白い靄の樣な中に人影らしいものを認め出した。

「おばあさんだ！」

そう叫んだ時はたゞの一瞬間であつた。併し彼女が眼を開けた時、うづくまつてゐる父の前にもう一人の老母の顏が重なつてあらはれてゐた。

「お前はお父さんが氣の毒な人だと繰り返してゐるが、御父さんは何處が氣の毒なんだらう、あの人はあれでいゝんだよ、あの人は若い時には茶屋酒はのむ、この私やお母さんをどんなに困らしたらう、その上子供に對しては少しもかまはず、てんで、子供を抱いた事さへない人なんだもの、あの人の何處がお前には氣の毒なんだらう」小さいS子の姿が祖母の前にとび出した。

「おばあさんの云はれる事は私にも分つて居ります。けれど御父さんは本當に氣の毒な方ですよ」

「そんなにお前が思ふなら、お前が御父さんを養つて上げるといゝ」

わだかましい不安の中で、こうしたポツリ〳〵とした言葉が浮んで來ると、次第々々に祖母の幻影も、S子自身の姿もきえてしまつた。矢張り見渡す室內は鬱蒼しかつた。影の

薄い父の息が冷たい障子紙にふるえ、弱々しい二人の存在がS子の意識の上に驚かれた時とりとめもない心細さ、ひきちぎられる様な物たりなさに一しほ重さが増して來た樣に覺えられた。S子は周章てゝ包みを出した。默つたまゝ火をかゝへて居る父のたよりない樣にも同情が加はつて來た。

「ねお父さん、まだ少しあつたかい樣ですからお上りなさいな」

火を見つめてゐた父の眼はS子のさし出す包の上にすぐとそゝがれた。

「あゝ」

S子は父の面を一心に見詰めた。氣の毒なこの父の顏に、この小さいもちが少しでもの光りをあたへて呉ればいゝ、父はどんなにこの包を見てゐるであらう。S子は父の顏がどんな風に變つてゆくか、どんなにこの哀れな老人に自分の愛が作用するか、S子はたゞそれが見たかつた。

「お前がこんな事をして呉れると御父さんは嬉しいよ」

そう云つた父の脣には小さい喜びの波紋がよめた。彼女は心に壓へきれぬうれしさを見ながら猶も父の顏を見つめて居ると、父の顏色はすぐにかはつた。瘠せた手はその包をS子の前につきかへした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「お前が親切に呉れたものでも、わしは食べる事が出來ぬ、湯から歸つて來れば皆にやらなければならないし、子供(大兄)にやつてしまはねばならないから、折角のお前の心が何にもならない。お前が歸つてから食べる方がいゝよ」

「澤山じやないんですもの、お一人で召し上れば、」

「わしはそんな事が出來ぬ、家のものが何にか買つて來てわしに呉れなくとも、こらへて居るが、わしには出來ぬよ」

「どうして」

S子は叫んだ、あゝ父はこの自分の與へた小さい愛さへも受ける事に躊躇する。一人にあたへられたる愛さへも受けるに怖れ、よけるこの父の手よ、父はしかも自分の愛を拒むのではない。受けたいのである。喜んで居るのである、あゝ併し、包をもどしたあの行爲は父の心そのまゝである。

「御父さん、宜しいでせう、御二階でやすまれる時に召し上げれば――」

S子は包をひらいた。そしても一度父の側にさし出した。「それじやね」父の低い聲は喉元にひつかゝる咳で一度きれたが烈しくせき入つた後につゞいた。

「それじやね、おまへも一緒に御上りよ」

彼女は承諾した。家人の留守を唯一人の子供の前でさへこの包に手を下し得ぬ父の氣の毒な心、しかもその子供は、父の爲めに、父に受けられることを望んで、わざ〳〵來たのではなかつたが、その肉親の子の前に、其子の與へた愛をさへうけることに躊躇を見出す父の靈は何によつてかくも呪はれてあるのか、氣の毒な父よ！彼女はその一つを自分も取りながら自分の片方に音をたてゝ口にしてゐる父の影法師とむかつた。

この影の薄い老人よ、そなたの影はつかれて居る。弱つて居る、まことの愛に飢えて居る。――しかるにすべての家人は何故にそなたに對して眞に理解を持ち得ないのであらう、かつてそなたは薄情であつた。慘忍であつた。併し、それはそなたの罪ではない。さればそなたの何が惡いのか、過去のそなたの薄情な行爲は今の家人の不親切に報はれてゐる。家人は病身なそなたを嫌つてゐる。そのためにそなたは氣兼をさける爲めに朝自身に起きて、馴れない炊事に粥もたかれてゐる――

「自分が若しこの家に居るのであつたら――」

彼女はせめて自分に同居がゆるされて居るなれば朝の粥位は父のために炊くであらうにと思つた。

父はその間に一つの燒餅を大方食べて居た。そして食べ終へてしまふと、懷から紙を出

して洟をかんだ。

「Ｓ子、わしは困つた人間だな、身體がわるいものだから、こうして冬になると、汚ない事だが洟が出る、啖が出る。この通りに咳が出る――みんなにも嫌がられるのも無理はないよ」そう云つていくつかの布と、紙とをＳ子に示して又默つたまゝにうつむいてしまつた。

「おゝ」Ｓ子は何事かを思ひ出したのであつた。そしてＳ子の身體中はいつの裡にか慄へをきたして居た。

雪の積つた道路に一人の癩病人が倒れてゐる。そして其處へ通りかゝつた一人の若者を呼び止めて叫んでゐる。

「どうか私をあたゝめて下さいまし、あたゝめて下さいまし」

若者は立ち止つた。

「わたしをあたゝめて下さいまし、私をだいて下さいまし」

若者は行倒の前に近よつて行つた。そして病人のくづれた顔を見たとき、若者の顔は見る〳〵變つて嫌惡の情が一面の表狀にみなぎつた。

「汚たない、僕はしらないよ！」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若者は見むきもしないで通りすぎ樣とした。すると癩病人はそのしなびた眼をじつと若者に控えた。

「お前はＴぢやないか、わしの子じやないか」

併し若者はその言葉さへもきゝとらないで、「きたない！」と罵言を浴せて、つばきをかけて行き過ぎてしまつた。病人は悲鳴をあげて其處に氣絶した――

肉親の關係がこの場合何にゝならう。しかもその直接血を受けた子でありながら若者はその父の死を癩病人なるがために省みなかつたではないか、まして物質の支配にある社會の利已的人間の愛に他人として癩病人を救助するだけの人間が何處に居たらう。Ｓ子は自身をそうした若者の位置に於いて見た時、ゾットした、自分にもやはり嫌だ、と思つた。そして、それが現在のこの父であつたなればと考へて、自分のあさましい心に責められた。きたない事にはじた。その中でも「自分の父は癩病人でない」と云ふ事に小さい慰安を見出し喜びを見た。そして又考へた。

自己の愛の矮小になげき、自己生命の進展にむかつての努力の意志は、こうした場合人間の感情に對しては又一時あとじさりしなければならない程弱いのである。そこに人間の苦悶が起きるのである。愛の徹底を叫び、萬人を抱擁する愛に昇らうとする者に於てさへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

猶、醜は醜として見えるのである。其處に悲痛な人生の叫びがあり、戰ひがあり、人間の努力があるのである。

S子は自分の側にも同じく病身な父を見たのであつた。父は又一息ゴホン〳〵とした底づよい咳を續けて居たが、やがてS子の方をむいて、

「寒くはないかい」と云つた。

「いゝえ」返事をしながらも猶S子は思ひつゞけた。

家人がこの父を嫌ふのも尤だらう。父は癩病人でない迄も父には汚物がつきまとふのである。終日火鉢に寄つた父のあの暗い姿を見てさへ誰でも餘りいゝ氣持はしない、それが一日に止らず長月に續くのではないか、のみならず常に側に付屬して居る、啖吐き、洟紙、それによつて受ける不快は同情される。併し此父を眞に理解し、慰める人間は誰も居ないのであらうか。

「只一人ある――」S子は父を見ながら自分自身に淋しく云つた。けれども、かすかな微笑はS子自身をより寂寞な思索の中に投げ入れて行くのであつた。

「この十五の自分が父のために何にゝならう。生活の保證をかち得てゐるでもなければ、與へられる小遣さへ時には學用品の爲めに不足する有樣ではないか、この弱い身體をもつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た自分が父のために何にならう」と思つた、が併し愛は物質の支配によらない、たゞ愛はまことだ、この愛が通じさへすればそれでいゝと慰め、かつ前の言葉を打ち消した。すると又彼女には一つの疑問が起つて來た。

まことの愛を知らないこの父の血をうけた自分が、內心に愛の叫びをきく不思議に犯されたのである。しかしそれは又、父の無智に對する厚い同情にかへられて入つた。父は無智のまゝに老いた人である。父は文字をさへ辨へずに生ひ立つて來たのである。兩親の愛を受けた人間にとつては知らず、愛はその人の智慧によつてやしなはれるのである。智慧によりて愛は育てられ、愛は又より大きい睿智を覺ますものである。S子は父の肩に手を掛けた。そしてやさしく云つた。

「お父さんもう御寢みになつてはどうですの、みんなが歸るまで私が留守をして居りますから――」

父はS子の言葉には返事をせずと、彼自身に思ひ出した樣な調子で云つた。

「そうだ、お前はもうお歸りよ、餘り遲くなると又家で心配をするからな、」

S子は父が、父自身の就床の時間について考へるよりも、かへつてS子の上に心配してゐるのを知つて濟まなく思つた。そして父に早やく休ませたかつたが、今の場合父の云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まゝに歸るのが父の心をも安くするかと思つたので歸ることにした。

「それじやお父さんも成る可く早く御やすみなさいな」

父の暗い影は玄關を出てゆくS子の上に見送つて居た。S子は影ながら父の後姿に接吻をなげて心に父の健康を祈つた。そして玄關を出てしまふと、何故だか今歸る家にむかつてある不快がはさまれてゐる樣に思へて來た。何時の間にか、心の城壁が築かれてゐる樣な、怖ろしい不安が、一歩一歩と踏みしめる足元にも疑惑の聲とともに襲つて來るのであつた。「自分には今とりたてゝ家族のものに何の不平を見てゐるのでもない、たゞ父に對しての自分の理解と家族の父に對する見解や態度には不服ではあるけれど、どうした事だらう、この不意な心のはたらきは、」彼女の足は增々重く感じられて來た。そして家の戶に彼女が手をかけた時、その腦ましさは嫌惡の意さへ含んで、いらだつ心は無暗と狂つた。あら／＼しい調子に玄關はあいた。彼女はその音に自身に驚いて自分のあさましい感情を沈め樣と努力した。「靜かにしづかに」と祈つた。しかし氣味の惡い樣にその夜の中に十五のS子の頭は父に親しく家人に遠くなつてゆく樣であつた。

二

翌日眼が覺めても家人に對する、ある不平がS子の意識の中にあつた。少し熱に犯され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た樣にS子の眼はぼんやりとして、氣がくさ〳〵とした。併し、いつもの樣に朝床をはねると臺所の七輪に火をつけて家人を起さぬ樣に支度に取りかゝつた。「老人などこの寒いのに起こしては氣の毒だ、朝の支度位は一人でなんでもなく出來る」そうした小さい同情がS子の胸には習慣的に植えつけられ、馴らされて居た。水づかひも苦しくはなかつた。S子は箒と、はたきとをもつて臺所だけをかたづけてしまつて、まだ薄暗くついて居る電燈の下で、昨夜遲かつた爲めに出來なかつた學課の用意も濟してしまつた。そして包の上に古い加藤直士氏の譯になる、トルストイの我懺悔をのせて老母達の起床をまつた。

可成り古い家であつただけに、家の何處かで音を立てるとすぐに一家中に響き渡つた。丁度七時過ぎになると、奥の間に布團を上げる音がした。祖母が起きた樣子であるS子はすぐと、習慣的にかた付を手傳ひに行くので、今朝も奥の襖をあけて入つて行つた。

すると祖母はなにかしきりと、布團の廻を探しまくつてゐた。そして、S子が入つて來ると祖母は彼女の方へ眼をやつた。そして猶も小頸を曲げたり、眼を見張つたり、落つきもなく、矢張り何物かを探してゐる。

「何かなくなつたんですの」

彼女は不思議相に自分を見つめて居る祖母に尋ねた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「お錢がないのだよ。慥かに枕元へ置いておいた五十錢金が」

「それは困りますね、私が探して上げませう」

S子は布團をすつかりと探して見た。上にかけた衣類ものけて見た。が、無くされたと云ふ五十錢はその何處からも出て來なかつた。彼女は獨り腹をたてた。この室が不快そのものゝ化身の樣な氣持に犯された。金がなくなつたり、物品が紛失したりするはいつもこの室だ、この室は薄暗く、蔭氣息く、汚たならしい、此室そのものは何者にか呪はれて居る譯でもあるまいか、そんな事を彼女は思つたりした。彼女は神經家であつたからこの場合すぐ「この室の汚れだ」と云ふ感がした。と同時にどうしてもその汚れを拂ひのけねばならない氣がした。又一方時々祖母の記憶力の不足から、思はない手箪笥の中からや臺所の火鉢の引出から出たりするのがあるので、又それではないかと思つたが、今日はなぜだかその汚れが此室にある樣な氣がした。彼女は室の隅々を探し求めた。しかしその汚れは何處にも見えない。老人はだん〳〵と不思議がつて來る。

「それは慥かに置いたのだよ、誰も此室に入つて來るものは無し、入るのは、お前とわたしの外にはないのだし――」

「そうですとも、本當に不思議ですね」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とS子は何氣なく祖母の自分に濺がれてゐる眼にある不快な曇りを見てとつた。彼女はそれを見るとたまらなくなつた。

「S子お前は知らないのかい?」

此言葉はS子の精神にグツト壓迫した。S子は怒つた。怒りの反抗が極度に燃え出樣とするのを力一杯に忍んだ。けれど彼女はじつとこの猜疑に向つて默つてゐるに堪えなかつた。

「私存じませんよ、お祖母さん」

漸くこれだけ云つたが、彼女には罪惡をいむ心と、此あさましい疑惡にむかふ嫌惡の爲めに烈しい眩惑さへ覺えた。

自分には心がある。自分の其心は惡を忌み、醜を憎み、虛僞を耻ぢてゐる――その爲めに、自分は又人一倍苦しんでも居る。自分は自分の惡を見る度に苦しむ。又人の惡を見、人の虛僞を見せつけられる時又苦しむ。それはその人の惡をゆるしたいからだ、他人の惡をゆるす事の出來るものは、又それだけ自己における苛酷な裁判官であらねばならない。それにしても自分はこの祖母の自分にむけられた猜疑をもゆるし度いのである。その爲めに、自分は又この嫌疑をうけるものとしての位置に苛酷な裁判を下さなければならない。彼女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は自分が嫌疑としての資格を考へて見た。自分が、この嫌疑者として、思はれるにも又不思議はないだらう。自分には人一倍の讀書欲がある。そしてその必然としては金子の要用はあげられるのである。その上自分の體質は人よりも薄弱である爲めに、家人には知られずに、小遣の中から買ひ藥もして居るのである――併し、自分は罪を犯し、惡をふんでまで自分の體質を思ひ、讀書も希ふ事はしない。それはまちがつて居る。自分の讀む書にはみなこの罪に對する苛酷な自己が敎へられるばかりである。他人の罪に對する寬赦が聞かれ、春の聲があふれて居るのである。」

彼女は祖母のこの言葉の上にも矢張り寬赦をもつてむかはうとした。併し、それには自己の明白を示す何物の證據もない。辯明は自分の避くべきところであるのを思つて寂しんだ。「どうしても探さねばならない」探し出す事が、今の場合祖母の言葉をもゆるし、一方自分自身にこの大きな不快を拂ひ去れるのである。その上にこの室の汚れ、それをも自分は清める事となる。彼女は餌に狂ふ牡獅子の樣に、五十錢玉にむかつた。敷布の下、疊の隙目、すべて探せる所さがしたが、その何處にも終に形はなかつた。

「もういゝよ、ないものは探しても無いよ」

祖母はそう云ひはなつて洗面に下りて行つた。S子は獨り奥の間に殘つて何ものともつ

かずに默禱した。「自分の信仰に裏切る事は苦しい、自分は自分の信仰に飽迄も生る、自分の信仰に今曇りのない事を明言したい」

それからさま〴〵な事を思つた。多數な惡魔が善人の子を抱えて奪ひ走つて行く樣な繪畫さへ、眼の前にアリ〳〵と見た。惡魔！惡魔！そうだ惡魔の仕業だ、そう思つたが、彼女の心はどうしても落付かなかつた。そして自分に省みた時、內心の叫びに赤面しなければならなかつた。

「お前はたゞお前の心を見て居ればそれでいゝのだ、お前の心を強いてよく見せたい爲めに、お前はよけいな罪をつくるのだ、惡魔を見るのだ神は自分の淸淨を見せ給はない、お前は人に對して自分のいゝ子が見てもらひ度いのだらう」

彼女は今の自身に「そうだ」と云ふ醜い姿に耻ぢなければならなかつた。

臺所では、祖母が一人で食事にかゝる樣子が見えた。いつになく、その調子があら〳〵しく聞えて來るのに、彼女の心は又曇りに被はれた。「氣の毒な祖母よ、罪人は私ではない」彼女は祖母にこの事を云ひたかつた。又祖母もその證據が上げられゝばどんなに喜ぶだらう、今の不快もすぐ消えてしまふのであらうと思つた。彼女は臺所に入る彼女自身も何故だか後暗い樣な氣がした。自分が罪人である樣な氣さへした。そして何故だか、祖母に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

向ひ合つて居る自分が、祖母の眼をさけて居る樣な、はがゆい感じに囚はれながらも、祖母に對してある小さい嫌惡が彼女の中に覗かれるのを度々見た。けれども彼女は自分にせめた。すべてが自分が小さいからだと耻ぢた。そしてまだ小兒が起きて來なかつたが、學校に出る時間なので、食事をすますと、家を出た。

三

外に出ても寂しかつた。道行く人々を見てもわびしかつた。彼女はいつも登校の道で、勤務に行く、會社員、銀行員、敎師、商人など、あらゆる階級の人達と會つた。そしてそれらの人々が、すべて、キヨトンとした大阪人であり、少しでもこの人生と云ふ事なり、社會と云ふことについて考へてゐる樣な人間の表狀に出あつた事がないのを心細く思つてゐた。考へると云ふことには、特に時間を撰定する必要もなく、靜かな場所でなければ出來ないと云ふのではない、考へると云ふことは又キヨトンとして居る事ではない。S子は我懺悔を手にしてから特に物事を考へる樣になつた。遊戯の時代はすぎて、毎日、彼女のいづれもの時間に思索はともなつた。

「人々ははたしてそれ自身の存在について考へた事があるのだらうか、それとも考へても分らないと云つて暮してゐるのであらうか、」その無自覺な表狀に、所謂社會化した人間の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

俗悪な頭腦に、未だ眼を開けたばかりの彼女でさへ驚かされ、かなしますするのではないか。

今朝も彼女は學校敎師と向ひ會つて電車の席をとつてゐた。其處へ一人の老人が入つて來た。丁度席がふさがつてゐる爲に老人は立つて居なければならない。老人の足つきはあぶな氣にその敎師の前にあつたが、敎師はなか〳〵席を讓り相にもない。彼女はたまらなくなつて老人に自分の空席をあたへた。そして、その敎師の前に立つてじつと敎師を見つめた。彼女は其時眞にその敎師が憎かつた。そして彼女の心にはいつしか世の敎師、道學者に對する不平が湧いて居たのである。

自己がかつて敎へられたるまゝの智識、道德をそのまゝ形式として生徒に敎へるところに眞の敎育者の責務があるなれば、如何なる時間を費やすとも、又如何なる勞力をそゝぐとも其處に何らの新らしい見解、智識、道德もめざめない、生きた人間の自覺がもたらされる理由がない。むしろそれは永遠に來ないだらう。まして智識の進展、生命の創造、社會の改造がどうして叫び得られやう。その重大な任務を放棄し、何らの責任も、負擔をも感じない、現在の敎師、道學者の存在は何を意味するのであらうか、現に社會は其等の人間を歡迎し、存在の糧をさへ安々と與へて居るのである。彼等の言は、道德を說く、慈善

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

をとく、併し、その道徳の裡には不德の穴があき、慈善の形式は、虛榮と、虛僞とを人間の尊い靈に植えつけてゐるのを知らない。

「にくむべき敎育者よ、無自覺なる道學者よ」

彼女はもう其の上その敎師と向ひ合つて居るに堪えなくなつた。そしてもう考へまいと思つた。たゞ淋しさを發見するばかりであると考へた。そして電車がつくとすぐその步みを日本橋五丁目の貧民窟通りにとつた。Ｕ女學校へと通ふには普通人々はみな日本橋四丁目で下車するのであつたが、其の日は電車が四丁目をのり越したために五丁目にやむなく下りたのである。外に生徒は多勢あつたが、彼女は一人であつた。

「自分は道連れを持たないそしていつも他人とは異つた自分に生きてゆくであらう」

丁度Ｓ子が二三丁も行つた頃であつた。彼女は突然、前方にあたつて、ある騷しい噪音を聞いた。人々の立ちさわぐ聲は、この邊りの人間の野卑な調子を含んで、あくどくＳ子の耳に入つた。Ｓ子は前方を見た。其處には若い男女の姿も見え、老人の姿も、小供の影さへも見られてゐた、そして一同は輪を作つた樣に、中のなにものかを取卷いてしきりとはやしたてゝゐた。時々には一齊にふり上げられる高笑ひさへ聞えた。Ｓ子は近づくにつれてすぐ樣あるいやな氣分に犯された。彼女の腦はすぐに「不愉快」を告げだ。彼女はだん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵とそれに近づいた。あたりには黄色い湯氣の樣なものがモラ〳〵と上つてはそのあたりの不潔な塵埃と混じて人々の鼻をついて居た。溝に腐つた野菜の切れ〴〵も道路に投げ出されたまゝに臭氣を漲らして居た。小さいS子は不快を感じながらも一種の好奇心にかられて來た。

「何があるのだらう」彼女の眼はその時ある未知に向つての興味に開かれ、怖る〳〵彼女は人の後に立つてその未知物にむかつて眼をなげた。その瞬間、S子は强烈な眩惑に襲はれた。そして一瞥するなり彼女の頭はたて續けに振られ、毛髮は根元から立つた。眼は赤く充血し、身體は猶も痙攣を續けて休まなかつた。交尾した二匹の犬を中にかこんで笑ひ騷ぐ人間の頭が覗かれた。そしてその愉快な笑聲は猶もより高く響き、S子の皷膜に衝き入つた。十五のS子にとつては只あさましさに慄えたのである。汚なさにふるえたのである。S子は自分について考へて來た。人生について、社會について考へて來た。併しこうした動物の本能を露骨に見せられたのはまだ初めてであつた。

「この事實は何を意味するのであるか」

こうした動物の醜態が果して彼等の眼を引くだけの意義をもつてゐるのだらうか、あさましい動物の本能が——併し事實の前に彼女の言は何ものをもなさないのであつた。彼女

は又六つ七つの小供、漸く歩行に馴れたばかりの子供さへ、同じ疑問の眼をこの二匹の動物になげられてゐるのを見た時、息づまる程の苦しさを覺えた。

「あの子供だけはあちらへやらねばいけない」

S子は一人もがいた。もがきながらもS子それ自身にその上たゝづんで居るに堪えなかつたのである。彼女の考は亂れに狂つた。様々な現象が次から次へと彼女の思想を搔き亂しにかゝつた。彼女は自身の歩行さへも忘れて只無暗と歩いて居る樣であつた。と彼女の足は又學校に近い横町に迄來て立ち止らねばならなくなつてゐた。「どうした事だらう」と思ふ間もなく「畜生」と叫ぶ聲に彼女の心は默らせられた。見れば木材を山の樣に積んだ荷車が道路を防いで居るのであつた。車に繩付になつた牛が倒れたと云ふので、人の山が出來て居た。

S子は前に廻つて入つた。牛は其處に眞實倒れてゐた。がその牛の瘠せた背骨と、うづ高くつまれた荷とをS子が見た時、如何に人間の仕打の慘虐であり、動物に對する人間の心がいかに苛酷であるかに驚され、人間の殘酷に對して罵らずには居られなかつた。

瘠牛は後脚をつき出し、前脚を折つて倒れて居た。鼻から吐く息は、黃色い痰につまつて異樣な臭氣は冬のじめ〳〵とした雨上りの道路の土をぐる〳〵とまいてゐた。S子は多

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

勢の人を掻き分けてその牛を見た。其時、肥大な體格をした男が、荷の後方から現はれたかと見ると、手にもつ鞭はすぐ樣牛の背をピシリッとつゞけ樣に打つた。

「畜生ッ！」

S子は其時牛の細いうなりに身を縮めたのを見た。

「畜生、こんな荷位でくたばりやがつて、どうしやがるんだい」

若者の口はひん曲つて居た。開かれた齒並びの惡いその口から、うす赤い舌の上下するのがのぞかれた。鞭の音は猶も續いた。ピシリッーとその音波が生臭い風にすゝりなき、倒れた牛の底うめきを、どん底まで見物の耳にふきこんだ。S子はぢつとして居られなかつた。侮蔑と罵りの眼をもつて、鞭をもつ男の手をじつと見た。母指と中指とは杖の上部にヒタと押しついて居た。そして力まかせにふり上げるその鞭にも、指の節々にも毒々しい慘虐がこめられてあつた。

見物は一齊に鞭方に應加するのみで、さもないものは皆散り〴〵にちらばつてしまつて居た。

「この弱つた牛をどうしやうとするのか」

S子はくたばつた牛の爲めに泣いた。牛の苦痛をじつと牛の苦痛として見て居るに忍び

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なかつた。畜生なるが爲めに牛の苦悶は人間の苦悶として同情され、いたはられる價値がないのであらうか、四つ脚なるが爲めに、この牛の境遇に苦しみを見出しこの牛の爲めに泣く人間が無いのだらうか、この牛の爲めに涙を垂れ、この牛の爲めに一杯の水を與へ、山の樣な木材の幾分を減ずる樣の人間が、この多勢の人山の中に一人として無いのか、S子は自分の少さい體に、自分には牛に對してはたらく心を持ちながら、行爲の上には自分の力は何らのなすべき價値さへもない自分の矮小に、力の不足になげき、たゞ哀れなる動物の眼に溜つた油液にいたんだ。

この牛の爲めに眞に同情し、痛心する人間にとつては、この牛を救助する何物をも持たず、この牛をたゞせめぐ人間にのみ慘酷なる鞭は所持されてゐる。

「社會はあまりに醜惡に馴れてゐる――虛僞に親しみすぎて居る。あまりに人間のこゝろは無自覺である――」

彼女は猶暫く其處にたゝづんで居た。

社會の虛僞、罪惡、に對する不平は小さい彼女の憤激をたゞつのらすばかりであつた。

彼女の足元から、社會の罪である。彼女のうすい眼球から、人間の無自覺である、そして彼女は自分と社會との間に、何ら交流する思想の流れを見るでもなく、同じうする見解を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見出すでもない寂寞にたゝずんで居た。

「人間はも少し眼が開かれてもいゝ」彼女は校門にさしかゝるまでこの言葉をくりかへし獨言した。

（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

暗潮

再び海に行きし従弟のために

佐藤欽子

六ケ月に亘る長い航海に、虚弱な彼の身體は全く壞されて仕舞た。此體では到底過激な勞働には堪えられぬと專務醫は話した。そして尚も不安らしく瘦せた彼の肋骨の邊に聽心器を當てゝ見た後「暫時呑氣に養生せよ」と優しく云つた。愼二は入港するとすぐ船から下されたのであつた。今年の六月、愼二が船に乘り込んだ時、既に病氣が起りかけて居た。嚴重な、檢査醫の方も無事に通過した程それは輕症であつた。が歸途船が印度洋へ入た頃から折々發熱がしたりして身體の調子が面白くなかつた。健康な人でさへも印度洋一帶の峻烈な氣候には惱まされるのが常である。濕氣と白雨と酷暑とが續いて、暗黃色を帶びた空と海の外何物をも見る事が出來なかつた。乘船者が最苦痛に感ずるのは陸を遠く去り土を見られない事である。薄濕りを含んで彈き返す力を持つた大地を踏む心地快さは到底乘船者以外に味ふ事の出來ぬ愉悅である。大地に生を享けた者は土に愛護慈育されるものだと云ふ事を愼二は身に泌みて感じた。船員が多く健康を害ふのは乘船期間で陸地は彼等に取つて父母であり又愛人であつた。其の「土」に別れて苦しむ船員が遙か彼方に陸地を望み

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

得た時程嬉しい事は無い不思議な動機は胸を波打ち流れて青く疲れ切つた其頬にも美しい血がさへて來るのであつた。更らに入港の氣笛を聞くともう靜かにしては居られなかつた彼等は思ひ思ひ隊を組んで土を踏みに出掛けた。彼れ等は出來得るだけ長く懷かしい土の香をかいだ。力を入れて大地を踏みしめた。風物の見物よりもそれが何より大切な仕事であり又最期待された事であつた。港を出て以來十數日陸らしい影さへ見る事の出來なかつた船員や船客は印度洋の陰濕な空氣を一層恐れた。愼二の身體に、潛伏して居た、病氣は、日に日に黑い、頭をもだげて來た彼は出來るだけの食養生をもしたが、更に効果が見えなかつた。それでも彼は、自分の任務だけは缺かなかつた。毎日重い、足を引き摺り乍ら暑苦るしい汽鑵室に下りて行つた、石炭の燻ぶる紅い炎は恐ろしく燃え盛て低い機鑵室を赤く染めつけた。愼二は火夫であつた。時間を定めた仕事なので、可成忙わしくはあるが、仕事を仕舞へばあとは自由な自分の時間であつた。其那時火夫等はテーブルを圍んで、卑しい女の話に耽り酒を呑んで心に滲る罈を散じた。低い天井の下に燻る石炭の臭ひや氣の滅入る重い機械の軋る音を氣にしながらも、同僚と一所にボーイを捕へて香りの善い酒を盜ます樣な惡戲も好んでしたのに全然此頃は浮かぬ顏して罈ぎ出した愼二を同僚は氣の毒に思つて「仕事を休め」と親切に云つた。實際彼は仕事に堪えられなかつた。心臟が壓へ着

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けられる樣に苦しく、靜かに手を置いて見ると、驚く程動悸が昂ぶつて居た。針で刺される痛みを感ずるのも一再ではなかつた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

船は靜かに港に入つた。病める愼二の胸には鼓動が一層烈しかつた。彼の胸は喜びに充たされて居た。彼は下船すると直ちに東京の生家に歸る心算であつた。愼二は船員の何人かに送られて、靜かに船を下りた。絶えず船の出入する港町はいつも焦々した感じを與へるものだが、愼二には凡てが懷かしいものゝ樣に思はれた。海岸に打ち寄する波の音も嬉びを送るかの樣に思はれた。物賣りの支那人が多勢蛆虫のやうに集つて來る、眞黑に顏を染めた水夫が氷を運んで居た。次の船の出帆に間近いか多くの見送り人が押しかけて居た。船から吐き出す黑い煙が港の空一杯に廣がつて乾いた鐘の音が氣忙わしく聞えて來る。かうした眩しい群集の中を愼二は獨り靜かに歩いた。やがて小一時もして愼二は支那町に近い宿屋の一室に疲れた體を橫へた。唐紙一重を離てた隣室には、若い男の靜かな聲がした。「明日立つのだから」と下女に荷物など賴んで居た。愼二は氣分が惡いので、膳に手も附けず、風呂場へ入つた、白い柔らかい湯氣が靄のやうに、立ち込めてかすんだ。鏡の面に溜る露が線を描いて下りた。あたゝかな湯は毛穴の一つ々々に浸み込んで、體の中まで溶け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

込むかと思はれた。體中の血が體に昇つて行くらしいのを意識しながら、痩せた胸や殊に黑い手足を見入つた。船の同僚に「白いな」と云はれたのを思ひ出して、クスリと笑つた。暫らくして湯船を出た、電話室の前を通ると、荒い縞丹前を引被けた外人がしきりに番號を繰つてた。室々には明るく電氣が付けられて下女の開つぱなしな笑ひ聲が聞えて來る。彼は室に入ると窓を開けて手摺りに腰を下ろした。病める足は重たく垂れた。愼二はそれを振つて見た。力の拔けた兩足はブラ〳〵と僅かに動いて又元の位置にかへつた。淋しそうに靜かな調子で口笛を吹いた。知らぬ處に一人居る自分だと思ふと謂ひ知れぬ淋しさを覺えずには居られなかつた。日はとつぷりと暮れて港町一帶の空は次第々々に暗くなつた。帆柱が夜の海に物凄くつゝ立つてるのが家並の間から見え隱れした。斯那目の前の景色に淋しい心の遣り場を見出して彼れはうつとりと見入つた。波の音につれて漂ひ來る船頭が無精に淋しく彼れの頭を搔き亂した。彼れは船に殘つてる人が氣になつた、同僚の色々な顏が浮んで來た。彼が此港を立ち去つた後あの船は又何處へ出帆するのだ、再びあの船の人に逢ふ事は出來ない、斷えず葉卷を燻ゆらす人の良い船長にも丈の高い肝持ちの機關長にも、今年二十五歲だと云ふチビのボーイにも顏を合せる折は最う永久に來ぬであろう。自分は再び船に來ることは出來ないのか、と思ふと急に海の生活が捨て難く懷かしいもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に思はれた。彼は自分のやつれた、心と體を暗い生家に運び行かねばならぬ事が辛く思ふた五年間と云ふもの殆ど海上で暮した。其間の生活には元より色々の出來事があつた。恐ろしかつた事、悲しかつたこと、たまには飛び立つ程愉快なこともあつた。然し實際は喜ろこばしい事よりか目を掩ふ樣な凄慘な事實の方が多くあつた。メキシコ航路。此航海は最近に於て、最も悲慘な、痛事が出來した。僅かの間に二人の死者と一名の逃走者とを出した、三人とも愼二とは近しいものであつた。伴田と松下とは以前から親しかつた、松下は肺炎で倒れた、强壯な氣の勝つた人だつたが二日の間に死んで行つたのであつた。目をつむると今でも友の姿が明らかに浮んで來る。死ぬ二日前心地が惡いと云つて、仕事を休んだ、愼二が尋ねて行つた時、松下は青い顏して寐臺に橫つて居た。彼は愼二を見た樣であつたが默つて目を閉じた。「どうした」と云つたら「脊中が痛む」と云つた。愼二は「疲れが出たのだろう」と云ひながら胸を擦てやつた。其晩から烈しく發熱した「四十一度何分と云ふ死熱に身を悶えた。其大きな體は轉々と室中をのたうつた。氷袋も濕布も搔きむしつて、仕舞ふので、手の附け樣がなかつた。其胸のあたりは肋骨の一つ々々が蛇の腹の樣にうねつた。暫らくして苦悶の聲が絕えると體はダラリとなつて大きくたくましい手足は床に引ついた樣に身動きもしなかつた。愼二は彼れを寐臺に運だ。そつと手をやるとふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くれた胸の奥からズー々々と磨り合す樣な響きを感じた。顏の筋肉は痙攣して油汗はじつとりと額えに滲んで其凄まじい形相は死の苦しみを表示してゐた。其夜明頃彼は吐血した。小かな泡を含んだ氣味惡い眞赤な、血が醫師の膿盤に取られた。それを見た松下は何とも感じないらしかつた。そして落ちた目を閉じて、スヤ々々と苦痛もない人の樣に幾時間も寐た然し安らかな容體は長くは續かなかつた。時々ねむりから醒めては悶えた。其翌日の夕烈しい苦悶の上句彼れは再吐血した。多量の吐血に胸が空になりはせぬかと怪やしんだ。醫師は幾度となく注射した、もう効果もなかつた。藥は空しく醫師の手元を流れた。松下には意識もなかつた。愼二は試に彼れの手を握つて名を呼んだ。其顏には何の表情も表はれなかつた。松下は死んだのであつた。誰れの顏も見ず誰れの聲も聞かず。淋しい船の一室で血に汚れた、枕に顏をうづめて死んだ。それから間もなく、脚氣で病み付いた伴田が其後を追ふ樣にして死んだ。死人があると船の内は寂靜として、客の外食事をするものもなく。そして、寄るとさわると暗い顏を突き合せて死んだ者の噂をする、荷物を調べてやる者もある、遠い本土に居る親や兄弟に手紙を書いて送る者もある。無言の中に運ばるゝ凡ての動作が殘つた者の心を痛め、遣る瀬ない涙を誘ふのであつた。船に住む者の慘めさは其死際ばかりではなかつた。死體は恐ろしい水葬で始末される。其僅かに黑い髮と短かい瓜と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が紀念として切り取られ遠く古る里へ送り返されるのである。愼二が五年間の海上生活にこんな事は幾度となく繰り返された。松下も伴田もやはり海の底深く沈められて仕舞つた、彼れは日常松下と親しいので例の髮を剪んでやる事になつた。死後の强直は一倍と人の無氣味さを增した、愼二は髮を剪んだり固く握た指を解いて、爪を切てやつたりした。彼が最後の夕はいとも靜かであつた。灰色に遠く水平線の邊から、暮色が迫て來て、海の面は一樣に青退めた、底から吐息の如く重苦しい潮鳴りが聞えて來る。大きな翼を持た海鳥がバサ〳〵と異樣な羽音を立てて暗を走り行くのも淋しかつた。六時を合圖に、彼れの死體は、デッキに運ばれた。見送る人の顏には暗い悲みの影が刻み着けられて物云ふ人もない名稱しがたい蔭慘な氣が冷たく流れた。船體は靜かにゆれゆれて、懷かしい日本の方に向けられた。形ばかりの式が終ると、黑い鐵板に結びつけられた死體はやがて長い鎖によつて海底深く沈められた。そして船は再び何事もなかつたもの丶樣に航路を進めるのであつた。愼二が恨めしい目を海面に落した時黑い浪のどよめきの間を、物凄い渦卷の一つが細く深くうがたれて行くのを見た。愼二は其夜終夜失神した樣にデッキの上に立ちつくした。

それから、メキシコへ着陸してから、一事件が出來した。それは船員の逃亡であつた。脫船する者は時々ある。それには船の方でも充分に警戒を加へて居た。然しアメリカを除く外

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は悉く上陸を許された居た。然し彼等の間には自由な、行動は許されてなかつた。彼等の監視人は常に短銃を携へて居つた。船がメキシコへ着いた夜、一人のボーイが巧みに脱船した。彼は大膽に其目的は果し得た然し土地不案の爲め數日の後捕へられた。「所もあろうにメキシコで逃るなんて馬鹿な奴」だと同船の者は彼れの其思慮を笑ふた。其後ボーイは手錠をかけられたまゝ暗い一室に閉じられて居た。

* * * * * * * * *

半年に一度は必ず船が日本に歸た、然しなぜか、よろこんで家を尋ねる氣にはならなかつた。そしてつまらなく船に泊てる間中、毎日港町を彷徨いて、下らなく金を使つた。遊び倦ぎると船に歸てゴロ々々して居た。愼二は他の兄弟の樣に幼ない折から親の膝元を戀しがらなかつた。三才位から母や祖母の手を離れて、温なしく一人遊びをしたものだつた。兄の良助がひ弱な上に我まゝな氣六ケしい性だつたので、家の者も自然と、其方にばかり掛り切る樣になつた。祖母や母は何時の間にか愼二の者ではなくなつた。子供の中で、すぐ々々と容易に生ひ立つた者より手をかけて大きくした子供が可愛いのは人情で、彼れの兩親は愼二を疎んじて行く樣になつた。皮膚の切れる寒い冬の日などはいゝづきの樣に紅く頬を脹らして、冷え切つた、緣先に遊んでるのを見ても、「彼の子は丈夫だから」とかまひ

つけてはくれなかつた。それに五つも年上の兄は我儘一杯に振る舞つてそれでもめつたに、機嫌のいゝ顔は見せなかつた。成長するにつれて、愼二もそれではなか〳〵承知が出來なかつた。一體に情が強くて意志の確りした性だけにこんな事を見る事が不愉快に思ふ樣になつた。與へられる玩具や着る物まで此調子であつた。彼は子供心にそれを情なく思つた、それでも兄とは、言ひ合ふ樣な事はしなかつた。然し或一つの事件だけは、何故か今でもはつきり覺えて居た。彼はそれを時々思ひ出してはひとり笑ひする事があつた。それは家が田舍に在た時分で、七つの秋であつた。其日は土地の祭日で町の若い男女は勿論近在の人達が繰り込んで來るのが例であつた。其日の出し物は町の金滿家が千金を投じて作らしたと云ふ、西京作りの、目を醒むる樣な金銀の屋臺であつた。町の人達は片附けた店に赤い、毛布を敷いて金屛風を立て廻らしたりした、其間を若い人達は、花笠を被て、太い五色の手綱で重々して屋臺を引き廻すのであつた。其日は、町の商人は勿論務め人や先生の家でも、子供丈はどうしても仲間入りさせねばすまなかつた。其頃はもう、愼二の下が二人も生れて居たが、幼なくて祭日に出られなかつた。母は良助と愼二に丈けは仲間入さしてやると云つた。何日も前から二人は樂しんだ。隣家の三重ちやんの阿母さんは、坊が祭の着物だと云つて、字形を染めた四つ身の小さな衶を縫つて居た。愼二はそれを見て、

三重ちやんを羨やんだ。彼は毎日遊びから歸ては母の居間をのぞきに行つた。然し、何時になつても、母は縫つてくれなかつた。愼二は一人で焦々した。けれども着物の事など、男が尋ねては笑はれると思つたので其まゝ默つて居た。祭日の三日前祖母が二つの花笠と例の揃ひの着物とを買つて來てくれた。兄弟は室中駈け廻てよろこんだ。愼二は翌日から、安心して遊ぶ事が出來た。最母の室をのぞく事はしなかつた。愈々祭日の朝が來た、お宮の森からドン／＼陽氣な太皷の音が聞えた。近所の子供等は、着物を替へて表で遊んだ。二階の屋根から見ると町は人で雜踏して、ケバ／＼しい、花笠が、其間を縫ふのが見えた。轉げる樣にして下へ降りて行くと祖母と母は兄の仕度に掛つて居た。青い細顏の兄は、斯那時でもおつとりと、すまし込んで居た。衣裝は白の眞岡地に藍で、本町と云ふ字を染め拔いた如何にも田舍の祭にふさわしい物だつた。母は兄にそれを着せて、水色縮緬の三尺を締めさした。祖母はうこんの紐の附いた花笠を取つて、兄の頭へのせてやつた。兄は「厭やだ」と云つて心持ち顏を赤らめた。兄の仕度を終へた祖母は愼二をかへり見て「今度はお前だ早く着物を拔いで」と云つた。彼は側に同じ衣裝のないのを、不思議に思ひ乍ら、裸になつた。母は次の室から着物を持つて來た。然しそれは今まで着度いと願つた祭の衣裝ではなかつた。愼二の胸は詰つた。涙が熱く目に慘むのを感じ乍ら母のする儘になつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母は同じく彼の頭に花笠を置いた。彼が不興氣に默つてるのを見て何か云ひ〻〻前に廻つて、笠の紐を結んだ。愼二の頭は子供らしい、不滿と憤怒とに火の樣に燃えて體中の筋肉が口惜しさに、ワナ〱と顫えた。花笠のよく似合ふ兄は此有樣を見て居た。愼二は其時こらへ〱て居た、胸が一時に破烈したかの樣にあられの樣な涙を流して呻き出した。そしていきなり兄の花笠目掛けて打ち掛た祖母と兄は止めたが、其時もう愼二は、兄の頰をピッシャリと打つて、笠をうばひ取た。櫻や牡丹で美くしく飾つた祭の笠は、愼二の手にむしり取られて、萠黄色のおこまがせが情なく散つた。

* * * * * * * * * * *

こんな事があつてから、愼二はすつかり祖母や母の機嫌を損ねて仕舞た。然し母だけは、そんな事に頓着なく、彼等二人に同じ樣に對して居た。それからと云ふものは常に我儘な兄に蹴落されて、長い間彼れの心は、周圍から閉されてしまつた。彼が小學校を出たのは、十五の春だつた。當時兄は縣立の中學を出て、或官立學校の入學試驗の準備中であつた。愼二を中學に入れる事に就ては大分評議が六ヶ敷くなつた。彼れの家は別に大した財産とてなかつた。が、二人の子を敎育するに事缺きはせなかつた。第一父が子供の敎育には一向無頓着であつたし、それに例の祖母や母が無情に不贊成を唱へたので、失望に終た。此

時落膽し切た彼は、之を機會に東京行を企てた。今迄彼は母や祖母が自分に對する仕打ちに、不滿と反感とを抱いて居た。が、其裏には家の者の愛を失ふまい、どうかして自分に取り返し度い、と云ふ優しい希望も動いて居た。然し、周圍の人等の愛が一日々々と彼を離れて行くのを思つた時彼はもう諦らめるより外仕方がないと思つた。愼二は家の者から憎まれ乍らも、皆の喜びそうな事を、好んでしたものだつた。それも馬鹿らしいと思つた。母や祖母の機嫌を取つて、高價な愛を取り入れ樣とする事はすつかり止めた。そして愼二は東京へ出る事ばかり考へた。彼れは或時其旨を父に打ち開けた。意外にも父は容易く許して呉れた。愼二が上京したのはそれから間もない事であつた。上京はして見たが、其處此處と仕事の口など探し歩く間に父からもらつた、金は使ひ果して仕舞つた。宿に居れば、費る丈の金は出さねばならぬので、ます／＼苦しくなる、不安と心細さに途方に暮れた。其時同じ宿に廣島の人だと云ふ、穩やかな、廿四五の青年が居た。年の行かぬ愼二を氣の毒がつて、色々世話して呉れた。青年は元船乘りをしてたと云ふて、暇な時等は變た船の生活や珍らしい海の話しなどをして呉れた。彼はだん／＼それに、興味を以て聞いた。男もそうなると同じ樣な話をくり返しくり返して彼を慰めた。長い間暗闇に閉ざゝれて居た、彼の幼ない生命は、やうやく新らしい、光を見出して、芽生への樣に靜かに頭を上げだし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。愼二は初めて自分の行く可き世界が目前に開かれてるのに氣が附いた。彼の心にひそんでた、其熾烈な自由性と自然に對する愛仰の念とが、不知不識の間に羈絆なき、海の生活に求めつゝあつたのであつた。愼二はどうしても船乘りになると決心した。青年は「家さへ承知なら」と話した父は不服を云つて寄こしたが愼二は其人の世話で、其年の六月上海航路の船に乘り込んだ。一ヶ月の間は烈しい船暈の爲め半病人の狀態であつた。彼はボーイの方に廻された。初めは見習でボーイの下使をさせられた。勿論毎日與へられる、仕事は隨分氣骨の折れるものばかりだつた。それにボーイには勞働時間の制限がない、客の都合で夜中でも呼び出されるので、靴を付けたまゝ寒い寐床に入る事も珍らしくなかつた。一等ボーイに二等ボーイと云ふて、數個の客室を持つて居るそんな人は、モールのついた、服を付けて居た。何度目かの航海に愼二も一等ボーイとして其の美くしい服を渡された。月々與へられる金は僅かなものだつた、が客のもらひが多いので一航海の後には五六十圓になつた。然し其金は次の航海を待つ間に、使ひ果した。航海を重ねるにつれて彼の生活は次第に荒んで來た。海でも人でも呑んでかゝると云ふ所謂船乘り性情(かたぎ)に慣れて來た。其此では、何年か逢はぬ親や兄弟の事も彼の心からだん〳〵忘れられて行つた。船に乘つてから、四年目、今から丁度半年前に愼二は火夫に廻た。多少激勞ではあつたが、時間もあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

り、勤め一つでは取り立てゝもらへるので、彼も何時迄ボーイでもあるまいと、眞面目に考へた。機關長にも火夫上りの人は珍らしくなかつた。彼は仕事の合間を見て、投げやりにしてあつた、本を取り出して、勉强し始めた。船員の一人が彼に、英語を敎へて呉れたので、彼はよろこんだ。愼二の頭は今勉强と云ふ新事實に集注され、そして、試驗の準備も出來樣と云ふ、時彼は倒れて仕舞たのだつた。今、愼二にはたゞ家に歸ると云ふ念の外何もなかつた。希望は消え失せて、目的や計畫は打ち壞されて仕舞た。殘されたものは長い間の勞苦に磨りへらされた、病弱な、肉體ばかりだつた。愼二はこうしてる間も絕えず家の事が思はれた。『明日家へ歸るのだ』と晴れやかにほゝ笑む、其心の裏からムラムラ、と頭をもたげ出すのは、兩親殊に母に對する疑惑の念であつた。「自分がこうした敗殘の姿で歸るのを母はよろこんで呉れるかしら」かうした心持が絕えず彼の頭を刺した。愼二は母に對して親しみを感ずる事が出來なかつた。彼は不合理な不公平な母親の許で虐げられて居た。かれは子供の折何度か暗い土藏の中へ押し込められた。日の光も見えぬ藏の中に半日も踞つて居らなければならなかつた。鼬が出ると云つて下男の外は誰も入るものもなかつた、それだのに愼二は決して聲を立てる樣な事はなかつた。「張り合がない」と云て母も遂に笑ふのであつた。彼は恐ろしくない事はなかつた、たゞ泣くのは恥かしく口惜しいと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のみ思た。小さな身體に力を込めて、泣くまいと努めた。彼はそんな時、暗い隅の方に小さくつしやがむのであつた。そして身體の戰慄がとまると、今度はじつとしてる事が出來ず、手探りに棒切れを探し當て、其處ら中ほじり廻した。其先が壁に當るとポク〳〵と音がして、暗闇の中で壁が散た。それにも疲れると悲しくなつてしく〳〵泣く事もあつた。そんな事が重なる中に彼は自分を物語りの人物にあてはめて、考へる樣になつた。「私の阿母さんはほんとの母じやない」と信ずる樣になつた。愼二は或時其友達に「家の阿母さんはまゝ母だよ」とひそかに洩した事もあつた。斯うした母の仕打ちが愼二の胸に或る反逆に似た、暗いわだかまりとなつて、殘つて居た。生の母親に對して、こんな反感を持たねばならぬ彼は堪え難く苦しかつた。どうかして此苦しみから逃れ度い、母の胸にひつたり顏をおし當てゝ、乳房を探す樣な、純な幼な子の心で接し度い、と眞實から願ふのであつた。が、ともすると此不純な心持が解けて、限りなく肉親が戀しくなる事もあつた。愼二は二年前、難船に遇て熱帶國の或未開の一孤島に漂着した時を思ひ出した。其時程家に對して止み離い懷かしみを感じた事はなかつた。月の赤い夜であつた。彼は椰子の茂む海岸に走り寄りて、青退めた浪の音を聞きながら、底深く熱い砂濱に額を埋めて、狂人の樣に兩親の名を呼んで泣いた。其時の心持ち其時の心持ちになれと彼は自分の心をゆすぶる樣

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に唸いた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

しーんと靜まり返た夜の靜寂を破て碇泊の船から淋しい鐘の音がきこえて來た。「明日は皆に逢ふのだ」と下女の敷いてくれた、布團にもぐり込んだ。寢やうと努めても寢着かれなかつた。胸の内がオロ〳〵と戰慄いて、よろこびの込み上げる苦しさを感じた。瞬目がしつきりもなく續いた。氣が附くと枕が涙にジク〳〵と濡れて居た。愼二はいつか兩親を懷しむ切な涙に浸つて居た。「歸れかへれ、一刻も早く兩親の懷にかへれ、お前は何と云ふ不孝者だらう、始終家を呪ひ、親を憎んでたではないか、そして其醜態は身動きも出來ぬ其身體は皆なお前が作た罪の報だ、早く歸て生みの親の懷に抱かれて死ね。」或黑い影が彼の耳元近く來てさゝやいた。愼二は熱ぽつたい身體を抱きしめて、靜かに目を閉じた。薄青く光る海が彼の前にひらけた。色あせた、浪は底く高く次第々々に彼の方へ押し寄せて來た。海は急に暗くなつて、底冷えのする風がヒヤ〳〵と海面を渡た。今度は、潮鳴りが物凄く、聞え出した。暫時すると其處ら中眞晝の樣に明るくなつた。波は一層高鳴て、しぶきは波の足元まで迫た。彼はじつと波の動きを見た。浪がしらの一つがキラキラと眩ぶしい程光た。するとそれが急に、青褪めた母の顏に變つた。母は靜かに手を上けて、彼れを

招いた。彼れは浪の間へ懸命に飛び込んだ。母は彼を見て笑つた。そしてクルリと後向きになつて、高い浪を一つ々々雑作もなく飛び越えて次第々々に彼れから離れて行つた。あたりは再び暗くなつた。（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社詠草

母のなげき

畔蒜琴子

すこやかに冬あたたかう吾子を抱き眠らまほしや生命やすらに

乳いたくひゞき來るとき、いづくとも子の泣き聲のきこえ來る夕

よゝと泣き吾れと驚く冬の夜のゆめの悲しさあまりに悲し

めづらかに高澄む空の白き陽を仰ぎて涙おごそかにたる

黒髮のよごれも悲し、幾日わがそゝくさとたゞ働きにけむ

とん／＼と肉をたゝけば背中なる吾子も笑むなり冬の晝ごろ

我が飽食みなこと／″＼く乳となる兒はすこやかにそだち行くかも

水仙花あまりに白く匂ふゆふべそゝくさと庭の土ふみにけり

しんみりと物思ふまもあらずして、子のためにするせはしき生活

すこやかにゐまさむ母をほぎまつる消息を書く初冬の夜半

はる／″＼とおもひのたけをつげてまし離れてあればいとしおん母

子を背にしからだゆすりてごし／＼と米をとぐとき冬陽冷たし

面顰め泣きやまぬ子の强情をすかしあぐみて寢られぬ冬の夜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こゝろ少しなごみ來るとき霜の庭見居つつ針をはこぶなりけり

にぶき光り庭に流るゝ夕ぐれよ我れといのちの狂ほしいかな

かなしげの眼付して乳を欲しがれる吾子を側にし胸たへられず

心よりなじみがたなき淋しさが我れと仄かに子の上にまよふ

くちづけをげにも久しく忘れたり子のためにわれらひた衰へにける

世にはまこと子のため若き母親はその青春を打碎くらむ

冷たくも火なき室に泣きやまぬ子をしみ〴〵と抱きなやめる

しづやかに氷雨の音に耳すまし氣まぐれにつとかはすくちづけ

束の間のよろこび　三浦無司子

つかの間のよろこびを追ひつかのまのなげきを贖めすごしぬるかな

恨む事漸くまれにわがたまを呪ふことのみ多くなり行く

くやしさに心も肉も八つ裂きて背きし人に投げばやと思ふ

呪ひなば恨みの消ゆる物ならば命にかけて呪はましを

つかの間のよろこびを追ひはかなくも其日〳〵を消して行くかな

赤胡椒　山の井みね子

赤胡椒風吹きしかばそよろりと重たくゆれて又光るなり

赤胡椒まつかに熟れてそのそばの小石にとんぼひそまりてゐる

葉のかげに胡椒つらなりひそまれりいつの間にやらまつかに熟れて

日だまりにまつかな胡椒ひかれるを耐へかねつゝ握りつぶすも

てら〳〵と胡椒まつかに反射していくつも並び動かざるかも

さつきから胡椒畑にうづくまりいくつも胡椒つかみやりける

赤胡椒ぢつと見つめて疲れたり赤き胡椒は見れどあかぬかも

晝さがり朝顏の花の赤き花二つ小さく咲き並びゐる

朝顏のその白き花も大根の葉にまつはりていぢらしきかな

ふと見てし大根の朝顏畑の朝顏は小さけれども七つも八つも

大根の葉にまつはれる朝顏がしぼみもやらず日は暮れにけり

犬蓼の花がまつかに咲き並びこゝの畑は草ばかりなり

雨しとゞ降りつゞくればべつとりと鷄頭の花は地に倒れたり

幾枝も押し重りて鷄頭が頭重げに地につかんとす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最初の家

五明倭文子

三

その日は母の命日であつた。平常より早く起き出た美穗子は先づ二階の掃除を澄ましてから、母親の寫眞と小さな位牌とを中床の上に飾つた。横には形見に遺つた色紙や短冊、自分に宛てた手紙のようなものまで並べて、露のしたゝる切花や、ゆふべ淳と買つて來た甘そうな秋の木の實や、奇麗な打物の干菓子などを其前に供へたりした。

美穗子は母親が亡くなつて其一週忌の間、故郷にあつては雨の朝も風の夕も一日とて缺かしたことなく、町に離れた城山の麓にある菩提處まで墓詣りに行つた。其處は大きな山門の、正面に鐘樓があつて其傍には枝垂櫻がすれ〴〵に咲いてゐた。鼠色の法衣を着けた十二三の可愛らしいお小僧が樓に昇つて、小さな身體に力を罩めて入り合ひの鐘をつき出すと、底冷えのする生温かい春の風に櫻はホロ〳〵散つて落ちた。

美穗子はその嫋々として四邊の山や森に響き渡る幽妙森嚴な餘韻をきゝ乍ら、露に濕つた山の草の根を踏みしめて、靜かに母親の墓場の方へ昇つて行つた。そして靑い枝を垂れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た柳の蔭の新らしい墓標の前にうづくまつて、いつまでも合掌してゐるのであつた。折には不圖、堪えかねたとのように起つて、その冷たい卒塔婆にわなゝく手でしかと、つかまつて、

「母さん、母さん、あゝなぜ死んでお終ひなすつたの！」

偲ふ云つてさめ〴〵と泣いたりした。昔はそこでよく人が首を縊つて死んだと云ひ傳へる、古い大きな松の枝が横ざまに今にも落ちかゝりそうに出てゐて、それにざわ〳〵ともの淋しく黄昏の風が鳴りさわぎ、墓場の下ではあわれに蚯蚓のなく聲など殊に耳につく時分は、全く暮れ果てゝ空は次第〳〵に美しい瑠璃色に變じて、彼方の森の上には細い片われ月が春の宵を照す時など、美穗子は身も心もずた〳〵に切れて碎けて粉になるまで、その名狀しがたい自然の凄慘な氣分を味ふとしてゐたりした。

母親が亡くなつて半年程經つか經たぬに今の繼母が家に這入つた。それからは隨分辛い思ひもした、人が知らない苦勞もした。憂苦と悲哀に鎖された胸を抱いて又も半年余りを過ごした、此三月の初旬、「起てそして步めよ！」との胸奥の叫びに喚び覺まされた彼女は、轉然として夢から返つた人のように燃ゆる希望を抑えて、再び都を志したのであつたが、ゆくりなくも其上京が淳との偲ふした深い緣を結ぶようになつて了つたのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此時やう〳〵床を離れた淳は寢卷の褞袍のまゝ二階へ昇つて來た。
「今日は母さんの命日だね、そうだ何か御馳走しておくれ」
「あらまた御馳走が始じまつたわ一」
と美穗子は一寸振り返りざま、ニッコリ微笑んだが又丁寧に細長い線香を香爐にたてゝ白い掌を合せて懇に口の中で唱名した。淳はそこの床柱に懷手のまゝ倚りかゝつて、其可憐しい姿を眺めやつてゐた。
秋晴れの快い朝の陽は朱い柿の葉を通して南の玻璃窓から部屋に流れた。
それから小一時間も經つて美穗子は可なり大きな風呂敷包を抱えて、元氣よく玄關の格子戸を啓けた。
「只今、隨分おそくなつたでせう」
恁ふ云つて、も一つ上り框の障子を啓けて一足踏み入れた時、「あゝ」と小さく叫んで其敷居の上に突立つた。中には思ひがけなくも淳の兄が正面向きに、柔和な笑顏を見せてゐたからである。兄は透さず、
「さアお這入り、ではないお歸りでしたね」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云つて笑つた。淳も美穗子も此場合苦笑せずには居られなかつた。
「何もやかましいことはありません、さア此方へ被入い」
兄は復た云つた。美穗子は一旦勝手へ行つてから、熱い茶と菓子とを持つて其方に來た。そして默つてつゝましやかに淳の横に座つてゐた。兄は細面の切れの長い眼を向けて、弟と其女とを視た。暫らくは各自に妙な沈默が守られたが、突然兄は訊いた。
「お國はいけませんか」
美穗子はさびしく微笑んだのみで直ぐ復た腑向いて、よく女がするように左の薬指の大きなダイヤを弄ぐつてゐる許りであつた。
何時もその美しさを失はない、人の心を騷がせるような不思議な魅力を有つてゐる美穗子の、只羞恥に身を責めて居るらしい樣子が先づ其優しい兄の深い同情の念を惹いたのであつた。生れた家、親、許婚の男、總べてを振り捨てゝ其一生を弟との愛に捧げようと、決心してゐる美穗子の、やがて二人の上にも纏りつく實社會の苦しい生活の壓迫を、どう切り拔いて行かれようか、そうしたことまで兄には打ち案じられるのであつた。
「私は貴方がたのしたことに就いて今更何も兎や角云ひはしません、たゞ此後のことをよく考へて、餘り人の眼にたゝないように愼重な質實な態度をとる樣にしてゐて下さい、二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人のことは私も能ふ限り盡してみるつもりですから！」

兄は恁ふも云つた。そして午砲がなると直ぐに歸つて行つた。

後で淳は兄から聞いた色々な話をした。美穗子はそれ等の話を一々小さな胸を痛め乍ら訊いて居た。

「それから大家の細君が他所へ行つて僕等が月々七八十圓の生活をしてゐるつて、話したつてさ」

「へエ、よくそんな他人の家の經濟がわかるものね」

「それアわかるだらうさ、あゝして始終人の出入を注意してゐるのだもの、併し實際そんなに遣つてゐるのかしら……」

淳は今更のように世帶を持つた時からの家計簿を展げて見た。色々な世帶道具、それから淳が長く滯らして置いた醫者への勘定、また冬着を出すために質屋へ持つて行つた金、そう云ふものを加へると、今迄に費消した金は二人の現在の身に取つては莫大な高であつた。

「仲々費つてるんだね」

「だつて詮様がないわ、世帶道具から醫者の禮まで出したんですもの……」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

殘りの金も早や僅かになつた。唯恁樣なことをして居て此先どうしてやつて行かれようか。二人は默つて暫らく互に顔を見合せてゐた。

「それにしても郷里の方から何とも云つて來ないのはどう云ふ譯だらう」

淳は其處に家計簿を投り出して、輕い溜息と共に足を長く前に延ばした。

此頃から淳の方の學資も途絶えてゐた。度々、彼は催促の手紙や葉書を送つたが、暗に礫と何の返事さえなかつた。

四

二人はだん〳〵に心細い、そしてお互に相脊向いて何か考へて居るような日を送ることが多かつた。

或日、美穗子へ宛てゝ大きな荷物が運送された。それは松井からで、可なり大きな箱を蓆で包み荒繩で結はえてあつた。

「素敵に嚴重なんだね」

淳は蓆を除けてまだ其下に結付けてあつた麻繩を解き乍ら云つた。中には兼ねて松井に預けて置いた大事な美穗子の品物など、一緒に、彼女の好きな郷里の名物の罐詰や白玉飴なども入れてあつた。それに從姉からの厚い手紙も添えてあつた。美穗子は直ぐにそれを

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

展いて見た。けれどもそれは彼女の期待を全く裏切つたこと許りであつた。

「何だつて云つて來たの？」

二つのサックから女持ちの金時計を出し乍ら淳が訊いた。

「私が惡いのですもの、仕方がないわ」

美穗子は抛げるように云つて、小さい方の時計を取り上げた。細い鎖は軟かい音をたて疊を滑り、彼女の白い指の間からダラリと垂れた。

「ぢや美さんは何だね、僕等は惡いことをして居るんだと思つてるのかえ？」

淳はいつもにないむつとしたような顏をして云つた。

「そうぢやないのですけれども……」

「だつて今そう云つたぢやないか」

「自分は惡いと思はなくても人がそう取るのですもの――」

「他人なんぞ何んと取らふが可いではないか、僕等は僕等で進むべき道を進むのさ」

「でもこれではこれから先き困りますわ」

美穗子は今の手紙を淳の前へ出した。彼はそれを默讀したが、わざとらしい程冷やかな色を眉の間へ浮べて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「美さんのファザーも隨分イゴイスチクの仁だね」
獨言のように云つてそれを封筒へ仕舞つた。
「ね、どうしませう？」
美穗子は暗い面を上げて深い溜息を洩らした。此度上京する時は例令どんな苦しみに逢ふとても、鄕里へは決して歸るまいと、堅く誓つて來たのではあつたけれども、父親の怒りの殊の外烈しくて、何を云つても取り合はないとの松井の手紙に、彼女は今更のようにその冷酷な仕打ちを恨まずには居られなかつた。
「私はこれから家庭敎師でも何でもして、自分丈はやつてゆきますから、貴方も一生懸命に勉强して下さい、そして一日も早く立派になつて私の親にも感心させて下さいましね」
「それや大にするさ、だから其樣に心配せんでもいゝよ。どうせ僕等と年をとつた人とは思想が違ふんだから仕方がない」
淳は呑氣らしく云つて荷物の箱から種々の品を取り出しては其處に並べた。其中には松井から特に淳への贈りものとして、高價な硯箱や卷煙草入のような品もあつた。四疊半の部屋は所狹いまでに油紙や新聞紙などが散らばつたが、美穗子は別に片つけようともせず、片手を內懷にして坐つたまゝ暮れてゆく秋の、淡い陽影を呆然と眺めて居た。柿の落葉は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

枯れ凋んでカサ〳〵と吹く風に舞ひ上つたりした。隣邸の花畑に咲いた秋草は末枯れて市松の天井を帳つた下には黄や白や、赤茶などの大輪の菊が見事に咲き揃つて淋しい灰色の黄昏を彩つてゐた。

「私一層思ひ切つて家へ歸りませうかね？」

淳の學資を絶たれたのもそれは自分と同棲して居る爲めであると云ふことも、淳の兄の此頃の口振りで知ることが出來たのを思ひ出した。

「私のために貴方に色々御心配をかけたり、御苦勞をさせたりしてはすまないのですから……」

今更家へ歸ると云ふことは如何にも女々しい、人も嘲笑ふかは知れぬ、けれ共それが淳の爲めであるならば、どのような決心も飜さなくてはならぬ、どのような苦痛も忍ばねばならぬと、美穗子は考へもしたのである。

誰一人同情する者とてもない彼女の家郷の樣子を知つて居る淳は、その健氣な心根を仇には聞く事が可能なかつた。その眞實に對しても自分は、慿うして一日も無爲に暮すことは出來ぬ。淳はいよ〳〵自身にかゝる責任の重さを感じて、寸時もヂットしては居られないような氣がするのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「今更家郷へ歸つたつて仕樣がない、それよりもこれから二人で可能るかぎり奮鬪してみようぢやないか。」

「それは私も望むところですけれども、お金だつて……此まゝでもうどうすることも出來ないぢやありませんか」

二人の今迄の生活は、美穗子の貯金で持續されたのであつたが、それも早や僅かになつて、其月の諸拂ひがよう〳〵位であつた。

「そこが奮鬪なんだ。」

「理窟はそうでも實際が許さなくては仕方がないわ。」

美穗子は可傷ましい眼を上げて淳を視た。

晩秋の陽はとく暮れて內も外も薄暗の、冷たい風が身にしみて男の蒼白い顏が丸く柔かく漂ふて見えた。

「父さんは妾を可愛くないのでせうか」

迫る胸から洩れ出るように恁う云つて、彼女は男の胸に縋つた。(未完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斷章　吉屋信子

I

つきはのぼつた
よるのかぜがふく
愛のくるまのわだちははまつた
いざなひのぞろに
いとしい靈の子馬のひづめはきづつく
つみのこひしに
かなしみよ
おほらかにひとみをみはれ
わたしはいまないてゐる

のぼらねばならぬ、
生の塔は杳に
いまだ
すくはぬ
愛の果を
いづみのそこに
もとめんと
わたしはきものをぬいだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はだか
いたましくはづかしい
きものをはげば
まづしいよごれたわたしのからだだつ
たもの。

III

赤ん坊
おまへの神様を
ほかにもとめるなよ
それはお母さま

私は人をむやみにほめる人も、又人をやたらにけなすことを仕事にしてゐる人も同じやうにきらひである、又人はいつでも慰められなければならないものだと考へてゐる人も御免である。私は眼に一杯涙をためて、ひたすら眞理（まこと）を求める人のみを受け入れることが出來る。

（パスカル）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分と周圍　山田わか

風邪氣で二三日ぐづ〳〵して居た。丁度明朝は日曜ではあるし、ゆつくり寢てなほして仕舞うと思つた。で、床に入る前にあつい密柑湯をすゝりながら、明朝、朝寐をる口實をつくつて居た。「今朝私頭が重いからあなた先き起きて頂戴」なぞと處が私のこの計畫はすつかり毀されてしまつた。それは午前三時頃であつた。「あー寒い」と云ふ夫の聲に氣が付いて見ると夫は全身をわな〳〵と震はして「寒い〳〵」と云ひ續けて居る。私は戸棚にありたけの蒲團を夫の上にかけて押へつけて居た。それから其の震へが納まるとドーッと熱が出て來た。四十度の熱である。私は着物をすつかり着てしまつて、うちのものを起し、醫者を呼びにやるやら、とにかく私は看護に寢食を忘れた。幸ひ、夫の熱は一日ですつかりとれて後は落付いてしまつたが、落付いてから「あら私が病人になるつもりだつたのに」と思つて可笑しくなつた。

それから私はこの自分を忘れると云ふ事に付いて考へて見た。それに付ての過去の經驗を思ひ出した。私が未だ幼少の頃、私の兄は傾きかけた舊い大きな家を背負ふて

しきりに、あくせく心配して居た。私の兄に對する同情は私の心の奥に深く食い入つた。どうか兄を樂にしてやりたい、兄を手傳ひたいと云ふ心が殆んど私の半生を支配して居た。

不幸にして、其の動機は正當なものであつたにも拘らず、無智のために種々誤まつた方向に行つてしまつたのであつたが、兎に角其の頃の私自身は兄のものだか自分のものだかわけが分らない。

今、子供が病氣になつたとする。自分の心も體も殆んど子供のものになつてしまう。夜も更けて世間がしづまりかへつた時、廣い世界に自分と病兒と唯二人が目さめて居るやうに感じる時、自分は病兒によりそうて、晝の間、何にかと病兒以外の事に心をくばつて居た事を病兒に詫び、そして自分の肉をさいても病兒を本復させる事を心に盟ふ。何を見、何を聞き、何に接してもこの時程心がひきしまり純粹になる事はない。他人との、日々の交渉に付ても、自分はこうしやうと思つても、もし其れが夫に不愉快を感じさせるであらうと思ふた時は、先づ夫の感情を害すよりは他人さまには少々は不義理になつてもと云ふやうな事を考へる。本當に自分は夫や子供のものだか自分のものだかわからない。

私が暗黑界をぬけ出た當時、私はその世界の人間(それは事に男性)が憎くて〳〵私の心身はその憎しみの焔で燃へて居た。「己

れどうして呉れやう。人の弱身をつけこんで思ふ存分人の生血を吸ふとする惡魔、頭から石油をぶつかけて裾から火をつけて燒いてやるから見て居れ。」こんな風に男性を睨んで居た。そして可笑しい事には自分が男性征伐の旗を掲げてまつさきに立つと、男に苦しめられたありとあらゆる女が、開闢以來のやはり男に苦しめられた女の亡者迄もが、皆墓の下から白い經帷子のまゝで出て來て私のうしろに立つ。と、こんな幻を見て私は一人で勇んで居た。」だから一寸でも自分に接近する機會のあつた婦人が男に虐待されたの、利用されたのと云ふと私はすぐ自分の命を投げ出して所謂その惡魔征伐にとりかゝるのであつた。私の其の生活は三年計り續いたが、まア今から考へると丁度小さなドン・キホテのやうなものであつた。

其時分である。私は今の夫に出逢つた。其時私の目に映つた夫は私がそれ迄に見たあらゆる男性とは全で別な人間であつた。

私はそう云ふ人間がこの地上に一人でもあつた事に奇異の目を見はつた。彼は直きに熱狂する私を靜かにさとして云ふた。あなたの熱情を決して惡いとは云はないが、その熱情だけではあなたの望む結果は得られはしない。あなたは其の熱情を効果あるやうに用ゆるために機械をおつくりなさい。則ち智識をあつめなさい。しばらく、其の熱情を押へて學問なさい。と、それか

ら彼は目に殆んど一丁字なき私を捕へて既でに十有餘年の間を一日の如く私を教へて來た。彼ば自分のつんで來た經驗自分の得た知識を全部私に注入しやうとして居る。處が家事に沒頭して自分の讀みかけた本のありかさへ分らなくなるやうな事がたまにはある。そうすると彼は目を三角にして臺所の隅から私を引きづり出す。こう云ふ風で今日の私は大部分彼の製造したものである。だから私は「私はあなたにつくられ、あなたにあやつられる人形だ」と云ふ。そうすると彼は「己れはお前に利用される器械だ」と云ふ。

　私は自分と云ふものを考へて見て、其の自分と云ふものが何處にあるかに迷ふ。この世の中に生れ出て來た事が第一自分の意志ではなく、生れてから後も、周圍の狀態が自分と云ふものをつくり。そして其自分の行動の的となるものは常に他の人にある。

　それで私はこう考へる。

　人間の肉體こそ個々別々に現れて居るけれども其の實質に於ては相互ひが最も巧に最も細やかに織りこまれてあつてとうてい一人々々、はつきり離して見る事は出來ない。肉親を捨てゝ自已の欲する道に走ると云ふ事は、其の肉親よりも他のものに（それは戀人であるかもしれないし又全人類であるかもしれないが）比較的大きな自分があるからで絕對に自己のためと云ふ事はない。つまり自分と云ふ經（勿論この經だけ

では一ツのまとまつたものではない）にいろ〳〵な緯が織り込まれて一個の人間が出來上る。この經に、ある時は配偶者と云ふ緯或る時は親の、兄弟の、子の、友人の、或ひは又全人類のと云ふやうに、其の緯が時により、こく、うすく、現れて經の色を變へる。であるから自分と云ふものゝ實質は其の時々に違つて居る。で、この緯の數が多ければ多い程、其の色がこければこい程自分と云ふ織物は立派で丈夫である。緯のあつまつて來る範圍が廣ければ廣い程自分と云ふ織物は大きいものである。

私の最大幸福は夫、子供、兄弟及び其の他自分に關係ある人達がみんな鎔け合つて一ツになつた時である。これに反して夫、子供、兄弟の間に調和がとれないで、ギチ〳〵して居る時には私は苦しくて息がつまつてしまう。それは、夫のうちにある自分、兄のうちにある自分、子供のうちにある自分、其の常に一ツでありたい自分が引き裂かれる事になるからである。

緯の少ない細い人は淋しくて弱いに違ひない。その意味で常に緯の多い、ふとい、私は幸福な人間の一人である。

私はこの自分と云ふ經に婦人問題と云ふ緯を織りこまうとして居る。

永い間力を養成する機會をもたなかつた我々婦人はお互になるたけ多く接近し、なるたけ多く理解し合ひ、お互の心の糸をふとく丈夫にすると同時に、其の糸を織り合せて、しつかりした、美しい織物則ち團體をつくつて、婦人の歩む道の障碍物をとつて行かなければならない。何千年を經て出來上がつた因習の力を一人二人の細腕ではどうする事も出來はしない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

初戀のなりゆき

岡田八千代

九

次郎さんの手紙は「かつ子」と云ふ私の同級の人の署名で來たのでした。開けて見た私はそれが思ひがけぬ次郎さんからのだつたので、急に暗い處から明るい處へ出たやうな心持になりました。

けれども、それもほんの時の間の喜びに過ぎませんでした、手紙にはこんな事が書いてあつたのです。

歌子さん、君はきつと僕が君に默つて轉校してしまつたことを怒つて入らつしやるだらうと思つてをります、けれども、なぜ僕が君に默つて町へ來てしまつたかといふ事は、別に此手紙の中に入れといた手紙を見て下されば分ると思ひます、僕の父はその手紙が來た翌晩、僕を側へ呼んで、その手紙を讀んで呉れた後ちに僕にかう申しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「次郎、親の心と云ふものは、誰しも我が子の事ばかりを案じるものなのだ、己れも少しも變りは無い、お前は、この手紙を聞いて誰を怨む事も無い、お前は此處で斷然あの學校を下つて町の中學へ行きなさい、中學の校長には、己れがかねぐ〳〵御前を預つて貰ひ度いと賴んでおいたのだから、何とか便宜を計つて呉れるだらう、然し、この事は決して歌子さんに云ふのでは無い、お前は今後ともに自分の意志が弱くなつた時には、此手紙を見て、しつかりと勉强して豪い者にならなくては不可ない。」

僕は只默つて父の言葉を聞いてゐましたけれど、僕は中學へ行くのは好いとしても、君に別れるのがほんとに詰らないと思ひました。それに僕は君の御母さんから、こんな手紙を貰つた事が殘念なのです、それで僕はつい泣いてしまひました。けれ共僕は父の心に反きたくありませんから、決心して中學へ行く事にしました。そして今日まで我慢してゐましたけれど、僕はどうしても君に惡いやうで仕方がありませんから、この手紙を書きました。けれども君から返事を呉れては困ります、僕は君に僕の心さへ分れば好いのですから、きつと返事は呉れては困ります、それから、君も君の御母さんに厭な顏を見せては困ります、決して御母さんが惡いのではありませんからね。いくら離れてゐてもお互ひに信じてゐれば好いでせう、そして二人ともに勉强して誰に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もなんにも云はれない位豪い人になつてから、又友達になりませう、別の手紙は見たら燒いて下さい、さやうなら。

別に封じ込んであつた手紙は私の母から、次郎さんの御父うさんに宛てたものでした。『突然ながら一筆しめし上げまゐらせ候』といふやうな書き出しで始まつてゐて、近頃自分の處の娘とお宅の息子さんと大變に仲が好いので、大層評判だと云ふ事だが、お互ひに一人子の事であるから、子供だからと油斷してもし間違ひでもあつては取りかへしがつかぬから、以來は決して家の娘が行つても上げて呉れるな、その代りこちらでも御子息が入らしてもお交際はさせないからと云ふ意味の手前勝手な手紙なのです、

私はそれを見ると身體が冷たくなつてしまひました。

一旦明るい處へ出たやうな心持は、今までの暗さを一層目立たせるやうなものでした、私はその日も翌る日も、たゞ何事も手につかずうつそりと物を思ふ身になつてをりました。

喜んで好いのか悲しんで好いのか、當時の私にはちつともけぢめがつきかねました。忘れずに便りをして呉れた上、お互ひに信じてゐやうといふ言葉はどんなに私の心を引き立てるものか分りませんでしたが、お互ひに一人子の事ゆゑ間違ひでもあつてはと書いた母の手紙を思へば、いひしれぬ心惡さに胸はかき亂されずにはゐられませんでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しかも次郎さんから決して返事を呉れるなと云つて來た言葉に對して、押し通して手紙を出すほどの强い事も私には出來ませんでした。

胸にものゝ障へたやうな日を幾日か過したでせう、私はいよ〳〵無口な不愛想な娘になつてゆきました。從つて私と母との間はいとゞ冷たくなつて行くばかりでした。

「歌子は身體でも惡いのかい、毎日厭な顏をしてるぢやないか。」

と流石無頓着な母も、時には私の顏をぢつと見る事などもありましたが、私はそんな時にも直ちに母の側を離れて、例の人形の室へ這入つてしまひました。

「胃でも惡いのだらう、藥をやるからお呑み。」

と父も案じて、粉藥などを調合して呉れましたが、私は呑んだ振りをしてはみんな机の曳出しの奥へ入れて置くのでした。

そんな中にその年も暮れて、やがて私も女學校へ行かなければならぬやうになつた年の事でした。私達の級全體が町の中學校へ春期の運動會に招待される事になりました。

（未完）

星の空

加藤みどり

冷い風が黄ろつぽい光線を震はせて晴れた空を吹いて居た。秋の光を一杯に浴びた町の家々の甍の上を舞つて居る蜻蛉の呑氣相な有様を仰いて文子は美しいやうな、懐しいやうな眸をやつた。限りない寂しい心から昔の幼い頃の秋の思ひ出が湧きのぼつて來る。此の頃文子の心は何に對しても現在をはなれた昔の事が偲ばれる。それは別にとりとめた形のある思ひ出ではない、只「感じ」のそれであつた。秋と云ふものを自分は幼い頃からどう暮して來たか。春夏秋冬、其の四季の中で今も尙ほ文子の心に深い印象を殘して居るのは秋であつた。山と野と川との自然の中に十九の年まで育まれて來た彼女は、「人」と云ふ考に對してよりも其の山里の自然に多くの思ひ出を持つて居た。

十歳の齡まで住むで居た文子の最初の家は背後に廣い林と南に廣い野とを控へて居た。裏の野菜畑の小道を一足通りぬけると直ぐ原にも林にも行く事が出來た。十月にはいると其の林の中には風が樹立を渡る音の間々にポト／＼と云ふ栗の落ちる音がした。時雨が霞むだ西の高い山から野を越え山を越えて里まで降つて來る頃になると其の度毎に種々の茸

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が其の林に生え出した。雨の間々を見ては文子は畚を腰につけて近所の友達と茸とりに出かけた。けれどいつも取つて來る茸はつまらないほんの食べられると云ふだけのもので、中には毒の茸なども混つて居た。雨方の袂には露に濡れた落栗が重さうにはいつて居た時もあつた。

山鳩や雉子などがよく林をあさり歩く子供達を驚かした。文子は朝から晩まで秋の林や野を歩き廻つてドン栗を拾つたり、赤い木の實をとつたり、種々の秋の花束を造へたりして餘念なく遊び暮した。家に歸つて來ると軒下の日當りの良い處へ筵を敷いて取つて來た草の實や木の實や、又は花などを土にさしたり、又苔などを何處からか集めて來てそれで小さい「自然」を造つて嬉しがつたりした。裏の池にはいつも木の管から淸水が流れ出て居て赤や青ゃ黒やの大きな鯉が澄むだ秋の空の下で呑氣に游いで居た。箱池の中には鰻などが飼つてあつた。文子は一方松並木に三方野の赤い實などの見える小籔に圍はれた池の畔にイむで其の澄むだ水面に映る蜻蛉や秋の弱々しい胡蝶の影などを恍惚と凝視て居る事もあつた。背後の山からは小供の叫ぶ山彥や、小鳥の鋭い啼聲なども聽こえて來た。

文子は昔と變らない此の秋の澄むだ空や黃ろい日の光を仰ぐと遠い〳〵昔の事が懷しく心に浮むで來る。浮世の苦しい中を二十年から暮して來た今の自分の傷ついた、傷々しい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心を思ふと、全く稚い頃の平和な幸福な日が不思議に思はれる。既う再びと昔に引き返す事が出來ない。何處まで行つても寂しい侘しい浮世なのだ。と思ふと堪らないほど悲しくなつて來る。

文子は郊外の電車を降りて市内の電車の方へとかなり人通りの激しい通りを其麼事を考へて歩いた。秋の日影を正面から青ほい洋傘を透いて受けた彼女の顏は水のやうに澄むで見えて居た。人並より少し大きい眼は絶えず眼に見えない或る空なものを透かして見やうとして居るやうに考へ深く輝いて居る。其の心持痩せの見える頬には心から湧き上る寂しさが現れて口が常よりも心持ち引き締つて居る。拔ける程白い其の額を兩方から蔽ふた前髪が微な風にハラ〳〵と亂れた。眸立たないほどの縮緬の襟をそつと前で合はせて、柄の好い銘仙の袷の上に一寸したお召の安つぽい羽織を引きかけて女優巻にした文子の姿は別に人の眸を引く程でもないが、何處となく普通の女のやうにも思はれなかつた。

「何者だらう。」と云ふやうな眼をして振り返つて行く人々には心づかないやうに文子は聽て出やうとする上野行の電車に乘りこむだ。車内は極く空いて居たので、文子は一番端に座をしめた。

文子は二ヶ月前信州から歸つて來た。少し神經衰弱氣味があつたので一時自分の實家に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

行つて居たのであつた、が再び都の人となつてからと云ふもの、彼女の心には云ひ知れぬ不安が新らしく生じた、それは彼女が良人と別れて一人の子供を連れて歸つて居る間の良人の心の變化であつた。

文子の良人は輝夫と云つて別に定つた職業はなし筆だけで生活をして居る。從つて收入とても不定の爲め文子は隨分苦勞もして來た、さうした生活上の問題から夫婦の間に思はしからぬ衝突もあつたが、それはほんの一時ではあつたものゝ、時重るに從つて生活の壓迫の爲め各々の心が荒むで來た。輝夫は家庭の爲めに束縛されて自由に自分の理想的な生活が出來ないと云ふ。自已の藝術と家庭との矛盾を云ひはる、又文子は文子で自分も家庭の爲めに犧牲になつて居て何一つ社會に出られるやうな仕事も出來ない、女は男よりも一層家庭に煩されねばならぬ家庭の責任は主人たる者の兩肩にある筈だと云ひ爭ふ。其麽責任を背負ふ必要はないと輝夫は頑張る。

輝夫は家庭を外に夜更けまで友人の家を遊び歩く事が多くなつた、從つて家庭の生活は愈々苦しくなるばかりであつた。文子は苦しい生活の中で長い小說に筆をとり始めた。早く書きあげて何程かの金子にかへやうと焦つたが、輝夫は時として其れを勵すかと思ふと又、頭こなしくさしてしまう事もあつた。文子の友人などが一寸した事で世間の噂に上る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と、お前は意氣地がないと妻が人知れず埋れて居るのを嘲るやうに責めるのが常だつた。

輝夫は無意識のやうにあらゆる女を文子の前で褒めるのが癖であつた。其の度に文子の心は煮えくり返る程悲痛の涙が湧いて出た。何獨身でさへあつたら！其の度に文子は自分を束縛して居る家庭と、壓迫して居る良人が呪はしくなつた、輝夫が夜更けて電車の音も遠のいても未だ歸らない時など、いつそ今夜家を飛び出して行かうか、とまで思ひつめて見ても、行くべき家なく、目的もない自分と思ふとつい其の芝居氣も消えて、只管、良人の重い足音にのみ耳が欹てられた。未だ幼い子供の寢顏も悼々しかつた。

さうまで、文子の心は傷ついて來ても未だ輝夫に對する信は消えなかつた。其の强性な誰にも負ける事の大嫌ひな性分、勢力に於ては輝夫の友人の誰にも負けない其等の點と而して酒色に溺れて自己を忘れ、子供を忘れ去るやうな人ではない事だけは文子は何處までも信じて居た。夜遲くなつても決して行つた先を尋ねて見た事もなく又友人のところに話しこむだ位に思つて居た。從つて良人の心持に立ち入つて冷靜に考へて見ると同情に堪えぬところもあるので、いつそ幾ヶ月か歸つて良人を一人で居させて見たら、或は氣も變り、其の間充分に生活の用意も出來、勉强も出來るであらう。殊に自由に呑氣に遊び廻れるだらう。と其麽事を考へて文子は六歲の男の子を連れて歸鄉したのであつた。

けれど文子は其の二ヶ月の別離が自分に何れだけの苦しみを與へたかを思ふと、良人を一人身で置いた自分の心持が情なくなつた。あゝ自分は歸らねばよかつた。期待して歸つたそれは皆失望であつた。二ヶ月の間輝夫は家庭を持つて居る以上の金子をつかつて居た。而してかなりな借錢も殘してあつた。それのみか輝夫の心は文子からすつかり放れてしまつて居た。それは文子自身でさう信ずまいとしても種々な留守中の事を知るに從つてさう思はずには居られなくなつた。良人と或る女――それは文子には只一人きりの心を許しあつた友人であつた――其の人との噂がそれとなく文子の耳にはいつた。

文子は良人を何處までも其の點では信じなかつた。何程貧乏しても、何程思想の衝突があつても自分等を繼ぐ只一つの愛の絲さへあつたら自分は何處までも生活の苦痛と、思想の矛盾は堪え忍ぶことが出來得る――とさう思つて居たのであつた、が其の只一つの良人との連絡の絲が切られたとしたら……然し文子は友人をも信じ、良人をも信じ度いと堪えず自分の疑惑の見辛い影を追ひ拂つて居た。優しい良人として見る時は決して其麼忌しい事は文子の心を暗くしなかつたが、自分を度外視するやうな二人の交際を見るにつけて文子の心は忽ちに掻き亂されるのが常だつた。殊に友安子の日頃の振舞を見て居る、文子は或は安子自身は何の氣もなくてさうした對度を自分に見せて居るのではないか、それを嫉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

妬の眸で見る自分が間違つて居るのだと折々思ひ返して、日頃自分に姉妹以上の親切を見せて呉れた友の心を最も清いものに思ひなほさうと出來る限りの努力を盡した。けれどさう思ふ文子の信を折々裏切るやうな二人の様子を見ると、侮辱される事の苦痛を今一倍感ずる文子にとつては知らん顔をして居るわけには行かなかつた、殊に良人が安子の手で多額の金子をこしらへて貰つて居る事を知るに從つて云ひ知れぬ苦しさを感じた。

「文子さんは私と貴君との交際を疑ふやうな女じやあない。」と安子は云つて居たと云ふ。「私は島さん(輝夫)に對しては妻君以上の親切を盡して居るのです。」と安子が良人の增田に云つたと云ふ言葉を輝夫の口から得意さうに聽いた時、文子ははしたなくも口惜し涙が出た。

「奥さんが歸つていらしたら何からお話しませうね。一緒にお芝居へ行つた事から、それとも彼の事から……」其麽心づかひをするのが水臭いと文子がそれを聽いた時良人に恨みがましく云つた。

安子は一體、世間に名を賣る術を常に考へて居るやうな女であつた。從つて大勢の前でわざと噂の種子を蒔くやうな振舞をして見せる事はよく文子も知つて居た。劇場や、音樂などの席上でわざと相手を摑へて際どい振舞をして人々に好奇心を起されるのに興味を持

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて居るやうな女であつた。輝夫が人一倍女になど無頓着で、變人である事を知つて居る安子は輝夫を相手どつたら必ず世間や又輝夫の友人——文壇に噂の種子となるだらうと云ふやうな一種の惡戯から出たのであらう、と云ふやうに輝夫も文子に辯解的に云つた事もあり、文子もさう信ずる時もあつた。

　けれど彼女の心は日にまし孤獨になつて行つた。讀書に耽つて居る時も不圖放れて行く良人の心を思ふと茫然涙にくれる時もある。夜の夢などには折々悲しい聲をあげて良人や子供を驚かせる位にまで文子の心は亂れて來た。良人の外出に別に今迄不安を持つて居なかつた文子は非常に神經過敏になつて良人の留守の中はちつとも心が落つかなかつた。自分は斯麽にまで良人に執着して居るのだらうかと自分で自分の心がはがゆくなる事もあつた。其の癖折々謀反氣が反抗的に起つて何物をも破壞してしまおうとする。

　夫婦の間には絶えず安子の問題が話題に上つた。何と云つても安子と輝夫夫婦との關係は時の來る迄切る事が出來ないものであつた。

　文子は安子に對して其麽に思つて居ても良人を除いて二人で相ひ對する時は全く昔の通りな暖い感情に浸る事が出來た。が然し安子も折々文子が自分に對して疑惑を持つて居ると云ふ事を輝夫から訊いた事を思ひ出すと冷かな一種の嘲笑を口元に見せる事もあつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文子も同時に友の心持を直感するとぴつたりとあつて居た心が忽ちに隔れてしまう。

田舍へ歸らない前までは悲しい事があるにつけ、嬉しい事のあるにつけ直ぐ安子の許へ馳せつけて家庭の事、良人の事、自分の心持を洗ひさらひ話して相談をかけ、時としては金錢上の心配までして貰つた事もあつた。それまでは輝夫は二人の背後に陰れて居る人であつたが今度は大手を擴げて文子の前に立ち防がつて安子と文子との間を隔てゝしまつた、それを思ふと、文子はあれ程安子を信じて打ちあけた自分のはしたない心持が今更口惜まれて來た。誰にも心を許した事のなかつた自分が、只一人の友人と信じ手頼つた爲め、今に至つて後悔しなければならない。安子が輝夫の心を捕へるやうになつたのも、文子の心では、自分が夫婦の日頃の思はしくない仲らひを打ち開けて居たからである。安子は輝夫が文子を深く愛して居ないと云ふ心の缺陷を突いて打ち込むだつもりなのであらうとさへ考へるのであつた。

さうした疑惑の煩悶の中にかなり苦しい日を文子は送つて來た。ところ、今朝又も文子の心を後から突き飛ばしたやうな事件が起つた。それは文子の友人の上に降りかゝつた問題で、文子は思はず自分を顧られて來た、同時に不安と危惧の念が遂々家に文子を落ちつけさせなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其の日の朝文子は机の前で新聞を開いて居た、すると社會面に二號見出しで三崎夫婦の別居問題と云ふ文字が出て居た。驚きと好奇心でそれを讀むで居た文子は輝夫が起きて來るのを待つてその夫婦に就いて種々の話を一種の好奇心で語りあつて居た。

朝飯の時も二人は其の話より他語りあはなかつた。すると飯を濟ましたところへ直ぐ近くに居る文子の友人、女流作家として相當の位置をしめて居る友が矢張新聞の記事を見て驚いて飛んで來た。

文子と其の友人とは文子の書齋でよく二人とも知つて居る其の夫婦、三崎夫婦の事に就いて話しあつた。始めのうちは輝夫も其處に居て其の問題に就いて批評めいた事を喋舌つて居たが、何か用事ありげに二階へ上つて行つてしまつた。

此の問題は文學者の夫婦生活と云ふものを文子にも其の友人にも深く考へさせた。文子の友人と云ふは薫子と云つて文子より五つ六つ上で、去年齡下の若い音樂家と結婚した。新らしい自分の家に住み藝術的なかなり豐な生活をして同じ文學者仲間の間では羨望の的となつて居る、文子も薫子も七年間も同居して子供まである夫婦が突然別居したと云ふ事に驚きの目を見張り、緊張した心持で友人夫婦の今迄の樣子などを語りあつた。殊に旣う五十に近い中年の男子が敬愛して居た妻を捨てゝ他の女と通じて妻子を捨てゝ去つたと云

ふ事、其の三崎と云ふ文學者は自分の妻は世にも類のない偉い女として世に紹介して居た事などから考へて見て二人は今度の事件が餘りの唐突なのと意外なるに驚いた。然し文子は三崎夫婦とはかなり親しくして來たので夫婦の間が折々思はしくなく衝突のあつた事なども知つて居たので或る點から考へると別に不思議な事でもなかつたが、何だか單に好奇心の目で冷かに視て居る事は出來なかつた。殊に男子に對して不安を抱くやうになつて來た文子の心には直に自分の境遇を顧られて何とも云へない厭な氣持がした。

元より輝夫と三崎とは齢も十四五から違つて居て、思想も同じ文學者で、折々議論を鬪す間柄であつたが、隨分違つたものであつた、然し三崎氏の弱者を强者は勞る必要がない、何處までも人生は强者の勝利である。其處に同情を持つ必要もないと云ふ説は、輝夫も贊成であつた。折々文子が輝夫に同情や憐愍のない事を云ふと「弱者に何の同情があらう。同情を求める者は人生の敗北者だ」と云つて文子を口惜しがらせた。その樣な説をなすに至つたのも文子が信州から歸つて來てからの事で、それ等を思ひ合はすと文子は中年の戀男子が漸く妻に倦きて他の女に心の傾いて行く其の自然の傾向を思ふと呑氣にしては居られない氣になつた。未だ良人は中年にはならない、けれど旣う他に新らしいロマンスを憧れて歩いて居る。その心持を束縛する事も、又理屈でどうする事も出來ない、それを思ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と文子は自分の力を考へずには居られなくなつた。

友の薫子は未だ結婚して二年とは經たない新らしい愛と希望に輝いて居る其の齡よりも若やかな顏に微笑を湛へて、

「ね、男子は若い時には自分の齡よりも上の女が好いんですつて、中年になるとずつと若い女が好きになるつて云つてよ。お互に氣をつけなくつちやあ――」

薫子の微笑を堪へた顏には決して不安な色は現れて居なかつた。久しい間獨身に馴れて來た友は良人に別れたとしても別に不安でもないのであらうと文子は其心持が羨しかつた。

「貴君など御氣をつけなさいよ。」と戯談らしく云つた友の言葉が限りなく文子の心を刻つた。文子は蒼い顏をして、

「其の時は私にも覺悟がありますよ。然し三崎さんの奥さんのやうな態度には出ないつもりよ。私には私として又處置のしやうもあるわ。」と寂しく微笑して見せた。

良人が默つて外出してしまうと文子は寂しさに追はれるやうにして晴れた秋の空の下に忍び出たのであつた。

文子は電車が四ツ谷も通り、麹町を過ぎて九段まで來ても何だか茫然として居た。既う種々の事を考へるには其の頭腦は疲れて重い鉛でもつめ込まれたやうに動かなかつた。上る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人、降りる人のそれ〴〵變つた顏立や服裝も文子の目には同じ黑い陰氣な色に見えて居た。良人の事も、又今朝の新聞の記事も、只重い塊となつて文子の心を寂寞の顏に押しつけた。文子は一體自分は何處へ行くつもりで家を出たのであらうと始めて自分の行先を考へて見た。上野行きに乘つた點から考へて見ると儘に文子は安子を訪れるつもりだつたらしい。長い間何につけても安子に引きつけられた文子の心は習慣的に斯うした場合も安子に吸ひついて行つた。

思ふ間もなく快い秋の町の中を電車は走つて小川町の停留場に止つた。文子は魔にでも魅かれた人のやうにふら〳〵として降りた。降りると直ぐ安子の家に入る露路が目の前に現れた。

不圖文子が心づいて足を止めた時、其の前に突つ立つて居る增田のひよろ長い姿が眼に止つた。

「あら增田さん、何處へ？」と文子は首垂れて步いて來た其の顏をあげた。

「いや。一寸そこまで」と云つても彳むた儘何處へ行かうかと思案して居るらしかつた。

「安子さん御宅？」

「エエ、居ます。お寄りなさい。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

家に安子の客のある時はいつも增田が出てしまう事を知つて居る文子は、斯うして行く先を考へて居るらしい增田の樣子で直ぐ來客のある事に感付いた。感付くと同時に電光のやうに文子の心に閃いたのは輝夫の事であつた、或は輝夫が來て居るのではあるまいか…

……

「お客さんですか。」

「エヽ。」

「私、一寸御邪魔しますが、お歸りになりませんか。」

文子は增田は決して嫌ひではなかつた。どうかして六ケ敷い冷膽な顏をして不氣嫌を見せて居る時もあるが、其の洋行歸りらしい(增田は三年前洋行して歸つて來た)何處か社交にたけた、そのくせ餘程變つた性格を持つて居る增田に對しては少からず好奇心も持ち又親友の良人として尊敬もして居た。同時に寂しい人と云ふ氣分を感せさせられるのが文子には好きだつた。安子の陽氣な性分に對して全く增田は陰氣な暗い人であつた。斯うして行く場所に思案をめぐらし乍ら家にも歸れずイんで居る增田が堪らない程氣の毒になつた。

さう思つても何と口に出して云ひやうもなく文子は優しく會釋して下駄の音をさせ乍ら露路の中に奧深くはいつて行つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一つ角を曲ると其處が安子の家であつた。磨り硝子が固く締め切つてあつた。

重い硝子戸を開けると鈴の音がして奥から人の話聲と酒の臭ひとが直ぐ文子を襲つた。

「誰方？」

例の艶のある馬鹿に美しい安子の聲がすると一しよに玄關に面した小窓が開いた。何時も安子は其の窓を背後に坐つて居て來客だといふと坐つた儘身體をねじつて其の小窓の障子を開けるのであつた。

日頃血色のよくない安子の顔が稍酒にでも熱せられたとも思はれる赤い顔を文子の眼の前に現した。

「まあ、文子さん今お客よ。いいわ、およりなさいな。」

文子はさうした言葉を飽足らなく聽いた。前なら、まあ、うれしい、よくいらつしてねさあ早く、と引きあげないばかりに喜び迎へたあの樣子が全く變つて居るのを文子はわびしく思はずには居られなかつた。

未だ其の時まで輝夫の事が氣にかゝつて居つたが茶の間にはいつて見て初めて自分の氣の廻し過ぎたのを馬鹿らしく思つた。

其處にはビールの空壜がゴロ〳〵と投げ出され、食べ殘しの大きな鮨皿や、魚の皿など

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が取り散らされて、未だ各々の洋杯の中には泡の消えた液體が椽側から來る眞晝の光線に透いて黄金色に見えて居た。

男の客が二人、一人は洋服の上着を拔いで胡坐をかき、一人は日本服の質素なりをして、胡坐もかゝなく身體を一方の壁に投げかけて居た。

「此方へいらつしやいな。」と安子は自分の眞向に座布團を投げた。

「御紹介します。」と云つた調子で洋服の男は××雜誌の岩藤さん。此の方は同じ雜誌の野枝さん。

お互の簡單な挨拶が亂れた席の兩方でとり交はされた。

「どう。文子さん。一杯。」

洋杯が手近になかつたので安子は長火鉢の猫板の上にあつた美術學校製品の湯呑を醉つて震へる手にさし出した。

「私、今日は澤山、頂き度くないの。」

「さあ、いゝじやあないの、私よつちまつたわ。まあ一杯。」

それでも文子は手を出さなかつた。

「呑まなけりやあいゝわ。」と冷い顏をして湯呑を餉臺の上に置いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「やーこりや、こりや。」何のたわいもない事を云つで安子は兩手をブラッとあげて首と共に動かしたりした。

「相變らずお盛んね、今私、其處で增田さんに御目にかゝつたわ。茫然立つていらつしてよ。」

斯うした光景を見るにつけて增田の今の寂しい姿を文子は思ひ浮べずには居られなかつたそれが安子や二人の客には皮肉に聽こえた。

「さう。今歸つて來て、直ぐ出て行つたわ。」と何げなく云つて、

「さ、大に呑みませう、岩藤さん。もう一杯。」

矢張覺束ない手に半分ばかり殘つて居る壜の口を傾けて岩藤の前こゝみにさし出した洋杯の中に注いだ。

「野枝さん、貴君何を茫然して居るのよ。さあ御飮みなさいな。」

默つて上眼にジロ〳〵見て居る男の前に岩藤にさし出した壜を又もつきつけた。

「もう僕は………」

「まあ、貴君はしんねり、むつつりで、私大嫌い。厭な者はおよしなさい。さ、さ、岩藤さん。やりませう。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ツンツンテンテン、や丶こりや、こりやと又もたわいなく手と首とをゆすぶつてその朧朧とした目を何處となく安子は漂した。さうしながらも左の手は洋杯を放さなかつた。

「そら壺坂のあそこの觸が馬鹿にい丶じやあないの……」などと觸の一くさりを口誦さむたりした。さうかと思ふと、

「ね、一寸、野枝さん。貴君は何を考へこむで居るの。そら又美代さんの事およしなさいな。」と一寸打つ眞似をされて、野枝は黑い小さい顏を赤くして相變らず上目づかひに美しい安子の顏を見て、

「そんな事を考へてゐやあしませんよ。」

「これならお酒を飮んだらい丶じやあないの嫌いよ、其麽六ヶ敷い顏して居る人は。」

此の時文子は岩藤と三崎夫婦の問題で一寸議論めいた事を云ひあつて居た。而して安子と野枝との會話を耳にはさんだ時此の野枝と云ふ人が問題の美代さんを日本唯一の偉い女と祭りあげて一人で騷ぎ廻つて評判をとつて居る人だと心づいて、今更其の物耻しげな何處か初心のところのある其の人を疑視て居た。

岩藤は酒を飮むに從つて其の肥えた愛嬌のある、女の一寸好さ相な顏が愈々蒼白くなつて來た。而して話が理屈におちて、同じ事ばかり、下向きながらくり返した。

「夫婦喧嘩を明みへ出すつて法はない、皆名を賣る業なんです。さうです、今の人は其の名を賣る手段ばかり考へて居る、けしからん、眞面目な者は一人もない、全く一人もない。吾々の立場としたら彼の夫婦何ちにも同情はよせられない、唯冷靜な批判を下すばかりです。さうです、何處までも冷靜に……」

「お止しなさいな、岩藤さん、理屈など、私酒を飮みながらさう云ふ理屈をきくのが大嫌ひ。」

安子は文子が折々理屈を云ふ癖があるのを知つて居る。それが岩藤を摑へて又初め出されたら大變と云ふやうな氣持がして何處までもそれを止めさせやうとした。

けれど文子は何とか此の問題を喋つて見度かつた。

「人の夫婦喧嘩などで騷いで見たつて仕方がないわ。」

「さうです。安子さんだけはよく判つて居る、偉い、實に偉い、大に君の健康を祝ふとしませう。」

「さう嬉しいわ、それならもう一杯、これを二人で飮みませう。」

安子は又岩藤の洋杯にビールを滿たして、

「さ、二人で飮むのよ。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「宜しい。」

岩藤は膝すりよせて一つの洋杯の酒を安子と口をつけて半分ばかり飲みほした。

「愉快、愉快。どうです、何處かへ飲みなをしに行きませうか。」

「えゝ、行きませう。野枝さんは？又美代さんの事を考へて居る、さあ、お酌をなさい。」

云はれて野枝は眼元に微笑して默つて安子の酌をした。

「私、熱くつて仕方がないから、煽つて頂戴」

團扇をさしつけられて、矢張野枝は不器用に安子を脇の方から煽つた。

「おや、私、大切なお客さんを忘れて居た。文子さん、御免なさい。貴君何かおあがりなさいな。お鮨があるわ、殘りものだけれど。」

脇によせてあつた皿を文子の前に差し出した。文子は默つてそれを受とつた。

「貴君、面白くない？氣持が惡い？私騷ぐから。」

さう云つて首を傾けて文子の顏を覗くやうにした安子には全く邪氣はなかつた。常の蒼白な顏は生々と輝いて赤くなつては居るが何處か荒んだ影が其の未だ三十にとゞかぬ顏に現れて居る。

「私、今日は少し氣が沈んで居るのよ。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「相變らずね。貴女はいつもさうね、少し私の眞似をしてお酒を飮むで、騷いで、芝居見に行つたりして御覽なさい、何もかも忘れてしまつてよ。御主人の事ばかり考へて居ると狂人になつてしまうわ。三崎さん見たいな眞似をしたい男子はさせて置くがいゝわ、貴女御主人が何をしやうといゝじやありませんか。貴女も意氣地がないのね。貴女も男をこしらへて世の中を面白可笑しく暮したらいゝじやないの。」

安子は斯う云つて一寸嘲の色を口と眼元に見せたのを文子は銳く認めた。前の中は一口として斯麽事を自分に云つた事はないと文子は友の心持を押し計つていよ〳〵厭な氣持に墜ちて行つた。

時計は三時四時と進むで秋の日は忽ちに暮れて行つた、それでも文子は立たうとしなかつた。此處を立ち去つたら尙ほ寂しい思ひをしなければならない。兎に角今の自分が居られるところで一番面白相なのは玆であると思ふと電氣がついて、座敷の隅々から夜の色が濃くなつて來るまでも文子は席を立たなかつた。

三人は芝居の話や女優の噂などをして居たけれど其の中でも野村だけは中々口重で酒にも唇をつけなかつた。

文子は先程見た增田の事を未た忘れなかつた。さうかと思ふと、外の露路を行く人の足

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

登に或は良人の輝夫が這入つて來はしないかと云ふ不安もあつた。文子は友の安子と良人とを並べて見ると云ふ事は非常に心苦しい事であつた。良人の眼が絶えず友の上に、友の眼が絶えず良人の上に注がれて居るのを脇から見ると云ふ事に苦しい嫉妬と侮辱を感じた。歸りさへすれば何事も知らなくつてそれでいゝのだと思つて見ても良人が若し來て自分が居たら何のやうな顔をするだらうと云ふ事を考へて見ると其處も立ち去れ得なかつた。然し安子は全く自分を忘れる程醉つて來た友の亂れた有樣を見て居るのが忍びなくなつたので文子は思ひ切つて立ち上つた。

安子は銘仙の前をはだけて、赤い友染の長繻絆を見せて覺束ない足どりでやつとの事で玄關の上り口まで送つて出たが、其處へ遂々仆れてしまつた。

「這麽に醉つた事はない、岩藤さん、手をひいて頂戴よ。」と云ふ聲を背後に文子は外の冷い空氣をホッと吸つた。

明い電車通りに一足で出やうとする出あひ頭にすれちがつた其の人、ハッと思つて顧る間もなく曲り角で其の影は消えた。

はて輝夫のやうであつたが、と思ふと文子は自分を顧るひまはなくなつて再び友の玄關口まで引き返して、そつと銳敏になつた耳を聳てた。

中からは岩藤の聲が多くきこえて、他に野枝の小さい聲がしのびやかにして來るばかりで輝夫の居さうもなかつた。

輝夫は外出すれば必ずよらずには居らない安子の許を今日は訪ねないのであらうかと文子は今更自分のはしたなさが恥しくなつた。

若し這麼氣持になつて、良人が今此の家にはいつて安子と親しげに話して居る聲でもきいたとしたら自分は何のやうな振舞をするであらう、それを思つてハッと文子は自分に歸つた。

髪ふり亂して血相かへた嫉妬の狂女の姿が眼に浮ぶと文子は幽靈の怖ろしい幻影にでも追はれるやうに明い町へと足を向けた。

文子は夢中で何時の間にか九段の前の牛ヶ淵公園へ來て居た。柳の葉は髪の上や肩にふりかゝつた。高く澄み切つた空に星が人の心の秘密を囁くやうに瞬いて居る。それが文子には幼い頃、母親や祖母から頭に入れられた神様の象徴のやうに見えて來た。凋落を待つ秋の自然の中にお濠の黑い動かない水を臨むで佇むだ時、文子の頰には幾筋かの涙が傳つた。足に踏む草、ヂー、ヂー、コロ／＼と啼く虫の音も既うかれて居る、パラ／＼と耳元近く散る木の葉の音其等を包むだ文明の都會の夜の響が休息のない息忙しさを示して居る

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の時兩手で思はず自分の身體を抱きしめた文子は自分ほど大切のものはないと心に叫むだ。自己を愛す事が出來たら良人をも友人をも、又世間をも愛する事が出來る。あ！私は自分と云ふものを忘れて居た。私は自分を侮辱して居た。自分ほど大切なものはない。自己をしつかり摑へて居たら何で寂しい事があらう。

彼女はさう思つた時空の星を仰いて微笑むだ。早く歸つて小說の緒言を書かうと。

（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

辣薤のはな

茅野雅

幼な子の手をはづれたる風船をとりとめもなくみつむるこころ
君遠し海のあなたか雲の上かしらねどあはれ消息もなし
眞紅なるだりやの花がわがこころまつかにひかり生きてあるかな
匂ひやかに君が瞳にさきし花いつとはなしにわがものとする
手もふれで石は石とし捨てらるるさびしき國にわれや死ぬらむ
火のもゆる大き海ありあかあかとこの身もいつか火となりにけり
いとほしき夫やわが子に云ひ得ざるかなしきことのあらばいかにせむ
かたるまにいつか眞紅な萬年青の實かくるるまでに雪つめるかな
朝ごとに庭にきてなく鳩ぽつぽかなしやわれをひとりなぐむる
二三人しろき心の戸をだたき訪へるもありきそのかみのこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いみぢくも聖のふみをよむごとき涙おぼゆる君が消息

山のみちふたつにわかる石投げてゆくへさだむるわれならなくに

うすあかき辣薤の花の咲く畠に子を負ひながらものをおもへる

くろ土を三寸ばかりはみ出だし大根の光る畑の夕ぐれ

大なる花もつ木かな木蓮はわれのこころにひつたりとそふ

われのふむ土の底にも何かしらうごめくもののあるを感ずる

なに故のことのもつれかかなしみか物も得云はず泣く二人の子

枯芝のうへにまろびていちごきに涙おとせばやや心なぐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

日本婦人の社會事業に就て 伊藤野枝氏に與ふ

青山菊榮

伊藤野枝樣

まだお目にかゝつた事はありませんがお書きになつたものは時々拜見いたして居ります。私が青鞜を手にする事はごく稀なのですがその時にはあなたのものを見のがさずに居ります。私はあなたの議論に敬服するよりもあなたのわき目もふらぬ一心な態度に引きつけられて居ります。幼稚であらうと大ざつぱであらうと心からの叫び程尊いものはありません。あなたに前條の缺點はあつてもそれは智者とか學者とか云はれる人々の取り濟ました悟り顔とは比較にならぬ微瑕にすぎません。斯ういふ樣な譯で私はあなたが好きなのです。好きな丈にあなたのお書きになつたものゝ中にお考の不十分な樣に思はれる點を見出すといかにも殘念な氣持がいたします。

其の殘念な氣持をそのまゝ消し切れなくてあなたの前に披瀝したくなつた結果が此手紙なのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さて何がそんなに殘念かと云ひますとそれは青鞜十二月號所載の日本婦人の公共事業に就ての論文のうちの所々の御議論でした。前半に就ては私はあなたの論旨に異議はございません。自分自身何等の識見無く反省なき無知無能の連中、貴婦人と呼ばれる人間性を失つた特殊の民族が時々花を賣るとか旗を賣るとか愚にもつかぬ遊戲を思ひついて通行人の妨害をするのは以ての外の事です。私共忙しい貧乏人はどの位迷惑するか分りません。彼等の慈悲心がそれをさせずにおかないとかいふ事なら何も往來へ出てやらずともの事です、そして通行の貧乏人——どうせ人に施す位の餘裕のある金持は馬車か自動車でつかまらない樣に駈け拔けて了ひます——を强請つておいて博愛顏をせずともの事です。彼等の家にはさういふ遊戲に適當な廣い芝生や美しい築山がある筈です。彼等の指環、彼等のブローチ一個でも私達の十年の勞働より高價であるに違ひないのです。何を好んで彼等は今日の糧を案じる人々の血の樣な金を强奪したいのでせう。私は暗夜に戸外を窺ふ覆面の男より白晝辻に立つ美裝の强盜をより恐れより憎みます。

私は曾て或養老院に資金を出して居る富豪の寡婦と話して居ました。寄邊のない年寄達の身の上をきくと、子供や孫に慕はれて賑かに暮して居る世間の老人と比較して實に氣の毒な氣がしましたので、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「隨分寂しいことでございませうね」

と私が云ひますと其の人は

「何寂しいことがありますものか、多勢一所に居るんでございますもの」

と平氣で居りました。そしてその人はその多勢が寂しくなく幸福にして行かれるのは幾分自分のお蔭だといふことをにほはせ、それに對して稱德の言葉を私から聞きたい樣子でした。金持は第一に自分が何故富んで居るのか、貧乏人が何故貧乏なのか考へて見た事があるのでせうか。もしそれを考へて見たなら、そしてそれが分つたなら慈善などゝいふ馬鹿な眞似は出來ない譯です。その代りに他人の勞働を盜むことを卽刻にやめ、蓄積した資財の一切を擲つて身自ら額に汗してパンを獲やうとしなければなりません。そして慈善がしたくても出來ない世の中、貧乏人の居ない世の中を早く作り出さうとしなければなりません。以上はあなたの論文の前半に就て私の賛意を表したにすぎません。さて其の次の條、「婦人矯風會」の事業の一部について私はあなたと多少異つた意見をもつて居ります。婦人矯風會とは一體何をする會なのか私は少しも知りません。多分今日まで人に知られる丈の何事をもして居なかつたからでせう。しかしその會が主になつて居るのかどうか知りませんが公娼廢止運動といふ事はあなたの仰しやる程無意味な無價値な問題では無い樣に思ひ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ます。それ所か爲た方が好く亦爲なければならぬ事だと思はれます。私も曾てこの問題に就て全然無知であつた頃にはあなたと同じ樣な意見を持つて居りました。しかし此頃それに就て少し許り調べて見た結果、公娼が名實共に私娼より不正であり有害である事を知りましたので勢ひ廢娼論者とならざるを得なくなりました。その調べた結果は一月から創刊の「社會政策研究」といふ雜誌に出る筈ですから是非御一覽を願ひます。公娼にも集娼散娼の二種あります。日本の遊廓制度は前者で外國のは多く後者です。無論兩方とも風俗衛生等の點に於て優劣はありません。何にせよ賣淫を公然の生活手段として許す以上いかに取締つても甲斐はありません、亦公娼の辯護者の迷信して居る檢黴なぞの全く無效な事は日本及歐米の醫者が公然證明して居ります。日本の公私娼の黴毒は共に七〇パーセントだといふのを見ても分るではありませんか。又日本の公娼制度は日本の封建制度が產出した特殊のものであつて外國には全然類の無い悲慘と殘酷とを供へて居ります。第一に私娼とは肉體的自由の點に於て非常な差があります。廓外に出る事は無論、大抵は戶外に出る事も許さないのです。また食事などに至つてはお話にならないのです、何しろ一日二食で一度の副食物が一錢といふのですから。殊に賣れない娼妓なぞは絕食させられても文句はないのです。そしていかに稼いでも儲けは皆樓主のものになつてしまふので年限は延び借金は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

増す一方なのです。御參考迄に山室軍平氏の「社會廓淸論」の一節を左に。

「娼妓の前借金に不思議な事は彼等が娼妓を勤める事に依て前借金が減る代りに却て増すのが多いといふ事實である。もとより其精算勘定がどうなつて居るかといふ樣な事を知つて居る娼妓など殆ど無い。大概は皆貸座敷營業者が娼妓の印形を保存して居て、其時々に勝手な事を帳面に書き込み好きな樣に捺印するのであるから斯ういふ結果を見るのも不思議では無い。私共が取調べた百人の娼妓の中自分の前借金の増減を自分で辨へて居る者は只二十六人に過ぎなかつた。然らば彼等が娼妓になつた當座と比べて其後前借金の増減は如何やうになつて居たかと云ふに、

前借の増したもの　一八

前借の減じたもの　八

卽ち増した者七に對する減つた者三の割合である。増した中には、

前借金二百六十圓にて娼妓となり、五年三ヶ月勤めて三百二十圓に増したもの

前借金二百八十圓にて身を沈め一年七ヶ月勤めて三百七十圓に増したもの

同三百四十圓にて身を沈め滿二年の後に四百圓に増したもの

等がある。其反對に減つた者の中には、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

前借金四百五十五圓にて娼妓となり二年一ヶ月勤めたる後四百五十圓になりたるもの、即ち二年一ヶ月の醜業に就て漸く五圓丈返濟し得たものなどがあつた。」

こんな制度を公認しておいて好いでせうか。同じく悲慘でも當人の爲めには私娼の方がまだしもなのです。私娼の害毒が公娼と同程度であるならば公娼を廢しても差支はない譯ですし、斯うした奴隷賣買兼高利業を保護する政策はやめなければならぬとはお思ひになりませんか。私娼の取扱に就ても私が讀んだ二三外國の書籍には、賣淫を犯罪とするならば其犯者たる男子も同罪であり、背後に居る使嗾者も亦處罰すべしと論じてありました。フォーセット側らしい一英國婦人は「婦人運動の將來」といふ小册子の中に之に言及して「AとBの二少年が共同して林檎を盜み、A丈發見された時、社會はAにBの罪まで被せて二重に復讐して好からうか。賣笑婦の處罰は之に類して居る。賣淫は婦人が單獨に行ひ得る行爲で無い。之が其犯者は堂々社會に幅を利かせて居るのに婦人のみ獨り汚辱を被る謂れがあらうか。」と云つて居ります。それは兎も角も一切の賣笑婦の供給を斷つ爲めには社會の改造が必要です、無知と貧乏が凡ての醜惡な行爲のもとなのですから。それから一つは男の身勝手ですね、どうしても之を制さなくてはなりません。あなたは「もしも彼女たちの云ふまゝにあの花柳界の女たちのして居る事が賤業であるとしてもあゝした業が社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

會に認められて居るのは誰でもが云ふ通りにやはり男子の本然の要求と長い歴史がその根を固いものにして居る。それは必ず存在する丈の理由をもつて居るのである。彼女たちがたとへ六年間を誓つたとて十年間を誓つたとてそれを全廢する事がどうして出來やう」と云つていらつしやいます。それならば今日の社會制度は凡て左樣ではありませんか。歴史が長く根が固いといふことは正しい存在の理由を構成しては居りません。それは惰性と同義である場合が多いのです。又歴史が長く根が固い故に惡い制度を廢することが不可能だと云ふならば女は有史以來の屈從の歴史を尊重しておとなしく引込んで居る方が好く、又いくら反抗してもそれは駄目骨だといふ事になります。あなたは之を是認なさいますか。又あなたは「男の本然の要求」と仰しやいます。しかし私の調べた所によると賣淫制度は不自然な男女關係の制定に伴て起つたもので男子の先天性といふより不自然な社會制度に應じて出來たものなのです。女の拘束の度に比例して隆盛を極めるものなのです。ですから女を自由にすれば自然消滅せざるを得ないものなのです。假に一歩を讓つてたとへそれが男子本然の要求であるとしても自身反證を擧げて居る男子は少くありませんが――あなたはこの制度を承認しやうとなさいますか。いかに男子本然の要求であつても女子にとつて不都合な制度なら私は絶對に反對致します。「男子本然の要求」だからと同性の蒙る侮辱蹂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

蹣を冷然看過してお出での所を讀んだ古い人々は「さて〳〵新しい女にも似合はない殊勝な心掛けだ」とさぞかしよろこんだ事でございませう。

外國の公娼は日本の私娼に類するので只鑑札がある丈ですがそれも喧しく段々廢されて行きます。その結果は良好なのです。公娼を廢せばそれ丈私娼が殖えるといふのは僞です。公娼が無い土地は私娼も振ひません、公娼を廢せば大抵は私娼も減ります、減らない場合でも殖えはしないのです。つまり公娼が減つた丈――日本で云へば五萬人――醜業婦が減少する譯なのです。歐洲の廢娼都市の統計を見ますと公娼廢止後黴毒が減少して行く傾があるのです。特に日本の公娼制度が惡いのは公然挑發誘惑の設備を許されて居る點です。その爲無用な好奇心をそゝり情慾を刺戟して青年を墮落させる機會が多いのです。又私娼の方が引込まれ易いと仰しやいますが、拔ける事も容易ですからつまり公娼より生活程度が高い丈亦公然挑發しない丈增しでせう。要するに日本の遊廓制度は不自然に需要供給を造出して社會を腐敗せしめ、他人の非倫行爲に依て利を博せんとする奴隷營業の保護政策なのです。打捨ておいても長い間には公娼は自然と無くなりませう。今でも衰微する一方ださうですから。それは公娼は全く籠の鳥なので世間話一つする事も出來ないので私娼の方が面白いのだといふ人もあり、張見世などの下品な不自然な制度が多少進んで來た人間

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に惡感を催させるからだといふ人もあります。多分兩方でせう。しかし惡い事はいかに小さな事であつても自然の成行に任せずに出來る丈除去しなければなりません。この意味に於て私は公娼廢止に賛成いたします。又外國人の手前見えをおもつて廢娼を主張する事が惡い樣に仰せですが、それは淺薄な理由にしても差支ない事だと思ひますね。自分で氣がつかずに居ても人から見供ないと云はれゝばよさうかしらと思ふのは人情です。又事實よした方が好い事ならそれで結構ではありませんか。私共が往來で羽織の襟がたてかぶりになつて居たり帶がほどけさうになつて居るまゝ歩いて居る人に一寸注意したとしますね、其時其人はひらきなほつて沈思瞑想し　果して羽織の襟を正し、帶を結び直す事が見供ない事であるや否やを考へ、內から湧く已むに已まれぬ欲求を待つて直さなければほんとで無い、眞面目でないと云へるでせうか。見供ないと人にも云はれ事實見供ない事に相異ない公娼制度も之と同じ事でさつさとやめるが好いのです。但しあなたが見供なく無いと仰しやればそれ迄ですが、さう仰しやる前に市內の遊廓を一見なさる樣おすゝめ致します。

無論智識の普及に依て個人の自覺を促す事は最大の急務です、しかし同時に今目前にある有害な制度も默認してはおかれません。人が自分の咽喉を締め樣とした時は誰しも極力爭ふでせう。其時、この人は無知だから斯う云ふ事をするのだ、一つ教育を施してその不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

可なる所以を自ら覺らしめなければなるまいなど丶考へて居るうちに殺されてしまつたらどうなさいます。私は婦人の自覺と同時に諸制度の改革を必要と認めて居ります。あなたは社會百般の事象は表面に表はれる迄には必ず確たる根をもち立派なプロセスをもつて居るものであり、偉大なる自能力の最も力強い支配力のもとにある不可抗力であつて、僅かな人間の意力や手段では誤魔化せない正眞正銘のねうちを失ふ事のない力であると仰しやいます。果して左樣でせうか。大化の革新は人間の手に依て成されました、封建制度も人間に作られました、そして又人間の意力に倒されて明治となりました。立憲政體も人間が作つたのです、陸海軍も人間が作つたのです。要すに凡ての社會制度は人間が作つたものであり、こわしたい時にはいつでもこわせるものである事は古今東西の歷史に現はれた大小無數の革命が證據です。又現在の事實も皆それを證明して居ります。又あなたもそれを信じていらつしやればこそ女に不都合な世の中を改革し樣と志していらつしやるのではありませんか。もし仰せの樣に社會百般の事象が人間の意力で左右し得ぬ不可抗力であるとすればあなたの戰は畢竟徒勞です。もしあなたの敵があなたの論を武器として在來の制度は不可抗力なるが故に、且僅かな人間の意力や手段では動かせない正眞正銘のねうちある力なるが故に、女は飽迄在來の女の運命に甘じてお花やお茶に日を暮せと云はれた時、あ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なたは何とお答へになります。あなたは自然の威力といふものを迷信していらつしやいます。人間の作つた社會を支配するものは人間です、人間は自然を利用して行く丈の事で自己の事は一切自己で仕末の出來る程賢い動物なのです。畢竟權力者逹の作つた不都合極まる制度を自然の不可抗力だなどゝ認めるのは無知な卑屈な奴隷思想です。人間の進歩を阻む危險思想です。

私は公娼廢止の可能を信じて居ります。當局者の意向次第で明日にもやめ得る事は事實なのです。六年かゝらうと十年かゝらうと出來る事であり爲甲斐のある事なら爲た方が好いではありませんか。無論賣淫問題は婦人問題の一部にすぎず、公娼問題はまだ其一部にすぎませんが特に顯著な有害な一部である以上看過しておく事は出來ません。工女問題などゝ云ふより大きな問題も私共の手を待つて居りますけれどもさし當つて解決のし易い手近な問題から片づけて行くのは決して無意味でないと思ひます「誰でもが云ふ樣に」と賣淫制度の存在を是認してお出の樣ですが、あなたは「誰でもがいふ事」は正しい事と信じてお出なのでせうか。それが「傲慢狹量にして不徹底なる日本婦人」と他を痛罵する資格のある「深く物を考へた」聰明なる婦人のお言葉でせうか。「本當に物の根本をひとりで考へる程人間はずつと謙遜にならずに居られない」なら第一あなた御自身の態度はどうですかと伺ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

度い。

私は矢島さんといふ方は直接には知りませんが、やり方で見ると鳩山某女とか山脇何子とか云ふ樣な連中程下等では無い樣ですね。何しろ八十を越した年寄ですから目がかすんで物を見ちがひ感ちがひされるのも無理はありません。毎年議會に提出される案などはあの方の偶像なのです、あなただつてお祖母さんの佛いぢりは打捨てお置きになるでせう。あの方の仕事はその位に見ておけばいゝのです。日向でお念佛を唱へて居るおばあさんより外にまだ相手がありさうなものではありませんか。私共の周圍にはもつと〳〵有害な偶像をもつて衆を欺き人を抑壓しやうとして居る連中が一杯です。私は矢島さんの仕事の中で女子學院と公娼問題だけは小さい乍らも價値を認めて居ります。其他については批評する價値を認めませんから打捨つておきます。そして私の精力をもつと有害な價値の打破に用ゐたいと考へて居ります。

いろ〳〵失禮な事を申上ました。お目にかゝる機會を樂しんで居ります。進んでその機會を作るには私は餘りに不精者に生れて居ります。お二人のお母樣では大變ですね、お察し申します。あなたとあなたの愛していらつしやる方々の御健勝を祈ります。

（十二月五日）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青山菊榮樣へ

野枝

青山菊榮樣

あなたの公開狀は本當に、私には有りがたいものでした。私は幾度も〳〵讀み返しました。勿論、不服な事もありますがそれはおい〳〵申上げる事にして、先づ公娼廢止についてのあなたの考へ方は正當です。私はそう云ふ方面に全く無智なのです。私はまださういふ詳しい事を調べるまでに手が屆かなかつたのです。その點では私はあゝ云ふ事を云ふ資格は全くなかつたのかも知れません。あれは私は或田舍の新聞に賴まれて書いたものなのです。別に深い自信のあるものでもなんでもありませんでした。けれども全く、私はあなたのお書きになつたものを拜見して始めてさう云ふことを氣づいたのです。勿論、私はさういふ娼妓の生活狀態に就いて無智な者ではないのです。私は可なりあの人たちの生活についてはもつと子供の時分から知つてゐましたのです。さうしてさういふ處に氣のつかなかつたのは私の自重のない態度がさうさしたのです。私はあなたにその事を氣をつけて下すつた事を感謝いたします、そして、あなたのやうな考へ方から見れば公娼廢止と云ふこと

も尤もな事です。もうその事については何にも云はない方が立派な態度かもしれません。こんな事を云ふのは卑怯な負惜しみと見えるかも知れませんが、私があれを書いた時に主として土臺にしたのは矯風會の人たちの云ひ分でした。私はそれ以外に深く考へることをしなかつたのは私の落ち度ですが彼の人たちからはさう云ふ深い事は聞きませんでした。若しもあの人たちが本當にさう云ふ、あなたのやうな意見を以て向ふのなら、私だとてあんな事を書きはしません、私は矯風會の人たちからはまだそんな立派な事は聞きませんでした。それで、根本の公娼廢止と云ふ問題はあなたの仰つしやるやうな正當な理由から肯定の出來る事ですが、私は矯風會の人達の云ひ分に對しては矢張り輕蔑します。あの人達の云ふ事はあなたのゝ程徹底しては居ないと私は思ひます。

さて此度は、私とあなたの思想の差異になつて參りますが、私はすべての議論が何時でも何の人達のでもお仕舞ひにはつまらない言葉のあげあしとりになつて、水掛論になるので議論と云ふ事は本當に嫌やなのです。さういふいやな事をしまいと思へば一々その言葉の内容からしてさがして行かなければならないと云ふ面倒な事になつて來ます。さうしますと、だん／＼に本來の問題よりも枝葉の事に渡つて來ると云ふ順席になります。私は今私の考へを述べる前に、どうかこの事がさうしたなりゆきにならないやうに出來る丈けお

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

互ひに丁寧に、あつかひたいと思ひます。

先づ、何よりも先きにあなたに申あげなければならない事は、私が公娼廢止に反對だと云ふ風にあなたが誤解してお出になるらしい事に就いて、私は左樣ではありませんと云ふ事です。私は勿論肉の賣買など決して、いゝ事だとは思ひません。悲慘な事實だと思つてゐます。さういふ事をしないでも濟むのならそれに越した事はありません。細かしい事はおい〳〵云つてゆきますが先づ大さつぱに、私の見たあなたの、私の云つた事についての御批評は、あまりに表面的で獨合點でゐらつしやいます。それは、あなたが私の書いたものにこれ迄あまり注意して頂く事が出來なかつた故かも知れませんが。

あなたは私が賣淫と云ふ事が社會に認められてゐるのは男子の要求と長い歷史がその根を固いものにしてゐるので、それは必ず存在する丈の理由をもつてゐるから彼女たちが六年をちかつたつて十年をちかつたつてどうして全廢する事が出來やうと云つたのを、私が絕對に全廢することが出來ないとでも云つてゐるかのやうにむきになつてゐらつしやるやうですが、成程私の言葉の足りなかつた處もありますけれども私は、それを絕對の意味で云つたのではなかつたのでした。私はいろ〳〵な深い根本の事を考へてゐますと、すべての

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「存在」と云ふ事について深い不審をもつてゐますが、さう云ふ「存在」と云ふ事實がある以上、局部的にはその理由を一つ〳〵認めることが出來ます。あなたの態度から云ひますと立派なものでなくては存在の理由がないやうな風になりますが、どんなつまらない事でも「存在」する以上相當の理由と價値とは必ずあります。たゞ價値と理由が、その存在を長くしたり短かくしたりする丈けだと思ひます。根、と云ふものはそんなに絶對のものではありませんよ、淺かつたりゆるかつたりすれば忽ち引つこぬかれます。どんなに深く這入つたものでも固いものでも生命がなくなれば駄目ですし、相當の勞力と時間を費せば堀り出すことも出來ます。長い歴史が根を固くしてゐると云ふことは正しい存在の理由を構成しないとあなたは仰云つてます。さうですとも正しい存在でないものには正しい理由のある筈がありません。勿論惰性と同義だと云ふ事はあまりに分りすぎてゐます。それがおわかりになつて何故私が公娼廢止が絶對に行はれないやうに考へてゐるなど〳〵誤解なさるのでせう。此處ではあなたの方が却つてその存在にもつと正しい理由がある事のやうに是認してお出になるやうに見えますよ。で、私が全然その事を不可能だなど〳〵云ふ馬鹿な考へを持つてゐない事をおわかり下さいましたか?

さて、此度は要求と云ふ事の側になりますが、あなたはそれを男子の身勝手と云ふ簡單

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な言葉で片づけてお出になりますが、私は男子の本然の要求が多く伴つてゐると云ふ主張は退ける事が出來ません。もと／＼賣淫制度が不自然である以上、不自然な制度に應じて出來たものであることゝは云ふ迄もありません。其處で、あなたのお調べになつた事がます／＼その賣淫制度と云ふものが男子の本然の要求を滿たすために存在するものだと云ふことを完全に證據だてます「女子の拘束の度に比例して賣淫が盛んになる」と云ふ事實が。

私はあなたにその事實を承認するかと詰問なさる。「私はこれは慘ましい事實だと思ひます。」と云ふ以上に立ち入つた言葉でお答へしたくはありません。さう云ふ事を簡單に承認するとかしないとかそんな事で片づけやうとなさるあなたは人間の本當の生活と云ふものがそんなに論理的に正しく行はれるものだと思つてゐらつしやいますかと私は反問したいあなたはあんまり理想主義者でゐらつしやいます。「如何に男子の本然の要求でゐらうとも女子にとつて不都合な制度なら私は絶對に反對いたします」と云ふあなたの言葉はあまりに片意地に聞こえすぎます。あんまり物事を極端に云ひすぎます。もう少し冷靜に考へて頂きたいと思ひます。

あなたは前に、女子の拘束が賣淫制度を盛んにすると仰云ひましたでせう？その不自然な拘束が男子の自然な要求を不自然に押へなければならない樣にするに相違はないのです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれどもさうした要求が長く忍んでゐなければならない事でせうか、また出來る事でせうか、そんな不自然な抑制は體をいためたり素直な性質をまげたりする他何にもいゝ事はありません、そんなにまでして忍ばなければならないと云ふ理由が何處にありませう。私は私自身としては可なりコレヴエンシヨナルな考へとして非難は受けましたが誇りとか何とか云ふことよりも何よりも私自身の一種の潔癖からヴアージニテイを大切にすると云ふ事を主張しました通りに矢張り同樣に男子にもそれを要求したいのです。そしてそれを苦痛を忍んでも抑制すると云ふ氣持に美しい一種の感激をもちます。けれどもそれは私一個の考へであり望みなのです。普通の場合としては前に云つた通りそれは先づ不可抗性を帶びた要求ですからそれを是非押へなければならないと云ふことはあんまり同情のない考へ方だと思ひます。まして男女の人口が不釣衡になり、ます／＼結婚が困難になつて來るやうな不自然な社會にあつてはどうしても賣淫を避ける事は出來ないと思ひます、その不自然な社會制度を改造する迄は。「男子の本然の要求だからと云つて同性の蒙る侮辱を冷然看過した」とあなたはお責めになるけれども、看過せない、と云つてどうします。私は本當にその女たちを氣の毒にも可愛さうにも思ひます。けれども強制的にさうした處に墮ち込んだ憐れむべき女でさへも食べる爲、生きる爲と云ふ動かすことの出來ない重大な自分のため

に恬然としてゐます。彼女等をその侮辱から救はうとするには他に彼女等を喰べさせるやうな途を見付けてからでなくては無智な、何にも知らぬ女たちにとつてはその御親切は却つて迷惑なものではないでせうか？公娼廢止と云ふ事は成程あなたの仰有るやうな理由で出來るかもしれませんが賣淫と云ふ侮辱から多くの婦人を救ふことは先づこの變則な社會制度が破壞される迄は不可能な事ではないかと思ひます。それ丈けは私たちがいくらもがいても時が來なくては駄目だとおもひます。あなたは看過することの出來ないと仰有る程又それを看過するとはあるまじき事だと私をお責めになる位熱心にその事にたづさはつてゐらつしやるらしいやうですからそんな手ぬるい考へではあきたらないとお思ひになるでせうがそれは各自の考へ方の相異、歩き方の相異です。あなたは何をおいてもその爲めにお働きになる事に一番意義があるとお思ひになるのも尤もですし、私はまだ何をおいてもさう云ふ運動をして大いに婦人の爲めに盡さうと思ふ程その仕事に生き甲斐を見出し得ませんから先づ自分のまはりから先きに片づけて行きたいと思ふのです。あなたにとつては私のこの態度はあんまり自分の事ばかり考へすぎてゐる手前勝手者のやうにお思ひになるでせうがそれが私とあなたとの違つてゐる處ですから仕方はありません。序でに、公娼が廢止になれば私娼も少くなると云ふ事實は少し私には首肯が出來かねます。吉原が衰微に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

傾いた今日市内の私娼の增加は驚くに足ると云ふ事實を何で說明して下さいますか？公娼が公然挑發、誘惑の設備を許されてゐるから青年の情慾を刺戟して墮落させるが私娼は公然挑發しないと仰有るのは少し變だと思ひます。私は淺草の十二階下邊の私娼がさまぐに變粧して迄男子を誘惑すると云ふ話を可なり澤山聞きましたし、彼處の客と云ふ者が學生が多數を占めてゐると云ふたしかな事實も聞きました。要するに公娼も私娼も大した違ひはないと思ひます。賣淫と云ふ點はどちらも同じなのだと思ひます。今の日本の私娼と云ふものも同じく他人に抱へられて借金をして稼いでゐる點では公娼と大したちがひはないやうに思はれます。外面的にはずつと私娼に勝れてゐるやうに見えても案外情實のからみついた彼れ等の社會は矢張りさうたやすくぬけられるものでもないやうに思はれます。

あなたが廢止運動が大切だと躍起におなりになるのにも、私が知りながら呑氣らしい顏をしてゐるやうに見えるのにも相當の理由があるのです。あなたはあなた、私は私なのですから、お互ひに他人の態度を氣にするよりも、まあ自分の事をした方が結局お互同志の爲めです。あなたは萬事にあんまりむきに、大げさに考へすぎて、私には何だか滑稽になつて來ます。外國人への見榮を、私は決して惡い事だとは云ひません、たゞそれ丈けの理由ではあまりに淺薄だと云つた迄です。あなたのそれについての比喩はあんまり眞面目すぎ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、「他人を馬鹿にしてゐる」と怒りたくなるやうな馬鹿々々しい理屈です。頭がどうかしてるんぢやありませんか？

それから私がすべての事象は表面に現はれる迄には必ず確たる根をもち、立派なプロセスをもつてゐるものであり、自然力の力強い支配のもとにある不可抗力で、それは僅かな人間の意力や手段では誤魔化せないと云つたのに對して疑ひをおかけになりました。さうしてすべての歴史を通じての革新や制度が人間の手に作られたり隨時にこはされたりするものであるからこそ女に不都合な世の中を改革しやうとしてゐらつしやるぢやありませんかとの仰せ、もつともですと申上げたいのですが、どうもあなたの頭は餘程をかしいと思はずにはゐられません。人間が造つたりこはしたりすると云つた處で、偶然に作らうと思つて造つたりこはさうと思つてこはしたり單純に出放題なことは決してやれるものではありません。子供が粘土細工をするやうな譯にはゆきません。必ず其處迄ゆくには行く丈けの理由とプロセスがあつて人間の意力を其處まで導いてゆく他の力があるに相異ないと私は信じます。破壞にも建設にも必ず相應な理由があります。それを運んでゆくプロセスがあります。それをさう導く力は何でせう。時はすべての問題を支配します。その時を驅使する力は何でせう。偉大なる自然力の前に人間の意力はどんなに小さいものかお考へにな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つた事はありませんか。人間の意力で百般の事を左右し得なければ私たちの戰は徒勞だと仰有る。御心配下さいますな。私たちは何時でもその自然力の味方である眞理に後を向けませんから大丈夫です。私はその不可抗力を知つてゐます。ですから決して無謀な反抗に生甲斐を見出し得ませんから、靜かに先づ自分丈けの事からやつてゆきます。自分の意力の屆く範圍だけで出來る丈け立派な道を歩いてゆきます。私の小さな意力は他人に迄も强制的に及ぼす事の出來ない事を私は知つてゐます。あなたの私に對する反問は皆上走つてゐて少しも核に觸れてはゐません。「人間の造つた社會は人間が支配する。」と云ふお言葉は尤もに聞えますがその人間を支配するものがありますね、その人間を支配する者が矢張り社會も支配しはしないでせうか。社會は人間が造つたのでせうけれど人間は誰が造つたのでせう？果して人間は何から何まで自分で自分の仕末の出來る賢い動物でせうか？まあ一寸考へて見ても人間は時と云ふものに驅使されてゐます。氣の毒な程、處が利口な人間は時を利用することは知つてゐますが自由に驅使することは出來ないでせう？それ丈けでもまだ人間はそんなに威張る資格はありませんよ、權力者の造つた制度が不可抗力だなど、云つた覺えは更に私にはありません。權力者たちの造つた制度のなか〳〵こはれないのはせい〴〵時の問題位なものです。時が許しさへすれば何時でも破せます。そら、「其處でも

矢張りいくら人間がもがいたつて時が許さなければ駄目でせう。それ丈けの制度の根を固める爲めには權力者たちも相當な犧牲を拂ひ骨折をしてゐるのですからいくら不自然だつて何の償もなしにその株に手をかける事は許されない道理でせう？

　私は公娼問題の事はもうおしまひになつたのかと思へば又ですか？本當に頭がどうかしてゐはしませんか？其處でお答へする丈けは充分しておかないと又二度繰り返すやうではいやですから。

　さて公娼廢止は私も先づ可能と信じます。それで今度は「誰でもが云ふやうに」賣淫制度の存在を是認したと云ふことのお責めにあづかる譯ですね、先づさうですね、誰でもの云つてゐる事が眞實だと思へば私はいくら「誰でもが」云つてゐても眞實だとしますよ、私は衆人が口をそろへて云つてゐるからあれはうそだなど云ふ理屈はないと思ひます。「誰でも」は決してまがつた事ばかり云つて正しい事を云はないとかぎつてゐないことは百も承知でせう？いくらあなただつて！あなたは本當につまらないあげあしをとつてゐますね、煩さいぢやありませんか、傲慢だとか傲慢でないとかそれが私の態度なら面倒臭いからどちらでもあなたの下さる方を頂戴しておきますよ、どつちだつて私に變はありやしないから。もうあとの事に一々お返事するのは面倒だから止めます。仰有る通りに折りがあつてお目に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

懸つたらまたお話しませう、私はあなたのお書きになつたものは飜譯を除いては初めてですからどうかしたら感ちがひをした處があるかもしれませんからそんな處がありましたら御注意下さいまし。但し大抵これで私の考へ方はお分り下さる筈と思ひますからもうこれ以上この問題について云々することは御免蒙りたいと思ひます。失禮な事ばかり申上げました。おゆるし下さいまし。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

折りにふれて。(日記より。)

岡田ゆき

何でも熱心に努力すれば出來ない事はない。私は生來不器用である。自分でそれはよく知つてゐる。そしていつも悲しい事に思つて居る。其故ピアノの練習でも人一倍努力するのが常だ。

今夕お稽古を終ると先生が

「大變よく覺えましたね。有望です。武さん(弟)より貴女の方がうまい。」

と云はれる。

「まあ先生。お世辭がお上手ね。」

「私の云ふ事はお世辭ぢやない。眞底からの事ですよ。だから眞實にしても大丈夫。」

私はキーをいたづらしながら笑つて居た。そして心中に此の間から練習の仕方が餘りはげしかつたため肩が大層凝つてゐるのを思つたら、きつと微笑がひきしまる樣に感じた。

努力さへすれば必ずそれと同じ位の好果は與へられるものである。然しおだてに乘つて浮はついてはならぬ。おだてられてうれしがる程人間として馬鹿な事はない。どんな場合でも他人の言葉に左右されてはならないのだ。大抵私の事は他人にとつて自身の事程に眞實ではないに相違ない。それを私は忘れてはならない。

世の中の總ての事は人間の仕業である。私も人間であるからはある程度迄は努力さへすれば出來ない筈はない。其程度からさきは天才でなければ駄目だと考へる。弟は器用だからどんなに幸福だか知れない。彼が三十分でそれ程の苦痛もなくて出來る音譜でさへ私は一時間あるひはそれ以上かゝられぱならない。けれど覺えるからはそれだけの努力は私によつて何でもない筈だ。總ての

事は多少の苦痛がともなふのは當然である。私は喰べずぎらひになりたくない。いやだと云つて喰べてみもしない物でも喰べれば何でもないと同樣に決して不可能と銘うつたものは有りやうわけがない。私は努力しやう。おこたらず。

何と云ふ馬鹿らしさ。何と云ふ無智な表現であらう。

御大禮以來の東京のさわぎ。

御大禮はむしろ嚴肅であるべきものだ。只單にお祭り騒ぎをするのは間違つた仕方である。連日仕事を投げ出して酒に醉ひ神輿をかつぐ。何と云ふ國民性だらうか。私は情無い氣持ちがする。恐らく愛國と云ふ事をはき違へてゐるとしか考へられない。

銀座通りは間口一間につき五圓づゝかけて裝飾をしたさうだ。それだけの金を何故もつと有益な方法で用ひないのか。現在では他にしなければならぬ事はいくらもある奉祝するのが只單にいけないと云ふのぢやないが現在の狀態を考へて欲しいのである。

私共は無意味な空虛な形式は(勞力と時間の消費上)極端にきらはればならないと考へる。その點から單なるお祭り騒ぎはよくないと信じる。

小雨が二三日續いて、あがつた今日、もうすつかり冬らしくなつた。紺青の空をぢつと眺めたり枯れはてゝ鳥の胸毛の樣になつた薄の穗を一本づゝ引きぬいたりして興じたもみ絹の手ざはりの樣な音をたてゝぬけては細い綿を散らしたかの樣にとび上る薄を眺めてゐる時私の心はそゝられた。

此頃は漣一つたたない池の面の樣に私の心は落ちついてゐる。誰れにも小石一つ投げさせてはならないのだ。放たれた野馬の樣になると自分の心でありながらどうする事も出來ないのが例である。私はそれを智力の足りないはづかしいに思ふ。

昨日亡弟の墓参の歸途文展を見たが

私はことごとく失望した。然し見たと云ふ事實は見ないより好いのは云ふ迄もない。低級な婦人雜誌の口繪の樣な美人畫や自然の不完全さを何の補ふ所もなく死んだ自然にして四角な枠に入れた風景畫。それらの何處にも尊い藝術的生命。力。熱などの味はれなかつた事はむしろ悲しい程であつた。誰れやらが文展の洋畫の事を「何の事はない絨氈屋の棚さらへ。月終ひの大賣り出しと云つた樣なものだ。」

と私に云つたのを思出して適評だと今更らに考へられた。

それは婦人文藝の音樂會の夜であつた。

有樂座の東洋軒のテーブルを取り卷いてさつき舞臺に出た新橋連中が盛んに喰べたり喋べつたりしてゐる。「娼道成寺」の絲と下方の婆藝妓達ばかり一所になり若い藝妓ばかり寄り集つて小聲に話して居る。實に聞いてゐてもをかしい樣な愚にもつかない事がそれからそれへと話し續けられる。

「ねえ此の頃にお婆さん會を開きませうよ。」

と云ふ突飛な聲に驚かされて私は注意を向ふへむけた。するとお婆さん連の話しをよそに二三の若い妓がかへりかけて居る所である。

「姐さんありがたう。お先きに失禮しますわ。」

とまことに丁寧な挨拶ぶり。それに彼等はどうしたものだ。若い妓には頭を下げずに空を向けるのが挨拶なのかしら。

私は彼等の傲慢な樣子を見て呆氣れた。無智な者には殊に階級觀念がはげしく攘つて居るものだ。それは人間と云ふ考へがうすいためにむやみと奴隸視するを當然の事に思つてゐるのである。智力が發達するにつれて總てに對し人間として取扱ふ樣になると私は考へる。

私は何事によらず誠實さと喜びをもつてしたいと思ふそして何か事に出逢ふ度にそれだけ内容が豊になるもの

だと信じて居る。

私は生れて始めて昨日引越しの手傳ひに行つた。

京都へ行つた兄は思つたよりも永く滯在しなければならなくなつたのでひとまづ家をたゝむ樣に云つてよこしたので母が片付けに行つたのである。東宮御所前から私は母の車と分れて行きに一寸山田先生にお寄りした。丁度お稽古中であつたが先生にお目にかゝつて先日來上れなかつた理由を申上げたら先生は

「貴女は種々の事にぶつかつてはその度に怜悧になります。」

と云はれる。大机を取卷いて座つて居られた平塚、齋賀兩氏のお目が微笑をもつて自分に注がれてゐるのを意識した。私はそゝくさとお暇した。

引越し。まあ何と云ふ亂雜さ。

「引越しつてこんなものかねえ。」

私は新聞紙で瀬戸物を一つ一つ丁寧に包みながら男達が腕に力瘤をいれて荷物を二階から下してゐるのを見てそんなに心で呟いてゐた。

晝飯は高輪の叔母がすしを持つて來て呉れた。果實の空箱を横にして其上で笹折からすしを喰べる。しかも室一杯塵芥のなかで。

「こんな事は始めの終りにしたいものだね。」

と母が笑ふ。歸へりは夕方になつた。晩は早く入浴して床に入つた。

今日は雨である。

「風はあつても昨日越してよかつたねえ。」

とさつき母が云つて居た。

大正四、一二、五。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

野枝子様はじめまして

青井禎子

御記憶に新たなと申すより、むしろ、未知に近い私から、突然、こうして、手紙等差上まして、嘸御不審に思召す事と存じます、が唯、毎月、青鞜を御發送頂きますうちに、そうした名前も、有つたかしら、と偶然にも思い浮べて頂けましたら、幸いだと存じます。

御挨拶は失禮頂きまして、早速用談を申上たいと存じます。

實は今月の青鞜に掲げました、貴女から平塚さん宛の私信の、終りの方にお書きになりました、故友、山田澄子様の事に就きまして、あれを、拜見致しては、無言つて居られなくなりました、と申して、不穏當にはお取りになりません様に、つまり、誤解遊ばしていらつしやる様で御座いますので、それでは、永い間近しくして居りました、周圍の者の大變心苦しい理で、せめては、貴女迄でも、その眞相を、知つて頂きたいものと、實は、一面識もたない失禮も顧り見ず、こうして、手紙を差上ぐるので御座います。

あれを拜見致しますと、貴女は、唯、女の世界の青柳氏のお書きになつたのを御覽になつた外、何事も御存じない様でいらつしやいます、言ふ迄もなく今迄多少青鞜とも關係が有

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りましたにしても、それは、ずつと以前、短歌を一寸〳〵、お出しになつたり、其後、補助團の方へ加入なすつて、蔭ながら青鞜に深い同情を、もつていらつしやる位で、私の存じて居ります、範圍では、別に深く〳〵、御存じの理は、ない筈で御座いますが、それであの女の世界をおよみになつて、自殺なすつた樣に、誤解遊ばすのもあながち、御無理では御座いますまい、只今、手元に御座いませんから、私の讀み違ひとも限りませんが、女の世界には、明らさまに自殺云々、とは、書かれてなかつた樣で、なくなつた翌日、直ちに青柳氏に、遺書がとゞいたと言つた樣に覺えます、そんな事が、委しく御存じない方に、直感的に、自殺死と、推意させたのでは、御座いますまいか。

故人と青柳氏とは、生前、大變接近していらつしやいました、氏が、眞實の娘を遇する樣に、近しく可愛がつていらつしやれば、故人も、青柳氏の世評を打消して「決して世間の取沙汰する樣な不眞面目な方では有りません、赤裸々の青柳先生と言ふ方は、實際の品性の高潔な方なのです」と極力辯護なさいます、お言葉の中には、心からの威敬や信頼の意味が充滿して居たので御座います、その遺書と申すものも、失くなります、一ケ月も以前、死後の家庭の處理やら（それは、こゝ五六年中に、姉君達お二方に永別され一昨年一月、父君の赴に逢つて、其當時、疲弱な母君と、病氣勝の故人と別に下の者は、二三人有りまして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も、本當のお家族は、唯お二人、成年期の故人は、一ぱし複雜な資産家の主權者で、處理すべき幾多の負擔が有つたのです）等と、一所に、病褥中にお書きになつた事を、母君から承りました、自らの死滅を、もうずつと以前から、自覺していらつしやいましたのでせう一昨年初春に御發病後、はか〴〵しく御恢復がなくつて二月計り入院していらつしやいました、その中轉地の出來ます程、よくなりました、箱根やら小田原、修善寺等に四五日、回遊なすつて、十月初め、停車場にお迎へ致した時は、見違ふ計り鹽風に、丈夫そうに、顏の艶も色付いて活氣付いて歸つていらつしやいました。

氣のきいた小品を土地の新聞紙上に見かけたり短歌をちよい〳〵雜誌に出していらつしやいましたりしたのは、その御病氣以前で御座いました、大體頭腦の明晰な天分の豊かな方で、その上自らふだんの修養を怠らず、早稻田の講義錄等お取りになつていらつしやいました、無益にその日を消耗する私共、どんなに鞭撻され指導されたかわかりません、あのまゝに健康體がずつと今迄持續して居りましたら、たしかに、大正文壇に何物かを、殘した方だと確信致しますにつけ、不可能な運命と諦めながら、尙一種の愛情を感ぜずには居られません。

今年五月、再度の御發病が幾分、以前の病氣の餘勢が、固質の性を有つて居ましたとしても

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私には、もつと〳〵大きな處の原因が有つたとしか思はれません。

其頃(この五月頃)新聞やら雜誌類やらに、毒藥と言ふ一編の紹介せられた事を御記憶御座いますまいか、總べては、それに基因するので御座います。

著者は、以前に一時籍を入れていられた、或新聞社內の若い社員、その當時、お二人の間に戀のローマンスの噂せられたのは隱れない事實で御座います。

讀賣の婦人部に「毒藥モデル婦人の自殺未遂」と題した一文がその出版の前後に掲載された事を聞きました、どうゆう所から傳はりましたものか、全く無根據の事に過ぎませんのが却つて、故人の性情なり人格なりを知る周圍のものは、無形な事と思はれない程、故人を煩悶させ懊惱させたので御座いました。

始め、その著書の起稿さるゝと知つた故人は、或期待をもつて出版の日を待つて居られましたのに其結果は、如何で御座いませう、却つて愛人の自失する迄の慘たる種を蒔いてしまひました。

豫期しない絕大な憤怨、羞恥、驚愕、悔恨に自意識を失つた可憐な友は、三日三夜一合の牛乳も受入れずに狂ひまはるのでした、情ない愛娘の狂態を、母上は、如何な心持ちで介抱なすつたと、思召して下さいませ、何貫目かの氷攻めに意識は、よう〳〵判然しました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が、それから、ドッとお床にお就きになつたきり別に内部に大した疾患が有るでもなし、頭の方も一時的の發作に止まつて、異變も有りませんのに、ちつとも食事をお取りにならないで、日に〳〵衰弱が増します計り、御就床後、五ヶ月餘、九月の中旬に、主侍醫の廻診を玄關口迄送り出られた母様が、病室に、引き歸らるゝ十歩のさかい、看護婦の唯ならぬ高叫びに、吃驚、かけ込まるゝが最後、もうこの世に生の有る方では、なかつたそうで御座います。

野枝子様、十幾年の睦びを交へた、唯一人の友は、斯して、自滅にひとしい死をもつて、再び相逢ふの發されなし永別の人となつてしまひました、年齒廿有五年、尚春秋に富む、一佳人は、あはれ、儚なふ早逝されてしまひました。

最後に今一つ書き添えます、本年春酣の四月の下旬、御發病の旬日前、たま〳〵御目にかゝりました節、近々、遊樂目的の上京の事を話されました、今度こそ、呑氣な一人旅、平塚さんと野枝子様には、きつとお逢ひして來ると、大變、氣負ひ込んで、樂しんでお出になりましたが、それも儚ない、空頼みに終つてしまひました。

偶々、そのお二人の話題に上つて何等かの、印象を殘したと言ふ事が、感傷的な故人の靈を如何なに慰安致します事で御座いませう、傍の私迄、大變いゝ事をして頂いた様に、心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うれしふ存じます。

文筆に拙劣で、纒りもなし、書きながしまして充分御了解下さいましたや否か、誠に、心元ない次第で御座います、が兎に角、私自身としては、これ丈書き終えまして、故人に對する幾分の責を盡しました樣な輕い安心を覺えます。

不作法に書き亂しました失禮をお詫び致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□もう私が雜誌を讓り受けまして丁度一年になります。どうかしたい〳〵と思ひながら微力で思つた十分の一も實現することがなく無爲に一年を過しました。今月號も新年號の事とてどうにかしたいと思つてゐましたが何しろ、私が歸京しましたのが十二月五日か六日だつたのにそれから一週間ばかりの間は咽喉をはらして食事をすることも話をすることも困難になつて何にも出來ませんでした爲めに、大變手ちがひになつて今度もまたおはつかしいものをお目に懸けます。けれども私も身輕になつてかへつて來ましたからこれからは少し懸命に働きたいと思つてゐます。だん〳〵に少しづゝでも努力のあとが現はれるやうにしたいとおもつてゐます。何卒皆樣にも一層御盡力を願つて共に育てゝゆきたいと思ひます。

□何時から申ましたやうに、自分たちの勉强の爲めにも何かの問題をとらへて皆で研究すると云ふのはいゝ事だと思ひます。それで次號から私は自分の書きたいものゝ外に何か思想上の實際的な問題をさがしてそれについて書かうと思ひます。そしてそれを皆樣の仰言つた事と一緒に批評して頂きたいのです。一句でも一章でもいゝのです。そして出來るだけ發表する爲に次號で六號欄を別に設けて其處で發表するやうにしたいのです。何卒お互ひに勉强のたしになる事ですから贊成して頂きたいと思ひます。それには實際讀者諸姉の現在考へ惱んでゐらしやるやうな事をさうして大勢の最も進んだ意見をお聞きになつて お考へになるのもいゝ一つの方法だと思ひます。さう云ふ方面での材料をお持ちになる方は私迄おしらせ下されば大變にいゝと思ひます。勿論決してお名前を出すやうな事はしませんし、私も知らなくてもいゝのです。

□平塚さんは九日にお孃さんをお產みになりました。お

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

產は少し重かつたやうですが、その後の經過は大變いゝやうです。哥津ちやんも一日ちがひに男のお子さんをお產みになつたさうです、まだ會ひません。

□平塚さんのお產をなすつた翌日位に何でも新聞記者が訪れて行つたのを附添の人が知らずに上げました處、「御感想は？」と聞いたさうです。私はあんまりの事に本當に怒りました。何と云ふ無作法な記者だらうとまだお見舞の人も遠慮して得ゆかないお產室に、一面識もない者が新聞の材料をとりにゆくつて、何と云ふ人を侮辱した仕方でせう。私は頭が熱くなる程、腹が立ちました。平塚さんは洗面臺の上にのせた花の鉢を指さして、「この花と私の感想を交換するつもりで來たのですよ、私は苦しいと云ふより他何の感想もありませんつて云つてやりました。」と話されました。私はさうした侮辱も默つて許してお聞きになる平塚さんの氣持を考へてゐると涙がにじんで來ます。何卒皆さんが幸福であるやうにと祈るより他はありません。

□私は「雜音」と云ふ題でかねてから書きたいと思つてゐました長篇を書きはじめました。青鞜に載せるのが私の望みでしたけれども種々な事情から大阪每日に連載することにしました。それは私の見た青鞜社の人々について私の知るかぎり事實をかくのです。私はそれによつて幾分誤解された社の人々の本當の生活ぶりが本當に分るやうになるだらうと思ひます。そのつもりで書くのです。併し何と云つても私自身の過ぎた日の記錄を書くと云ふ心持が主であるのは云ふ迄もありません。それでいろ／＼なものを見、考へてゐますと、私の入社當時から今日までにも本當に、おどろくべき變化が何彼につけて來てゐます。あんなにさはぎまはつてゐた紅吉さん今は御主人と靜かな大和に、子供を抱いてしとやかな日を送るやうになつたのですもの、あの文祥堂の二階で皆してふざけたり歌つたり、平塚さんのマントの中に入れて貰つて甘へたりした私が二人の母親に、他の皆も母になつたりした事を考へますと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

僅かの間にと、本當におどろいて仕舞ます。おどろくと云ふよりは不思議な氣がします。

□今月、平塚さんも哥津ちやんもお産で書いて頂けず、野上さんからも頂けませんでした。本當に殘念ですけれど。來月は皆さんに少しづゝでも書いて頂かうと思つてゐます。

□雜誌や書物の批評紹介をしばらく怠けました、來月からは正しくやりたいとおもひます。これも、どなたでもおよみになつたものの事でおきづきになつた事をお書き下さいまし。

□それから、これはさうから申上げたいと思つてゐましたが補助團の事なのです。あのままになつてゐる事が心苦しくてたまりませんから、小さな本でも何かいゝものを撰んで飜譯してパンフレツトでもつき〳〵に出してゆかうと思つてゐますのですが今日迄はひまがなくてどうしてもかゝれませんでした、それに拂ひ込んで頂いた金はもう私が引きつぐずつと以前から今日迄引きつづいて雜誌の方の借金なんかにつぎ込んでいくらも殘つてゐませんので實は大阪每日に書きかけのものをまとめてその稿料でも――小さなパンフレツトならそれで足りますから――出版しやうかと思つてゐるのです。おそくも四月か五月には是非一集を出すつもりです。金さへ都合が出來ますなら、若しかしましたら私の感想集を自分で出して、それをも配付したいと思つてゐます。何しろ、私自身に、どうかして働き出すより他に資力がありませんので誠に諸氏に對しては申譯けがありませんがあしからずお許し下さい。それから補助團の會員と申ましても今では十人あるかなし位ですからさうしてパンフレツトでも何でも出せるやうな風にすればもう少し加入の意志のある方には這入つて頂きたいと思つてゐます。それから留守の間集金を出すことを怠つてゐましたから一月に這入りましたら集金を出しますから何卒お拂ひ込み下さいますやうお願ひいたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□私はこの雜誌の諸君の間にでも立派な考へをもつてゐらして默つてお出になる方が澤山あるやうな氣がして仕方がありません。そんな方はもういゝ加減筆をお持ち下すつてもいゝと思ひます。岡田八千代樣、長谷川時雨樣のやうな立派な方が何と云つてもまだ未成品の私共と一緒に筆をとつて下さることを本當にうれしく感謝いたします。今年こそは實のある仕事をしたいものだとおもひます。働ける丈け働きたいとおもひます

（野　枝）

御禮

私の出產について御よろこび下さいました方々に厚く御禮を申上げます。
なほ女兒は曙生（アケミ）と名づけましたので、序ながら御知らせ致します。

平塚　明

讀者諸姉へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢五厘切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、補助團會費拂込は青鞜社へ。
■廣告申込、交換廣告は日月社へ。
■圖書、雜誌交換、購讀に關する一切の事務は日月社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正四年十二月廿日印刷納本
大正五年一月一日發行　(特價金三十五錢)

禁轉載

東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地
青鞜社内
編輯兼發行人　伊藤野枝
東京市京橋區弓町十三番地
印刷人　柴田杠一郎
東京市京橋區弓町十三番地
印刷所　千代田印刷株式會社

發行所　東京市小石川區指ヶ谷町九十二　青鞜社　振替東京二一一一六番

發賣所　本郷區元町二丁目廿五　日月社　振替東京二八九一四番

大賣捌　東京　東京堂

本號に限り定價參拾五錢

直接注文に限

一月中特價提供

圖書目錄進呈

書名	著者	定價	特價	送料
演劇評論	小宮豊隆著	一圓	五十錢	八錢
現代と婦人の生活	らいてう著	八十五錢	四十五錢	八錢
新傾向句集	碧梧桐著	一圓	七十錢	八錢
夢遊病者	江部鴨村著	一圓	五十錢	八錢
最近の文藝及び思潮	生田長江著	一圓	五十錢	八錢
無限の道	片上伸著	九十錢	六十錢	八錢
タゴールの思想及宗教	江部鴨村著	七十五錢	四十五錢	八錢
カラマゾフ兄弟	森田草平譯	九十錢	七十錢	八錢
自叙傳	森田草平著	九十錢	四十五錢	八錢
子規居士と余	高濱虛子著	九十錢	六十錢	八錢

書名	著者	定價	特價	送料
時代と思想	谷本博士著	九十錢	五十錢	八錢
理想と現實	浮田博士著	一圓	六十錢	八錢
最近の社會問題	安部磯雄著	六十五錢	四十錢	八錢
萬葉集選（賣切）	窪田空穗著	四十五錢	四十錢	四錢
續萬葉集選	窪田空穗著	五十五錢	五十錢	六錢
宗教叢書	諸名家執筆	各編十錢	十部二割引	八錢
文藝思潮叢書	諸名家執筆	各編十錢	九部四割引	八錢
梗概叢書	諸名家執筆	各編十錢	十部四割引	八錢
店頭禪	高島米峰著	八十錢	四十錢	八錢
伊勢神宮國體	廣池博士著	二圓	一圓八十錢	十二錢

東京市本郷元町二丁目　日月社　振替東京二八九一四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

カラマゾフ兄弟（附、ドストイエフスキイ小傳）

森田草平譯

（好評三版）

菊半截六百頁縮入
優雅木版畫七度刷
金九十錢郵稅八錢

露國の文豪ド氏の最大傑作にして萬人必讀千古不朽の最高文學也!!

『カラマゾフ兄弟』はド氏の大傑作たることは言ふ迄もない。有史以來人類の所產として十指を屈すべき最高の文學で寧ろ經典である。一面露西亞に於ては、カラマゾフ一家の名は、近代の靈肉ともに墮落した陰森な家庭の代名詞とも成つてゐる。譯者の自白に曰く「此書は創作と飜譯とを問はず、從來自分の名に依つて公けに爲れた文學中一番偉大なる味ある作物である」と。

▲人間の心を最も異常なる狀態に置て機一髮の事件を描寫するに巧なる人だけに誰が讀んでも非常に面白き、又貴重なる藝術品なり、譯者はド氏崇拜者なるだけに最適當なる譯者を得たるものと云ふべし（萬朝報）

▲ロシヤ人の心理に深入りして宗敎的心境を取扱つたところに於てこの作なぞは宗敎家に親しい感じを與へる、かのトルストイが家出のときに携た一書としてもその値打が推される、譯者の手になつた原著者の小傳はこぢんまりとできてる、且つその文學者としての地位と特色とをしのばせる（中外日報）

▲文豪ドストイエフスキーが獨創的な深刻な心理解剖は遺憾なく寫し出されて居る、而して變轉曲折に富む構想は彼れが獨得の擅物であつて飽くまで讀者の感興をそゝられねは止まぬものがある、ドストイエフスキー研究の世界的に盛行する今日この大譯を得たることを喜ばねばならぬ（國民新聞）

東京市本郷元町・日月社・振替東京二八一九一四番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

想界の羅針盤　**反響叢書**　藝術界の基調

第一編　演劇評論

小宮豐隆著
津田靑楓 裝及挿畫

四六版 約五百頁
布装版畫數葉入
金一圓 郵税八錢

本書に收められた數ある演劇評論はすべて在來の所謂役者評判記式の低級なる劇評とは全然趣きを異にし、著者の鋭どい洞察と精緻なる觀察と、烈しき批評心とに依りて、最近數年の劇壇を縱横に論ず著者獨自の卓見を披瀝したものである。殊に著者が歌舞伎劇に對する觀察と批評とは就中親切且つ卓拔であつて、歌舞伎劇の新しい意味に於ける藝術的價値をあまた發見してゐる點に於て、嘗つてかの坪内博士の『梨園の落葉』乃至は三木竹二氏の『月草』に收めた劇評以來、眞に劇評として稱揚するに足る、得易からざる名著である。記者は本書を以て最近數年に於ける劇壇を通じて最も大きい產物として、苟も劇を談じ藝術を論ずるものゝ座右缺くべからざるものとするに躊躇しない（早稻田文學）

内容一斑

歌舞伎劇に於ける作と人と　中村吉右衛門論　米吉の「おあさ」　德子の「梅ケ枝」　「野崎村」「帶屋」「重帷子」「堀川」「連理の松」

飜譯劇に於ける作と人と　「寂しき人々」「故郷」と「タンタージルの死」「ファウスト」「鴨」「モンナヷンナ」「エレクトラ」「夜の宿」「サロメ」「オセロ」「武器と人と」…

斷片　七章　新富座にて「浦島」「お夏狂らん」

第二編　現代と婦人の生活

平塚雷鳥著
伊藤野枝 岩野淸序

四六版 三百餘頁
裝幀淸雅上製
八十五錢 税八錢

其容貌に於て、其思想に於て、其文才に於て、所謂、新しい女の中の女として最も優れて居るのは、雷鳥平塚明子である單に好奇心の眼を以て見るも明子氏は明治の末から大正の時代へかけて世を驚がした名物女の一人であり、更に之を思想上より見れば來る可き何物かを暗示する日本婦人の先驅である。而して本書は、明子氏が世間の侮辱と賞讃との間に立つて奮闘せる行進曲を集めたるもの、其大體に於て側々人に逼る力の潜んで居る事は爭ふ事が出來ない。世には食はず嫌いの人が多い。一口に新しい女と言ふ誤られた代名詞に冗はれて、思想界に現はれた傾向を見逃す事があれば、後日必ず悔を貽すに違ひない。（土曜新聞）

内容目次

ギ、イとその母の生活　職業的婦人　我國に於ける婦人問題の現狀　エレン ケイ女史　西川文子氏の「婦人開放論」を評す　諸名士の所謂「婦人問題」について　民衆と政府と　新らしきものと　「動搖」に現はれた野枝さん　龍子に就て　森田草平氏に　赤城よりN氏に　談話に代へて「生活」記者に　兩親に　婦人の生活を重んじない社會　旅の七日間　小感二三

東京市本郷元町　日　月　社・振替東京二八九一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四版

萬葉集選

窪田空穗著

中村不折装

菊半截約三百頁
四十五錢税四錢

絹表紙木版彩色
頗美本携帶至便

▲愈々日本民族代表的歌集の新選註完成したり▼

新版

續萬葉集選

窪田空穗著

中村不折装

菊半截三百餘頁
五十五錢税六錢

絹表紙木版彩色
頗美本携帶至便

▲氏は浩瀚なる本集中より殊に自己に興味あり集中の心核と思はるゝもの三百餘首を選みて簡單なる評釋を施し感想を附す。絹表紙菊半截の瀟洒なる裝幀。從來讀み方意義の難解なりし爲に惟り專門家の玩賞に止まり、偶解釋あるも精細に過ぎ乾枯に流れ頗る常人に遠き憾みありし本集は此書に依つて始めて一般人に愛誦さるゝを得べし。蓋し萬葉集の如き最も平民的色調に富める歌集は決して少數の學者歌人の所有にあらずしてまさに國民全體の所有と謂ふべき也(信濃毎日)

▲歌に昵む人々にとつては萬葉集の歌の眞情を流露した醇朴さと近代の詩にも讓らぬその人間味とは力强い誘惑力を持つてはゐるがさて二十巻四千の歌數とやゝ難解な煩はしさは一寸近く事を許されない斯うい ふ不滿を持つてゐる人は本書につい て其の心核に觸るがいゝ(大阪毎日)

▲著者は古典の新鑑賞者として當代に類なしその標準の極めて妥當にして藝術上の權威あることとこの小册をして千金の重みあらしむ(讀賣)

▲萬葉集の佳篇を拔き之を假名交りにわかり易く書下し著者の周密なる註解を附したもので萬葉集の一班を覗はんとする者に好適な書である、空穗氏の批評は光つてゐるしかも一方に學究的な忠實さを失はぬ所最もよし(新潮)

▲短歌長歌に對して詳細な註を施したもので萬葉集研究者に取りては缺くべからざる良書である(早稻田文學)

▲今前著の缺を補ふて此續編を成す、集中傑出せる作歌を拔き難解の句には一々解釋も加へまた歌全體の批評を附したれば初學者にもこよなき手引とならう。卷末「萬葉集の中心思想」てふ論文亦有益の文字(秀才文壇)

▲前者「萬葉集選」の便益と眞相とは、既に一部の認めたるところ、此新著亦著者の新しき評釋者としての天才を遺憾なく發揮したり、是には長歌をも擇錄せり、附錄「萬葉集の中心思想」はよく情理を盡したり(讀賣)

東京市本郷元町・日月社・振替東京二八九一四番

振替東京二八九一四番

早大教授 片上伸著

無限の道

（新版）

四六版三百頁布製箱入著者自裝美本
金九十錢郵稅八錢

自序末節……あらゆる人々は自己を信愛しうる力、人間の本性を信愛しうる力を所有することが出來る。又いかなる人も此力を多少所有してゐない者はない。只人は此力を自ら蔽ひ虐げてゐる。或は自ら所有してゐないと思つてゐる。幸福の泉は實に吾々自らの內にある。生きるといふことは此泉の湧くに任せることてある。此泉の水脈の限なきに隨て、湧き立ち溢れゆくことてある。私の生命も漸くこの限なき道に流れゆかうとするのを感ずる。

▲著者が最近二年間に書いた評論感想を集めたもの、何れも文壇の問題となりたる長編を始め、感想錄等何れもよむべきものである。近時論壇の最も注目すべき好著として文藝愛好家の是非一讀すべきものと斷言する（早稻田文學）

▲我等はこの自任ある著者に一片の敬意と信賴の念とを起さゞるを得ない。新文藝新思潮に對する好研究として江湖に推薦したい（ホトトギス）

▲著者の評論の權威に就ては定評がある、眞の生活に憧るゝものは誰れでも讀むべし（東京日々）

▲曾て生の要求と文學の一書に於て、人生と藝術とに對する思索の敬虔誠實なるを示せる著者は、本書に於て一層其步みを明確に示せる觀あり「生命の培養」「人間の本性」の如き大問題に對する解釋より「南の窓にて」の題下に收められたる斷片的思索に至る迄必ず明瞭なる考察を加へたる所、著者の思想家としての信念を窺ふに足る、廣く一般に勸むるに躊躇せず（萬朝報）

內容

薄命の中より　ドンキホーテ
生命の培養　活力　無限の道
生きてゐる心持　未知の世界
信ずること　持たぬ寶　天壽
人間の本性　與へる人　二種
の新理想家　人間の貴族　思
想の力　生みの苦み　破壞と
奉仕　何もしないでゐる時
信愛の力　God is the all-fair
純一の詩　ナイヒリスト

東京市本郷元町日月社

森田草平作

縮刷 自叙傳

（好評再版）

入箱菊半截四百頁
布裝幀木版七度刷
金九十錢郵税八錢

本書に對する著者の親友諸氏の合評

安倍能成氏
阿部次郎氏

著者の出世作たる煤煙の姉妹編!!

自序より……今「自叙傳」を再び世に送るに就て僅に自ら慰むることが一つある。それは兎に角「煤煙」と共に當時に在ては一生懸命にかいたものだと云ふことである。一生懸命になる、それは今の自分にとつては容易に成れないことである。

▲彼の名作「煤煙」に續くべきものとして著者の畢生の力を籠めし當時の内生命の脱白の表現なること今更言ふまでもなし「兎に角煤煙と共に當時にあつては一生懸命に書いたものだ」と著者の言ふ所は僞りなき告白（朝日新聞）

▲世をして驚嘆せしめ、作者の地位を固めたものである。今や「煤煙」と同形の縮刷となつて現れた、更に愛讀者を裕すことであらう（讀賣新聞）

▲粗き布のポツトリとした裝幀なり、此作は言ふまでもなく作者の興味ある生活をさながら打出せるものとして「煤煙」と共に有名なり（萬朝報）

▲「煤煙」と相並んで文壇を騷がしたる作者得意の作である主人公要吉が山から歸つて女と別れて仕舞つた遣瀬なさに段々と自墮落な生活に沈んで行く徑路が、讀者を壓し付けるやうな、生一本の力で鮮かに畫かれてゐる、「煤煙」に見えてゐる主人公の芝居がかつた遊戲的の氣分が（主人公自分に取ては勿論眞劍なことであつたらうが）次第に無くなつて、いぢらしいほど人間の弱さ果敢なさが現はれてゐる、其れだけ讀者の共鳴をそゝる力が強くなつてゐる、素裸になつた人間の眞實性がしみ〴〵と味はれる、此の意味に於て吾々は「煤煙」よりも「自叙傳」の力が藝術品としても、ヒユーマンドキユーメントとしても、より内容がありより親味があるやうに思はれる（世界新聞）

東京市本郷區元町日月社・振替東京二八一九一四番

雄篇大作 **植竹文庫** 全譯縮刷

第一編

アルツエバシエブ作
武林無想庵譯

（五版）

縮刷 サニン 全譯

原著は露西亞文壇の巨匠アルツエバシエブ氏の傑作にして結構の幽微描寫の精妙共に幾多の大陸文學を壓倒しその深大なる虚無思想は露土の曠原を抱擁して尚餘りあるところ譯筆又雋鋭辭句の辛辣精細にして叙述の確的なる原作の俤を髣髴せしめ讀者をして殆んど卷を措く遑なからしむ——時事新報評——

■原稿紙九百五十枚の大作
■四六版美形箱入美本
■全六號四百餘頁
定價九十錢
郵稅八錢

第二編

伊太利の碩學ロンブロゾオの代表作『天才と狂人』の全譯初めて現はる。

（四版）

縮刷 ロンブロゾオ著 辻潤譯 全譯 天才論

凡そ天才を論じてかくまで該博精緻なる科學的研究の根據に立脚し而も興味湧くが如きものは蓋し空前なり。引照せられたる幾多の詩歌文章また一種獨得の文學を構成す。科學書にして科學書に非ず、文學書にして文學書に非す、心理學？生理學？形貌學？否、否、否、是等の全てなり、近代文藝を根抵より理解せんと欲する人々は云ふまでもなく凡そ天才の眞に如何なるものなるかを知らんと欲する人々は先づ此の書を讀め。

■原稿約九百枚の大作
■全六號紙數約三百五十頁
■寫眞版約五十個挿入
■定價金九十五錢
郵稅八錢

發行所 東京市麴町區三番町八十四 （振替東京一二九五三） 植竹書院

岩野清子夫人著

愛の爭闘

性と愛とになやまれたるの記録にして世界の驚異に價すべき著作なるを信ず、智識ある人々が深き思慮をもつて本書を讀まれんことを希ふ。著者の其の高貴なる經驗はやがて日本を救ふに到るべきはずのものなれば也

定價　金壹圓廿錢

相馬御風氏著

我等如何に生くべきか

過去の生活が今や破滅にまて只一歩の距離に僕等を誘つて來て居る事を自覺しなくてはならない、ありのまゝの現實をありのまゝ眺めて行くのでなくて自己の深き要求を本位としてありのまゝの現實を最も明快に批判し最も總明に改造しなくてはならない＝あらゆる方面に於ける熱と力とに充ちた革命＝今日に於て僕等の要求するところは此の革命の熱と力とに外ならない＝

著者

定價　金九拾錢

發賣元　東京神田　合資會社　東京堂　振替東京二七〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年6月15日発行　【第10回配本】

青鞜第6巻　1月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.6
no. 1

University of Colorado at [redacted]
[redacted]04 6746597

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

讀者諸氏に

私は自分で編輯するこの雜誌を、出來る丈け、立派なものにしたいと思ひます。けれども如何に、私が自惚れて見ましても本當に貧弱な内容しか持つことが出來ません。私一個の微力では勿論どうしても讀者諸氏を滿足させるやうな大家の執筆を乞ふことは出來ません。目次にならんだ人達はまだ世間の表に立つてゐない人の方が多數を占めて居ます。私は毎號々々かうして貧弱だとかつまらないとか云ふ非難を耳にしながらも何時もねうちのない雜誌ばかり編輯して居ります。けれども私の考へではそれにも相當の理屈はつくのです。私自らはこの雜誌自身に單なる苗床としてより以上の何の價値をも求めやうとはしません、私はこの雜誌を引きつぐ際に、一切の規則を取り去つて無規則無方針、無主義無主張と云ふことをお斷はりしました。主義の欲しい方規則のなくてはならない方は各自におつくりなさるがいゝ。何の主義も主張もない雜誌を凡ての婦人達に提供いたしますから各々に自由勝手にお使ひ下さい。お用ひになる方の意のまゝに出來るやうに雜誌そのものには一切意味を持たせません。と云ふことも其の際に申ました。何卒この貧弱な雜誌を覗く丈けの方でもこの事を御承知下さいまし、この雜誌は苗床としての價値より他には何にもありません。此處に芽を出した苗がどんな處にうつされ、どの苗がどう育つてゆくか――未成品――と云ふことに興味をもつて下さる方に初めてこの雜誌は雜誌自らの存在の意義を明らかにするのです。私はかう云ふ負け惜しみな理屈を楯に何と非難されても相變らず貧弱な雜誌を倦きずにこしらへてゐるのです。

――編輯者――

貳月號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

第六卷
第二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜二月號目次

生物學上より見たる婦人の能力…(飜譯)……一　スコットニーアリンゲ　齋賀琴譯
兒童の世紀…(飜譯)……九　エレン、ケイ　山田わか譯
色々なこと…(感想)……一九　野上彌生子
小さき者…(小說)……二八　吉屋信子
水仙の花…(短歌)……三九　齋賀琴
最初の家…(小說)……四一　五明倭文子
初戀のなりゆき…(小說)……四七　岡田八千代
生き路…(感想)……五〇　本庄夏葉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

含葉嘯葉……（短歌）……五八　三ケ島葭
晩秋初冬……（短歌）……六〇　山の井みね子
白山下より……（手紙）……六二　野枝
更に論旨を明にかす……（論文）……六九　青山菊榮
再び青山氏へ……（手紙）……八〇　野枝
折にふれて……（日記）……八六　岡田ゆき
新刊紹介……八九
編輯室より……九〇　野枝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生物學よりみたる婦人の能力

――スコット、ニーアリング――

齋賀琴 譯

社會の進歩に貢獻する婦人の能力は、生物學からみた婦人の能力――即ち人間種族の生命ある一員としての婦人の能力に關する言葉に依て陳述されるであらう、或は婦人の人格的能力――即ち社會の一個人としてのその能力に關する言葉に依て陳述されるであらう。生物學から見れば婦人は、過去から傳はり未來に移る人間の種族にあつて、一の單位である、人生と種族とは婦人の努力を以て性質づけられる。人格的にみれば婦人は制度と傳習とにとりまかれて居る社會團體の一員である、――彼女が生れた社會の全體の一部としての生命である。

婦人の生物學的、及び人格的の能力の性質は何であらう、生物學から云へば「女性は單に種族を代表するのみか、例證を除外してもなほ婦人は種族である」とフレデリク、ウォードはあらゆる彼の著書のうち最も重要な Pure Sociology の中で云つて居る。故に種族の立場から觀察すれば、婦人は社會の進歩のために特に重要な位置を占めてゐる、故に婦人は種族である、婦人は未來へ移つて行く種族の性質を限定する。(C.W. Saleeby の Woman

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

and womanhood を見よ)。

各時代は新らしく生れて來る――婦人から生れて來る。時代はその時代が發見する社會制度を必らず受取ると同時に、極力その社會制度を改修してその時代の目的を成就するであらう。時代はその時代が屬する種族を代表するある性質を伴つて世の中に來るのである、もし現代の生物學者が誤りないのならば、女性はこれら種族の性質の多くを傳達するものである。

各種族の中には固執されるある固有の性質がある、リプレイの「ヨーロッパの種族」は人種の優劣に關する昔の議論を取るに足らずとしてゐるものゝ、その固有な性質と云ふのは明らかに、種族の群を代表するある卓越れた性質を指示するのである。たとへば吾々チュウトン族の祖先は美しい髪と碧色の眼を持ち身長は高く、そして長い頭を持つて居た。これと全く反對にイタリー人は色が淺黑く、丈が低く、そして圓い頭を持つて居た。これらの表面上の種族の性質は、攻撃、協同の力、民主政治に對する本能のやうな根本的な性質よりも意味が少ないものゝなほ、それらは種族の異つた性質を表はしてゐる。實際根本的な種族の性質は到底計ることも比較することも出來ないが併しその有無はその種族の優劣を決定する。これら種族の性質は表面的にせよ、根本的にせよ、婦人に依て、元始の種族

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に貢献されたものである。この說明の歸結を敢行するためにはいくらかの努力を必要とする。

生物學的生活の最も元始の形式は男性も女性もない永久の無性であつた。細胞は「發芽」或ひは「分裂」に依て增殖した、まだ充分發達しない生活の形式を營む、生物は授胎(女性)と授精(男性)と二つの要素をそれ自身の中に持つて居た、生活のより低い形式の到る處にあつて「女性は結果を造る性である、そして結果を造るものは何でも女性として尊敬されてゐる………生物學者はこの一般の見解から出立した、そして「母細胞」と「處女細胞」とを正しく說明した。故に人生は女性の身體を以て始まり、そして女性ひとりに依て遠い未來に運ばれて行くと云ふことは言語にとつても科學にとつても亂暴ではなかつた……一言にすれば人生は女性として始まるのである、元始から存在する女性の性は變化せずに繼續する、併し元始に於て存在しなかつた男性の性はある時代に表はれたものである………恐らく男性を伴ふよりも男性のない多くの生物がある、

……女性は單に Primary のまた original の性であるのみか、主な本體としてあまねく繼續する性である。男性は………單に自然の後智慧に過ぎない。その上男性は、最初長い間、そして現在も生物のより低い階級の到る處にあつて授精の作用、(卽ちそのために男性が創

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

造されたのである)、のために專ら貢献する。下級動物の多くの中では男性は只授精するばかりである。」(Woman and Womanhood 313—14)

か樣に生活のより低い階級の間では女性は獨り創造物である。暫らくたつてから兩性具有の生物は單性に變つた、併しなほ女性は支配權のある原動力であつた、……「昆蟲仲間では一般に男性は女性よりも小さい……自然界には種々の階級に屬する多くの種や屬がある、それらの中にあつて常により小さくそして一層弱々しい男性は、食するために如何なる官能の器關も備へず、また生活の途中にある幼蟲の時代に於て食物を貯へる時代以上に生命を支持する事が不可能に思はれる程不完全に發達した」(同上217)。生活のより低い樣式に於て、女性はその名譽に於ても權勢に於ても單獨である、生活のより高い發達した樣式にあつては、男性は女性よりもより大きくより強い事が表はれてゐる、併し此處でさへも女性はなほ種屬である。男性は生活の範圍内に這入つた、彼はより大きくなることを妨げられぬ、よりすゞしい聲音と美しいコートを持つことを妨げられぬ、併し自然が種族の保存を要求するものは女性である。

人間種屬は女性が元始の性質を一般に支配したと云ふとに對して異議を唱へない。「各時代毎に全人類は丁度ある鑄型を通るやうにその時代の女性の身體を通過する、各時代の上

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にこの女性の鑄型の抹殺されない記號を印して再現する………未だ超れてゐない婦人の智識力、生理上の力、情緒の深さは連續する各時代を以て人間種類の展開の範圍を制限する、」婦人は生物學からいへば權力者である。婦人は種族である。種々な種族の成功や幸福はその種族の婦人の成功や幸福と共に現はれるのではないか？

種族の發達に對する婦人の貢献の中に若干の重要な要素がある、それは極めて明白に表はれてゐる。

一、婦人は男子よりも種族のタイプに近い。

二、婦人は男子よりも專問的でない。

三、婦人は生物學上男子よりも保守的である。

これら三つの有力な説明は、吾人が卓越した男子と卓越した種族の生物學上の價値を研究するためにはまづ第一に婦人を觀察しなければならない事を勿論證明するであらう。

種族のタイプとは何であらう？進化の發達は大きな頭腦、小さな顏、圓い體幹、弱い足と纖弱な骨を持つてゐる Human creature——人間の赤子に依て殆ど完全に代表されて居る毛の生へない動物——の方に働かれるやうに思はれる。成人した男子は人類のタイプから遙かに遠ざかつてゐる。出來上つた進化と進化の完全とを同じものであると假定するの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は大なる誤りである。事實、成熟した人間の男性は生物學から「凋殘か、もしくはもはや役に立たない人間である」(Adolescence, 561) この老年は只成熟と伴つて來るものである。違つた種族の子供の智識力の間にはわづがの明白な相異がある、併しそれからの種族の成人の中には著しい智識の相異がある。(Man and woman 445—7) 更にまた天才の人々は子供のタイプに多い、「ギリシャ人はいつも子供であつた」そして彼らの間にはよく天才があつた。か樣に子供のタイプは種族のタイプである、そして明らかに有機的進化の目標を代表する。

そして婦人は? 婦人は著しく子供に類似して居る。「婦人は男子よりも高い程度に人間の特殊な性質を表はしてゐる、…………婦人は、男子が近づいて行く處の人間のタイプを男子よりも精密に代表する。」種族のタイプを握つて居る子供は人間種族の發達のたしかな系統の徵證を與へる。きわめて非專問的であつて、そしてこの理由から、子供のタイプに近い婦人は、一層種族のタイプに近い、そして未來の種族發達のタイプを一層多く表はしてゐる。

種族の立場から種々に陳述すれば、婦人は男子よりも專問的でない。もし一定の標準を表はす一の線をひく事が出來るならば、婦人は男子よりもこの線から遠ざかつて居るであ

らう。婦人の中にはより僅かな天才とより僅かな不完全な人とがあるであらう。婦人の發達の度は左程高くない、即ち善いにせよ惡いにせよ人間を性質づける特殊な性質をより少なく持つてゐる種族のタイプにより近いのである。(Man and Woman)

婦人はあまり專問的でないために一層保守的である。即ち彼らは過去に執着する傾向を一層多く持つてゐる、そして新らしい方面に發展する傾向を多く持たぬのである。ハヴェロックエリスは「一般に女性としての婦人は不屈と保守主義との有機的な傾向を持つてゐる」と云ふ觀察を下して居る(Man and woman 429。)男性の變化をある程度まで論じたあとでウォードはかう云つた、——「女性はか樣に變化する事が出來ない、彼等は生物學上の組織の重力の中心を代表する。彼等はギョーテが言說したやうに永久の頑固な力である」(Pure sociology 322—3)。ジョウジ、スタンレーホールは「婦人は氷河の上に降り積む雪の新らしい層のやうに、連綿としてつゞく時代に依て獲得されるものを保養するために貢献する、……………婦人の心は男子の心よりも一層多く特に遺傳の器關である」(Adolescence G. Slanley Hall)と云ふブロックの正當な言葉を利用した。婦人は種族の性質を保守し、そしてそれらの性質を遺傳を通じて未來の時代へ移して行く。

進化論の立場から見れば女性は必然に種族の性質を代表する。「母性の半數の生命の器官

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

がおしなべて劣等である種族は生き殘る事が困難である」（Man and Woman, Havelock Ellis）消極的に考へればこの事柄は實際である、女性の支配が無ければ種族の發達は不可能になるであらう。積極的にみれば婦人は「人間の曲折した道程の頂上にある（この曲折した道程から未來のより高い超れた人が生ずる）………婦人の全靈魂は意識的にも無意識的にも遺傳の偉大な機關として最もよく考へられる。」(Adolescence. G. S. Hall)

重ねて私達は「婦人は種族である」と云ふ、婦人はあまり專問的ではない、そのためにより種族のタイプに近い、より多く種族のタイプを表はして居る、そしてそれ故に彼女が屬する種族の性質を未來の時代へ移そうと用意する。元始の婦人に對して種族は種族の生物學上の發達を要求したのであつた。彼女がそれを望むか望まぬか何れにせよ、彼女が男性よりも寧ろ女性であるために、責任はその肩にかゝつて居る。彼女は過去から發達し、そして傳はつて居る性質を保守する。彼女はそれらの性質を未來へ傳へるために、男性より多くの準備をそなへてゐる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

兒童の世紀

エレン、ケイ著
山田わか譯

第二章

未來の子供と婦人の勞働(二)

勞働階級の婦人は苦痛並びに危險に堪へて行かなければならぬ。そしてこの苦痛この危險に堪へるには一致共同が必要であつて、而してこの一致共同が含蓄する力、則ち、制裁に服從しなければならない。この條件のもとにのみ、男子も女子も、一方に於ては彼等の聯合により、又一方に於ては、今日益々認められて來た原則、則ち、社會は立法によつて其の社會員が勞働すべき條件を定める能力をもつて居ると云ふ原則の延長によつて、彼等の位置を向上せしむる事が出來るのである。かくの如くにして始めて、より健康な、より强壯な、より美しい、人類に耻ぢざる人生と勞働の條件がつくり出されるであらう。この絕ざる進步のうちに社會の凡ての部分は他のあらゆる部分と關係して行くのである。

組織のない、普通の、其のために又安い賃銀の婦人勞働は男子の賃銀を安くし或は男子の仕事を奪ふ。又、工場の仕事は母の義務としての家庭の仕事に婦人を不適當とする。工

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

場の混雜、熱氣及び繁劇促急は婦人の神經を破壞し、それと共に彼女等の細やかな情緒をもほろぼしてしまう。彼女等は家庭生活に主要な力と心情を失つてしまう。婦人達が惡い條件のもとに居る事は男子のために結婚を困難ならしめる。そして獨身生活の結果、男子の死期は早められる。勞銀の安い事と、仕事のない時があると云ふ事は衞生に害あるやうな衣食住となる。困憊した貧弱な婦人が夫の稼ぐ僅かな金で適當な衣食をとゝのへる事は出來ないと云ふ事になる。そしてこゝから、あらゆる疾病と不節制は始まるのである。これ等の原因と、それから上に述べた原因とが連結して工業地方の人口は、共和政體のスイツルランドに於ても壓制主義の露西亞に於ても、同じやうに廢頽して行くのである。

多くの場合に於て、かくの如き缺陷多き勞働狀態は家族並びに獨身婦人にも影響を與へずには置かない事は事實である。兒童勞働の制限も亦直接家族に不都合を來す。けれどもこれは一時的の困難である。あらゆる方面の進歩がどの方向に向つて居るかゞ明瞭になれば其の困難はすぐ救濟さるゝものである。とにかく、こう云ふ種類の進歩は之字形(ジグザグ)に進んで行く。自由を一時制限する事が進歩になるかならぬかは、人が、個人又は小團體を離れて社會全體に目を轉じ、そして、社會が其の制限のために利益するや否や、又未來に於て其の制限があらゆる自由と幸福の増加になるや否やを發見し得るや否やによつて定まるの

である。

勞働以外の話で、たとへば、競技などの場合に於てすら、競技者は一定の規則によらねばならぬと云ふ事が通則である。けれどもこの通則は、人生と云ふこの慘酷な競技に我々は應用する事が出來ない。我々は我々自身の意志をもつてこの競技の中に入るのではない。子供は兩親の誤解や過失のために受けねばならぬ苦痛を避ける權利をもつ筈である。兩親の不調和な結婚の場合に子供は如何にして其の苦痛を避け得るかと云ふ事は各個人の問題であるから、各個人別々な解決法を考へなければならない。既に前にも述べた置いた如く結婚をする動機、結婚期及び年齡に就ての習慣の變化が子供に對する最も確な保護である。この子供の保護は年を逐ふてぜん〳〵と擴張されて行くであらう。女性の一人としての義務を嚴肅に自覺する事によつて次に擧げる事柄は若き既婚婦人の罪惡として認められるであらう。則ち、それは、過度な勉强、又は過度に遊技にふける事、又容姿をつくるため、窮屈をしのんだり、過度に糖菓をとつたり、烟草及び强い刺戟物を用ひたり、夜ふかしをしたり、過度な勞働をしたり、其の他數限りなき仕事によつて自身の肉體を虐遇する事である。これ等の美しい馬鹿者は自然に對して大罪を犯して居る。遂には自然がその忍耐を失ふ迄彼等は其れを續けて居るのである。

故に法律の保護なき婦人が知らず〳〵の間に犯す、女性としての本來の性質にそむく行爲を法律は制裁しなければならない。

この保護法律をつくる事が、婦人解放運動のうちで最も大なる仕事である。これに比較すると他のあらゆる運動は殆んど要用なものではない。この點を見逃して居るから、現今の女權運動者は人數の進步に反對して働いて居る。けれども彼等は、自分では、全體としての婦人問題を解決する唯一の方法は社會の改革を通してであると斷言する人々に向つて、反動的と云ふ言葉をあてはめて居る。が社會革命には保護的法律が一個の重用な要素である。

他の多くの人と同じやうに私の考へ方では、國民にとつて貴重なものは婦人ではなく母である。であるから社會が母の作用を保護する時に社會は其の最高度の幸福に達する事が出來る。母の作用は出產又は幼兒保育の業にのみ限られて居るのではなく、それは敎育期の全體を通じて續くのである。未來の新社會に於て男女が平等に勞働する場合に（子供、病人、老人を除いて）人々は母の作用を重大視するであろう。そして彼等は凡ての母に、一定の條件及び或る制裁のもとに、何年間か何人かの子供のために敎育費として社會から給與を支出する事を必要と認めるやうになるであらう。子供が母の手を要する間は、母は

其の給與を受けてそして其の間は家庭外の仕事にはかゝはらないやうになるであらう。勿論或る理由のもとに、彼等の子供の養育及び教育に自身を捧げる事の出來ない母もあるであらう。そう云ふ母は例外であるし、又彼等は彼等自身の生產的事業によつて自分の代りの人を雇ふ事が出來る。とにかく、大多數の婦人のためには、上述の提案が疑なく、今、不解決に惱んで居る諸問題の本當の解決であらう。社會の進步は、家族の扶助者として父を見る舊い理想には最早固執して居ないであらう、各人は彼自身に就てのみ心を勞すべきだと云ふ新しい概念がせん〳〵と地盤をかためて行く事を私は望んで居る。父たる人が、家族の扶助に壓迫されて居ない時、しかる時に彼は始めて本當の意味の教育者になる事が出來る。而して婦人も亦一家族の母として、男子にたよらずともいゝ事になる。たよると云ふ事は未婚時代に自身の生活費を得て居た婦人にとつては少なからざる屈辱である。社會のために母が背負はねばならぬ大事業、則ち、新時代の保育に付いて人々が考へるならば彼等は母長政治(Matriarchy)のこの新しいかたちに歸へらねばならぬ。多くの場合に於て家庭の外に勞働する既婚婦人は次のやうに云ふ。彼女等の幸福は安靜に家庭を處理し、自身の子供を世話する事であるが、併し夫から獨立するためには一定の收入を得ねばならぬ。と婦人運動の特別機關なる、スイデンの一新聞が二年前に既婚婦人の生產的勞働の硏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

究をしたが、其の解答は新聞の豫期に反して、皆一致して居た。則ち、婦人が家庭を外に勞働する事によつて、如何なる危險が子供に伴ふか、又家庭の滿足が如何にみだされるか、と云ふ事であつた。青年の殘忍性が增加した原因に就ての公平な研究は次の事を明瞭にした。諸國に於ける青年の罪惡の速なる增加は、一部分はあまり年少のうちから勞働に從事する事、一部分は母の家庭を外に勞働する結果、幼少の時代から家庭生活を缺いて居たからである。

もし社會が、子供の出生は續けられねばならぬ事及び家庭は一般に子供の幼年時代の敎育に最上な場所である事を認めるならば、現在の家庭外に於ける婦人の勞働の結果を悲觀しなければならない。そしてかくの如き婦人の勞働を禁止しなければならない。母を彼女の子供及び家庭に呼び返すやうな社會秩序の計畫及び敎育の綱領は他の如何なるものよりも緊急な仕事である。

現今の資本主義的產業組織に歸因する有害な分裂した結果を癒すための博愛主義のあらゆる盡力は無駄な努力である。婦人は家庭の外に勞働する事によつて直接間接に次の時代の活力を削いで居るが、其の削がれる活力の百分の一も、彼等の貴き盡力になる託兒所、幼稚園―食事をも用意する―其の外病院、ベケーショシホームは償ふ事は出來ないのであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る。

子供を養育する集合的制度をつくる事によつて家庭生活の問題を解決しやうとして居る幾人かの人々がある。丁度、酒造、ぱん燒、屠殺、成は蠟燭製造、裁縫なぞが漸々家庭内の仕事でなくなるやうに、料理、洗濯、つくろい物のやうな家庭の仕事の大部分も遂には電氣或は機械を用い集合的の勞力によつてとりはこばれるやうになるであろうと私は信じる。けれども人生の內部關係及び私生活の習慣が深く影響されるあらゆるものに、無人格な一樣的な集合的行爲が應用される傾向に、有人格、則ち、個人主義的傾向が打ち勝つであらうといふことを私は望んで居る。鞏固な家庭生活が眞正な幸福及び人格の發達の基礎として認められるであらうといふことを私は望んで居る。野蠻時代の遺物なる今日の家政の方法―買物籠、臺所道具、擦り刷毛等―は凡ての家庭からなくなつて、そして電氣が室內を温めたり其の他あらゆる家事をとりはこぶやうになつても猶婦人の家庭の仕事は絕へはしない。家庭が兵舍のやうな方法をとらない限りは、如何なる完全な裝置をしても或は又共同の方法を用いても絕對に婦人の手を待たないと云ふわけには行かない。召使を置くと云ふ習慣は近き將來に於てなくなる事であらう。何故と言ふに雇はれる人はだん〳〵となくなつてしまう。故に凡ての婦人は自身で家事をとらねばならぬやうになる。或は旣に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

亞米利加に於て工夫されだやうに何時間いくらと云ふ家内的勞働者を供給する局が設けられねばならぬであらう。倫敦にも亦現在この家内的勞働者の組合が出來て居る。そしてこの勞働者は一定の組織ある條件のもとにこの勞働に對しての訓練を受けるのである。雇ひたくも雇はれ人のない國に於ては妻計りでなく娘等迄も農業に從事しなければならない。これは若き娘等が家庭外の仕事に走らうとする傾向を止める自然の制裁である。この制裁がなかつたなら彼女等は都にむらがり行き、都は彼等で充滿するであらう。

最後に、婦人が或る仕事の練習に又は或る研究に五年、十年を費した後、結婚のため其れを捨てる事によつて起る經濟上の損失を我々が今考へるならば我々は近代婦人勞働の結果を愼重に研究しなければならない事は明白である。そして今日のこの社會組織に對する贊否を定めなければならぬ。婦人自身の見地から、兒童の見地から又男子の見地から最後に生產の見地から、社會は婦人勞働の狀態を變更しなければならない。このまゝの狀態を續けるならば家庭生活の分裂は益々殖へる計りである。社會は勞働と生活の樣式に變化を與へるか、或は兩性の墮落を見るかどちらかである。

どの時代よりも現代が最も其の勢力を示して居る博愛事業は、唯、下水渠の口もとで香のある燻煙をあげて居るやうなものである。この燻煙は下水渠から傳播する病菌を防きは

しない。そして通行人のために周圍の空氣を一層たへがたきものにしてしまう。

自己保存の本能なる利己主義は、社會の指導者等に彼等の行爲を社會の見地から定めさしむる事によつて、自ら消滅してしまうであらう。しかる時に婦人問題は人道問題となるであらう。そして婦人問題の首唱者等は、子供のためにも男子のためにも有害な狀態のもとに、婦人が勞働する事は、婦人のためにも永久の損害である事を悟るであらう。そして又彼等は婦人の獨立と云ふ名に於ての要求は『最上の權利は最上の不公平である』と云ふあの古い格言によく符合して居る事を知るであらう。婦人並びに全人類が生理的に荒廢するやうな狀態のもとに婦人が勞働する事によつて、決して正義は得られはしない。他の關係に於ては、婦人は自由選擇をする能力をもたねばならぬ。又其の自由選擇を利用し得るやうに充分敎育されて居らねばならぬ。けれども資本が婦人の勞働力を利用する事によつて流す弊害に對し、保護を缺いて居る無數の婦人を擁護すれば其處に始めて正義は得らるゝのである。

婦人が或る勞働界から男子を逐ひ出し、そして未婚婦人が旣婚婦人を勞働市場から逐ふと云う事は、階級爭鬪の歷史及び婦人運動の歷史が現して居る大なる敎訓である。全速力をもつて進步して行く亞米利加に於ては旣に未婚婦人のうちにこの目的をもつて創立され

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た團體がある。これは自由競爭の組織に屬する現象であるが、この自由競爭は『現代に於ける重なる思想、則ち彼自身の職業を選擇する個人の權利』が創造したものである。恐らくは、婦人と婦人の間に鬪爭が世間の通則となつた時に、女權の主張者等は、婦人勞働の問題は彼等の想像して居たものよりも複雜である事に氣付くであろう。彼等は、今日迄、この問題を唯婦人獨立の權利の見解からのみ見て居つた。が彼等は一致共同の感情から離れた個人主義は、社會の鬪爭、階級鬪爭、兩性の間の、既婚者と未婚者の間の及び青年と老人の間の爭ひになると云ふ事を理解するのであろう。そして社會の全體を變更する事によつてのみ、婦人は他の個人則ち子供の權利を前以て、侵害する事なく彼女の充分な權利を享有し得る事が明瞭になるであろう。

女權主張者等がこの意味を悟る事が早ければ早い程利益である。保護的法律に反抗するかはりに彼等は其れを擁護しなければならない。勞働組合(ユニオン)や同盟罷業を疎んずるかはりに、彼等は職業婦人が組合を組織する事を援助し、又同盟罷業が正當である處には其れを支持する事につとめねばならぬ。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

色々なこと

野上彌生子

一

冬になりますと、私は家の人達から色んな仇名を貰ひ出します。熊だの、むぐらもちだの、お婆さんだの、猫だのと、一寸數へて見ても三つ四つあります。これ等は言葉はまち〳〵だけれども、すべて私の寒がりな事、風邪を引くまいとしてどつさり、なりもふりもなく着ぶくれて冬を暮らす事を意味する點に於て一致してゐます。全く私は寒さには意久地なく負けてしまひます。惡くすると秋の末から、春、可なり暖かになるまで、一度引いた風邪をぶら〳〵持ち越して暮らす事さへあります。やつとよくなつたと思つて風呂に入ります。すると翌けの日からまた元へ逆戻りをしなければなりません。止むを得ない用事で外へ出ます。而してあゝ寒いな、と思ふような事があると、直ぐです。歸つて直ぐ寢て仕舞はなければならないのであります。毛穴に垢のたまつた白い腕をぢつと見ながら、臥せつてゐますと、妙に悲觀させられます。それ故私はこの近年空氣の冷たい間は決して外出しない事に極めてしまひました。平生でも一年中數へる程しか家の外に出ない私には、それも大した困難なしに實行する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事が出來てゐます。それで又一つ仇名を貰ひ出しました。アタナシアディスと云ふ仇名がそれであります。

このアタナシアディスと云ふのは、エドモン・ド・ゴンクールの『ラ、フォースタン』の中に出て來る隱者のような希臘人のお爺さんの名前であります。而してこのお爺さんの名前が私に結び付けられたわけは、南歐生れのこのお爺さんは巴里の空氣の冷たいのを厭うて、寒い間はぢつと假寓の二階——元は寫眞屋だつたとかで天井が硝子張りになつてゐる妙な二階——に、それも硝子板と硝子板の間を張りつぶして引き籠つてゐる程の寒がりなところが、私に似てゐるからなのであります。ところでそのお爺さんは色んな讀み物の中に出て來る私の友達のうちの一人でありますから、熊や、猫や、むぐらもちの仇名の方は仕方なしの苦笑を持つて頂戴してゐる私も、このお爺さんの名前だけは、有難く、光榮に思つて甘受してゐる次第であります。それ故私はこのアタナシアディスの面白い生活の一端をお話し致さうと思ひます。

話はラ、フォースタン——佛蘭西座（テアートル、フランセー）の女優——がセント、ビューヴの紹介狀を持つて、そのお爺さんを訪ねて行くところから初まります。ラ、フォースタンは妹のマリイと一緒に馬車で出掛けます。

『バティノオユ、ルウ、ド、レエヴィイの三十七番。』

姉が馭馬にこんな命令をしますので、

『バティノオュなんて。一體バティノオュへ行つて何を見るの。』

と妹は不思議がつてゐます。彼女は姉ほどの深みのない、しかし姉に劣らず美しい蝶々のような若い女であります。

『當てゝ御覧。』

『一ルイ出して占ひ者に見て貰ふの？』

『大違ひよ。とても當りつこはないわ。』

ラ、フオースタンは子供のように笑つて嬉しがります。そのうちに三十七番地についたので、二人は馬車を下ります。而して妹がこんな下宿屋に何んの面白い事があるのだらうと思つて、ぶつ〳〵云つてるのを、知らぬ顔をして、ラ、フオースタンは這入つて參ります。而して階段を上つて左側の部屋の戸口を順々に數へて、七番目の戸口の前まで行くと、立ち停つて叩きます。

すると重い足音が聞えて、戸が少し開きました。而してその空間から大きな鍵鼻と、長い白髪と、その上に金の縫取りをした小さい帽子を冠つた顔が覗きました。が二人の美しい婦人を見ると、

『これはお間違ひで御座いませう』

とそのお爺さんは慇懃に云ひながら、室内の方をふり向いて、何か、しつ、しつ、と叱つてゐます。

『いゝえ。あなたはアタナシアヂィスさんでゐらつしやいませう。』と云つて、彼女は紹介状を見せました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『左樣でしたか。ではお這入り下さい。が、私の小さい友人達のために、どうかそつとゐらつして下さい。』

二人が這入つて見ますと、元は安寫眞屋の撮影室かなんかだつたと見えて、天井が非常に高くなつてゐます。而して部屋一ぱいに小鳥が放ち飼ひにしてあつて、チューチュー啼いたり、飛び交つたり大騷ぎをして遊んでゐるのであります。

『まあ、何んて可愛らしいんでせう。』

妹は叫びました。それからすぐ着物の上に手をやりながら申します。

『たゞ、こんないやな物を落すのが困りますわねえ。』

斯うして小鳥がゐるのですが、部屋は古い女中部屋のような恰好で、裝飾物と云つてはパルテノンのパアレリーフの漆喰細工が三つ暖爐の飾り棚に置いてあるきりであります。白い伊太利の皮紙で裝釘した書物のぎつしり詰まつてゐる長い棚が、高く四方の壁に添うて走つてゐます。一方の隅には戸の半分開いた食器棚があつて、その中には漬け物の這入つてゐる色んな瓶と、卵を一杯入れたどんぶりが見えます。部屋の中には藁の寢椅子がたゞ一つあるきりであります。それも目に立たぬ隅つこの方に置いてあつて、架臺で支へられてゐる板の上には、土耳古のタペストリーで蔽はれた小さい布團が伸べられてありました。夜になるとお爺さんは其處に丸寢をするのであり

ます。

部屋は小鳥の匂ひがしてゐます。

『どう云ふ御用事で御座いませうか。』

そのベットの上に、二人の婦人を招ずると共に、主人は斯う申しました、それでラ●フォースタンは彼女の來意を述べます。それは斯う云ふでありました。今度佛蘭西座でラシーヌの『フエードラ』を上場するについて、彼女がその女主人公のフエードラに扮する事となりました。いろ〳〵研究して見ますと佛蘭西語の『フエードラ』だけでは満足されない。どうしても希臘の原作を聴いて見度いと思ひ立つたので、お友達のセント、ビユーヴに相談いたしますと、それならあなたの許へ伺ふのが一番だと云はれまして、お訪ねいたしたわけで御座いま。どうか私のためにユーリピデスの『フエードラ』を朗讀して貰へますまいかと頼みました。と、お爺さんは直ぐ承知致しました。而して自分の椅子を本棚の前に引つ張つて行つてそれに乘つて高い棚のまん中から一冊の書物を大事に取り出して、

『これは神聖なホーマーです。』

と、一寸とラ、フォースタンに見せて、今度はその隣りの一冊を拔いて下りて來ます。而して大きな眼鏡をかけて、暫く恍惚としたように天井を仰いでゐましたが靜かに頁を開けて讀み初めました。するとラ、フォースタンが急いで遮りました。

『アタナシアチスさん。失禮ですが下に馬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

車が待つてゐますから、もし御本を持つてゐらして下さいますなら、御一緒に御飯を頂きに參りませう。他のお客様はみんな斷りますの、そして今晩は私達つきりで面白く過せますわ。』

すると

『夫人（マダム）』とお爺さんは答へます。『それが私に出來ます事なら、又あなたのお望みとあれば、非常に喜ばしいのですが、ね、私は九月から五月の末まではこの部屋の囚人なのです。又あなたには斯うして周圍に小鳥を飼つてゐる樂しみが、とてもお分りになりませんでせう。その間中は外出は嚴禁なのです。お國の冬の空氣は私を殺して了ひそうですからねえ。』

斯う云つてお爺さんはその招待を拒絕して朗讀を初めます。時々、

『マダァム。ラシーヌには此處が脫けてゐますよ。』

とか、

『こゝのラシーヌの譯し方は拙いと思ひますね。』

とか云ひながら。ラ、フォースタンは熱心に敬虔な態度で耳を澄ましてゐます。しかし妹の方に取つては、こんな事は稍迷惑なお招伴なのであります。そのうちに日が暮れました。お爺さんは小さいランプを灯して尙朗讀を續けましたが、科白の受け渡しの度に二人の女の頭の上に懸つてゐる時計の方を見あげました。

『お疲れぢやございませんか。』

ラ、フォースタンがそれに氣がついて申しました。

『いゝえ、疲れやしませんがね、私は國風を守つて、巴里の交際社會よりかずつと早目に食事をする事になつてゐるのです。』

『あ、なる程、食事の御時間で御座いますねえ。』

　それにしてもラ、フォースタンは聽きかけたものがお仕舞ひまで聽き度いのでした。

『アタナシアヂスさん。どうか私共にお構ひなく召上つていたゞきます。その後で又伺へますから。』

『ですが、私は食事を持つて來らせるのぢやありません。手料理なんです。それも極く簡單ですみます。或る程度まで私はヴェネチアのコルナロォ派なのですからね。卵子と、乾魚と、黑橄欖の實がまあ私の主な食物です。あなたのゐらつしやるところから、私の冬中の食料部屋が見えます。』

　ラ、フォースタンは立ち上つて食器棚へ行つて見ます。而して小娘のような好奇心を以つて瓶を次ぎ〳〵に取り出しては、子供らしく灯りにすかして見て、又暗い所へ置きました。

『燐寸のような乾物がどつさりなんですわねえ。』

『そりや Tyiros ですよ。それを食べる時にはラキを飲むのです。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あなたはぢや肉つてものはてんで召し上らないのですの。妙ですわねえ。あら何か知らひしこがありますよ。これは上等だ。毎日〳〵極りきつた卵ばかりで、長い間にはお飽きになりませうねえ。』

　こんな事を云ひながらラ、フォースタンは洗濯女のように派手な着物の裳をからげたり、ピンで裾を留めたりして支度をしました。而して冗談のような調子でその仲間へ申します。

『今日は私達があなたのお料理を致しますの。ひしこのオムレッつてものを、あなたは屹度御存じないと思ひますわ。それを拵へるのは私は誰より名人なんですよ。まあ私達の白い手で拵へたのを一つ召上つて下さいましな。マリーや、そのお鍋を貸しておくれ。アタナシアヂスさん。あなたはどうぞすぐ炭を下さいな。』

　アタナシアヂスが氣の毒がつて、まごまごするのも頓着なしに、ラ、フォースタンはこんな調子で快活に戯れながらオムレッの料理にかゝります。

『アタナシアヂスさん。ねえ私がどう云ふ風にこれを反すか御覧なさいましよ。一、二、三、おつと旨い。おいしそうな色ぢやありませんか。下の方はふつくらしてますわ。さあ、マリー、食卓の用意をなさいよ。』

　今までにない今宵の賑やかさに、小鳥の群れは眠らないで、みんな飛んだり、しやべつたり大騒をしながら、その饗宴の上を

往つたり來たりいたしました、二番目の皿は橄欖でありました。それがすむと又ユーリピデスの朗讀が續けられました。

毎年寒くなつてその希臘人のお爺さんの名が私の仇名として使用される頃となりますと、私はよくこの老人の世離れた閑雅な生活と、小鳥と、その風變りな一と夜の饗宴を思ひ出します。而してその饗宴は如何にも小さく、簡單で、皿の數も乏しかつたけれども、ラ・フォースタン姉妹のお料理で、そのお給仕で、且つそんな可愛らしい小鳥の伴食と音樂との中に催されたと云ふ事は、どんな貴人にも望めない事であります。私は思ひます。アタナシアヂスお爺さんのそのその食事は、恐らくその晩の巴里のどこの晩餐會よりかも、贅澤な豪奢な、ものであつたでありませうと。

小さき者

吉屋信子

——小さき子の一人を惑する者は挽臼をその頸に懸られて海の深に沈められん方なほ益なるべし——(馬太傳、第十八章の六節。)

ふさ子が生れた時、お母さんが産後の病氣のためにお乳が出ないので田舍の百姓家に里子にやられたのでございました。

ふさ子が七ツの春、里親の許から生みの親の家へ歸つた時には、ふさ子の見知らなかつた弟や妹が幾人も居りました。

自分で生んだとは言へ、赤ん坊の時から七年の間遠くへ離して居いた子供が戻つて來たといふことは、お母さんの胸には、ふさ子に對しての何の愛情も起きなかつたのでございます、まして幼ない妹や弟たちは不思議な顏をして圓らの瞳を見張り、ぢろぢろと、この不意に家庭に飛び入つた年上の女の子を見つめるのでした。

ふさ子は、血肉のほんとに續いた人々の中に交つてゐながら、幾日たつても冷い周圍に、たゞ(ひとりぼつち、)で居らねばなりませんかつたの。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寂しい痛ましい現實は、かくして日々ふさ子を苦しめ苛なんだのでございます。その結果は、いつとしはなく、ふさ子は沈鬱ないぢけた子となつてしまひました。

「まあ、ほんとに、ふさ子は妙にひねくれた可愛げのない兒だよ。」

と彼女のお母さんは申しました。

ふさ子は、その年の四月に尋常小學校の一年生になりました。

生れて始めて學校の門をくゞつた幼ないいぢけた沈鬱なふさ子は教室の中では、お行儀がようございました。しかし先生が「笹島さん」とふさ子の苗字を呼んで黒板に書れた字を指したり問を出した時に、ふさ子は顔を眞赤にして、どきまぎして何を言ふことも答へることも出來ず、ぼんやりと突き立つたまゝなのでございました。

もう、その頃ふさ子は空想を描くことに依つて限なき慰安を求めてゐたのでした。寂しい幼き女の兒は幻の世界を自ら形作つて其の中に逃れたのでございました。その子の眼に耳に、どうして先生の姿や聲が入り得ませう。先生がいくら叱つて鞭を與へても、みなそれは徒勞でございました。

先生が教壇で熱心に教場内の小さい生徒の焦點となつて黒板の前でお話をしてゐる時、小さき異端のふさ子は、たゞひとり空想の境地に身も心も委ねてゐるのでございました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

先生は二宮金次郎のお話を一心にして居る時、ふさ子は、あの町を離れた遠い野山を思ひ浮べてゐました。ふさ子の眼の前には、青い草の生えてゐる廣い野原があります、何か草の上には小さい可愛い花が咲いてをります。空には長閑に雲雀がぴよぴよと囀ずつてをります向ふの方に藁屋根が一つ見えます。軒には赤い椿の花が咲いてをります。その家はふさ子が七ッまで、そだつた懐かしい家です。その軒の樹の赤い葩が散つて土の上に落ちます。その花の梢の下には、小さいお煙草盆に髪を結んだ女の子が藁草履をはいて、すたすたと歩いて來ます。その女の子はふさ子自身の幼なき姿なのでございます。ふさ子の田舎に育くまれた返らぬ日の追憶はかくして、——甦りました。

赤い椿の木の下——風に散る椿の花——いつの間にか多くの子供らは集まつて來ましたふさ子もその中に居ります。

小さき子等は笹の小枝を山から折り取つて來ました。そして地に落ちてゐる赤い葩を笹の枝にさし貫すのです。幾つも幾つも子供らは拾ふては笹にさしました。そして間もなく美くしい花が何本も子供らの手に持たれました。

ふつと赤い椿の木が消えてゆくと野原の中となりました。たんぽゝやれんげの花を小さい山ほど摘みためた、ふさ子は若草の上に寢てゐます。もう日暮時で太陽は山の彼方に沈

みつゝ茜の雲を燃して山の頂の木立ちは金色に輝き何處からか牛の啼聲が響いて來ます。

ふさ子の幻がかうして書かれていく時、隣の敎室ではオルガンを彈いて歌つてをりました。

そのオルガンの音は、ふさ子の耳には牧場の牛の啼き聲ときこえたのでございます。

ふさ子は野原の中で子供だちと手を取り合つて歌つてをります。

うしもうもう
うしもうもう
おまへのつのは
なんのため――

ふさ子は野に立つて赤の椿の葩をふんで、手を打ち囃しながら樂しくかう歌つてゐるのでした。

「笹島さんッ」。

と先生は、きびしく、ふさ子を呼びました。

敎室の中の生徒だちは、くすくす笑ひながら呆れて、ふさ子を見ました。

先生は敎壇に立つて、ふさ子を恐ろしい顏で睨めつけながら、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「笹島さん、お立ちッ、何故さうおまへはお行儀が惡いの――、」
とお叱りになりました。

おゝ、幻の中で、ふさ子は樂しい小唄をうたつてゐたのですのに――、

ふさ子は机の前に腰かけて、唄ひだしたのです。そして、その瞬間美くしい夢が破れて、鹽つぽく黑い現實が大手を擴げて冷く、ふさ子を捕へました。

ふさ子は、氣が付いて顏が、かつと眞赤になりました。そして胸にどきどきと大きな波が打ちました。もう立つても居てもゐられない樣になりました。そして机の上に顏を伏せました。

「笹島さんッ、なぜ、さうおまへは先生のいふことを聞かないのです、立てといつたらお立ちなさいッ。」

先生は、はげしい聲で叱りました。

ふさ子は、もうもう身も世もない切ない心もちになりました。ますます椅子に噛りつくやうに身をすくめました。

すると先生は敎壇から降りて來られまして、ふさ子の前へ立ちました。先生の手は細い竹の鞭を持つてをりました。その竹の鞭には白墨の粉がまぶれてをりました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「こらッ、お立ちッたらお立ちよッ。」

先生はくやしさうに叱りました。そして飼犬が首輪の綱の方向に反らふのに氣を苛立つ様にぢれて居りました。

ふさ子は夢中になりました。ますます机にかぢりつきました。

「强情な子だね。おまへは温順といふことを女の子のくせに知らないの、馬鹿ッ。」

先生は、かういふて鞭で、ふさ子をたゝきました。

「先生のいゝつけに、反らふ生徒がありますかッ。」

また、ふさ子を打ちました。

竹の鞭についた白墨の粉は、ふさ子の背中に、いくすじもつきました。

けれども、ふさ子は痛くも、なんともありませんでした。それは夢中で居りましたから、たゞ、ふさ子は、この恥しい痛ましい悲しい時の一刻も早く過ぎ去つてしまふことをのみ心に大切に願ひました。

鐘が鳴りました、先生は、ふさ子をとうとう敎室の壁ぎわに立たせました。

外の生徒はみな、がやがや騷ぎながら家へ歸つてゆきました。

先生は敎員室へ入つて行くと、すぐ大きな聲で申しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「ほんとうに、私んとこの笹島つて子の低能兒には困り切つちまふの。あれほど、出來得るかぎりの力をそゝいでも補導しても仕方がないんですもの、ほんとに悲觀しつちまふんですよ。」

と敎頭の机のあたりに聞える樣に申しました。

その日は、うすら寒い日でした、今にも雪がふりさうでした。校長さんや敎頭が歸つてしまふと後は、先生達が敎員室の大火鉢に赤く炭火を起して、いろいろ世間話をして居りました。

突然一人の先生が申しました。

「あゝ、さうさう敎室へ低能兒を、ひとり殘してをいたんだつけ。」

といつて面倒さうに、あくびをしました。

「チヨツ」。と舌打をして、バタバタと敎室へまゐりました。

がらつと戸をあけますと、うすら寒くがらんとした敎室の壁ぎわに、ふさ子は泪にぬれた眼を面伏せて影うすくしよんぼりと佇んでをりました。小さい彼女の眼は赤く潤んでをりました。長い長い時間を泣きたいだけ泣きぬいて汚れた小さい手でこすつたのでございます。

「ゐたの。もうえいよ、おかへり。」

と先生は言ひ捨てゝ、ばたばたと廊下の向へ、馳ていつてしまひました。

ふさ子は、儚ない手つきで自分の机から、鼠色の表紙の教科書と赤い筆入とを出して、小さい淺黃の風呂敷に包んで、それを脇に抱えて、しよぼしよぼと敎室を出ました。泣いたために鼻水が出ますので小さな寒さに赤くなつた鼻を何度もすすりながら敎室の扉を、寒氣にいぢけた手で力なくしめますと、がらがらと校内に響きました。もう放課後、多くの時間を經たので校内に人氣はなく靜かなのでございました。

ふさ子は、もううす暗くなりかけた廊下を、とぼとぼと辿つて昇降口へ出ました。下駄箱から小さい草履を下して三和土の上に置きますと、トトーン、と廣い建物に山彥する寂しい音を傳へるのでした。

その音に、昇降口の土間を掃いてゐた、小使爺は、この小さい女の子を見出して驚ろきました。

「どうした。泣くな。早く歸んな、こんどは殘されねい樣にみつしり勉强しろよ。」

と、その、いぢらしい、ふさ子の姿を見て、哀れみを含んで、いとしさうに申しました。

ふさ子は、「あゝ、」と消え入る樣な聲音で、かう答へて昇降口を出ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外面は暗く黄昏れてゐました。運動場の遊動木やブランコは暗の中に巨人の樣に見えました。校門を出た、ふさ子は半ば自分を忘れて、ふらふらと歩きました。

小學校から、ふさ子の家までは暫の路のりがございました。その路は街を、はづれてゐました。川の流れに沿ふた行く路の、ほとりに小さいお稻荷樣の社がございました。

その社の前の赤く塗つた鳥井の前へ來ると、ふさ子は立ち止まつて、赤い小さな鳥井をくゞりました。小さな祠の中には燒物の白狐が一對置いてありました。ふさ子は祠の前にひざまついて小さい手を合せて拜みました。暗の中に眼を閉ぢて一心に

「お稻荷樣、お助け、お助け。」

と言つて、小さき救ひの願ひを祈りました。ふさ子は、可愛想な虐げられた自分自身の姿を朧げながら、意識して、お稻荷樣に切なる救ひを求めるのでございました。

ふさ子は、また淋しい暗い路を歩き出しました。川の流れに懸けられてある釣橋を渡りました。流るゝ水の音は、さあッさあッ、と聞えてゐました。

黄昏れゆく釣橋の下を水は白く泡立て流れてうす黑く淀んで走るのでした。

ふさ子は寂寞に沈みゆく萬象の中に、きは立つて、たゞ一つの單音を繰返しつゝ一秒の休みもなく奏づる水の流れの音に小さい双の耳を、そばだてました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水の音の音律は絹を敷ひた夢の韻を爪立て踊る如く、幼なき兒の悲しい魂を誘ひ恍惚と醉はしめてしまひました。

ふさ子は、甘く香ぐはしい夢幻の中に、いつしか吸ひ入れられて居りました。その時いままでの痛ましい悲哀は跡なく消えて、樂しき悦びに滿たされてゐました。そしてあの小唄は小さい唇を通して、水流の音に和しました。

うゝしもうもう
うしもうもう
おまへのつのは
なんのため——

歌ひゆくにつれて、ふさ子の胸は樂しさに潤ふてゆきました。寂しく痛ましく暗らい現實に小さい身を虐げられた幼ない女の兒は、果なき人類の生の野に立ち微妙なる愛慾の諧調を魂に芽生えさせて、自分の爲に與へらるべき(愛)を求め探せども、そは空しき願ひに化してしまつたのでございます。そして、いぢらしい泪と悲しみとを小さい彼女は、いつぱい受けねばなりませんでした。愛を求める魂の何處にも持つて行き樣のない、ふさ子は幻の世界に愛のいのちを自ら築きあげました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小唄を口吟みつゝ、あの水の音を聞くと、いま、ふさ子は自分が愛されてゐて幸福なことを思ひました。

水流の奏曲は、ふさ子を蠱惑しました。優しい人の、さし招く樣に、接吻する樣に、かき抱く樣に、ふさ子には嬉しく懷かしい愛の聲と響いたのでございます。

釣橋の上に響く、いたいけな小唄は暗に吸ひ入れられる樣に儚なげに聞えてゐました。――ふさ子は、流るゝ水底に、美くしい愛に輝く俤をみとめました。幻から幻へ。

水仙の花

齋賀琴

工夫らの唄聲かなし慘として冬の入陽のしづむ山々

なりはひは悲しきものぞおち／＼と文よむこともわれたえてなし

つかれたる眼にほのじろくしみ入りぬ冬の夜ふけの水仙のはな

一日のうれひをすてゝ只管にねむらんとする午前二時ごろ

けふもまたつかれはてゝぞうちねむる身の鬱憂を忘れてぞねる

わがまへに立つおもかげは幻影かいないとをしき君が姿か

晝となく夜となくわれはまばろしになやまされつつ今日を生き行く

雪しろき越後の國の連山の寂しきかなや旅にきぬれば

くら／＼と波よる渚夕風にふかれてわれはひとりたたづむ

船出や朝霧こむる海上に汽笛ひゞけば涙ながれぬ

うらさびし雪催ひ空の夕暮に木々ゑながめて君をこふるも

ひとりゐてこのさびしさに死にもせば水仙咲かむわがむくろより

人よしれかし今宵はひとり水仙のにをへる室に思ひ耽らむ

水仙はやさしく我の寂寥をいたはるごとく室に咲くかな

死なばわがむくろにもえん一もとの青白き花夢にみえずも

巖山にのぼりてわれは君が舟けふこそ來らめと遠く海みる

むらさきにかすめる波をかきわけて白き眞帆いづ君が舟いづ

北の國町のはづれにすまゐするさだなき友を思ふ冬の夜

砂原の砂にまろびて病む人は白きかもめをとほくながめぬ

寢ねてしばし銀のウオッチをしみじみと見詰むるこゝろさびしきこゝろ

わが胸の底に巢くへるさびしさのうせなん時ぞ生命しぬべき

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最初の家

五明倭文子

五

賑やかな夜の街を散歩して來ると、二人は今まで閉されてゐた胸の暗い影が次第に薄らいで、身も心も輕くなつたように感じたのである。

淳は簞笥の前へゆつたり胡座をかくと、小さな食卓の上に一杯に並べられた、そばの丼を食べ初じめた。美穗子は勝手から瀨戸引きの藥罐をさげてきて番茶を汲み、

「ハイお出ばな……」

と、湯呑を彼の前へやつて自分も箸を上げた。惩ふして二人は甘そうにおそがけな夜食を取つた。此時、

「御免、お在宅かね」

と、靜かに低い男の聲がして、玄關の障子が開いた。それは淳の兄であつた。彼は夜氣にふれて緊張した面を茶の間へ出して、

「今日御父さんが上京でね、今此處へお連れ申したが……」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と、立つたまゝ云つて二階へ昇つて行つた。後から父親も暫と茶の間を覗いて階梯を昇つた。

思ひがけない訪れ人に淳は少なからぬ驚きと、惑ひとを感じたが、それでもわざと落ち付いた風をして飲みさした湯呑の茶を飲み終つてから、默つて二階へ行つた。

美穗子は俄かに胸の動悸がはげしくなつたようにさへ感じた。たゞおど〳〵として、此まゝ何處かへ隱れても了いたい程に思つた。

その云ひようもない胸の惑亂を抑えたいと、暫らくそこに座つてゐた。冷たい氣が無氣味に脊筋へ流れ込んで、思はず身内がぶる〳〵とふるえた。彼女は急いで起上つて絶えてゐた火をおこしはじめた。パタ〳〵と團扇をつかひながら、時々洩れて來る二階の話聲に耳を欹てた。七輪の火はパチ〳〵と音をたてゝ青い煙が漠々といぶせく立ち昇つた。戶をたて切つた狹い家のそれが二階にまで這ひ込みはせぬかと、氣づかふ程に彼女の神經は過敏になつてゐた。間もなく藥罐の口からは白い湯氣が立ち初めた。

「あの」と、一寸云ひ淀んでから

「二階へ來てよくみーさんの決心を父に話して下さいね」

その時、降りて來た淳は美穗子の側に立つたまゝ、いつになく改まつた風に云つて、火

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鉢を抱えてまた二階へ昇つて行つた。

長い顔の鼻下に半白の鬚を殘した父親は昔物らしい藍みじんの小袖を重ね、黒紬の羽織をきて床の前に座つてゐた。

「恁ふして皆樣に御心配をかけましてほんとうに申譯がありません……」

「あゝそのことは云ふ……」

と、押入れの前に座つてゐた兄が言葉を挾んだ。

「イヤ決して旣往は責めはせん、たゞ此後の決心の程を承りたい……」

恁ふ父親は勿體らしく云つて、やゝそり身のいかついい肩を動かした。淳は平常とはまるで異つて堅苦しくキチンと座つてゐる樣子が如何にも自分達の行爲を、父親の前に自ら責めてゞもゐるかのように見えてゐた。決心！と云はれたところで美穗子は特に人に向つて云ふべきようの言葉も頓みには見出しかねて、唯默つてゐるのであつた。

「いづれにいたせ、恁ふして二人が一所に暮してゐるのを知らなければ兎に角、知つた上は知らぬ風をしてゐることは親として儂には可能ないことであるから、お前達の決心をよく確かめた上で、淸水の御兩親、又松井さんとも御相談して相當の道をたてなくてはならないからな」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

父親はやさしく恁ふ云つて、慈情にみちた眼で堅くなつてゐる二人を視た。

「儂も百姓でこそあれ、御らんの通り羽織袴で歩く身であつて見れば多少の名譽といふことも考へなければならず、また清水の御父さんは固より堂々たる政治家で在らしやるだから尚更名譽も御座らうと云ふものでな」

父親はまた美穗子にこんな言も云つた。それから話題は二三の余談に移つた。が旋がて兎に角父親が歸國の途次、松井を訪ねて事を決めると云ふことにして、父兄は座を起つた。

父は玄關で送り出してゐる美穗子を顧ながら

「もう〳〵何も考へることはないから、時々矢來へも遊びにゆくがよい」と、云ひ殘した。

矢來には淳の兄の家があつた。彼は東京に遊學するようになつてから、始終其家に起臥して居たのである。

父兄を送り出した二人は、復た茶の間へ這入つて火鉢を中に座つた。美穗子は吻としたように上氣した面を撫でた。逢ふまで心に抱いてゐた恐と疑は逢つてみて、春の日中に降る淡雪のように心地よく消え失せて了つたのである。人の批判をすることを極端に忌み嫌ふ淳は、今まで其父や母の事についても美穗子には何も話さなかつたのであつたが、恁ふして親しく逢ひもし話しもしてみて、豫想の外なる優しさと情深さとを今更らのように泌

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みじみ感じたのであつた。

「ほんとうにおやさしい御父さんね、妾の父などゝは全でお違ひなさるわ」

美穂子はつくづく恁ふ云つて、心密かに其身の幸福を悦ぶのであつた。

思ひがけない父の來訪は、二人が一所に暮らすようになつてから一度も覺えなかつた慰安と歡喜とを齎らしたのである。

「お父さんはいつお國へお歸りなさるでせう?」

一日も早く解決の付くことを望んでゐる美穂子は、ふと恁ふ云つて淳の顏を覗た。

「二三日中に立つとか云つてた……」

彼は思ひ付いたように袂をがさがさ探ぐつて

「金子を貰つたよ」

と、云ひながら新らしい拾圓札を抛り出した。

美穂子はそれを數えて其處に置くと恁ふ云つた。

「五枚あるのね」

「爺父が毎月幾干かゝると訊いたからどうしても七拾圓位は入ると云つたら、書生中からそんなことをしては不可んから兄の家へ同居しろなんて云つてゐたよ」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

淳は何となく愉快そうに云つてゴロリと横になつた。

「貴方は一人になると直き偉そうなことを云ふのね、お父さんの前ではほんとうに小さくなつてゐたくせに……」

「まア〳〵そんな毒舌を振ひ給ふな、いまに吉報が來るよ」

淳は寢そべつたまゝ細い腕を延ばして冷えた飲みさしの茶を甘そうに飲んだ。

「あのおそばを温めて食べようかしら、妾お腹が空いたわ、隨分いやしいのね」

美穗子も樂しそうに火鉢の中をかきならして、小さな鍋を上にかけ、丼のそばを切れ〳〵に其中へあけた。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

初戀のなりゆき

岡田八千代

十

中學校の運動會へ行くといふことは、幾度か私にはためらはれました。それに母に氣を兼ねてゐる私は、どうしてもその催しを云ひ出す氣力がありませんでした。その中にとう〳〵當日になつてしまひました。その日は土曜日に當つてゐました。學校では正午まで授業をした後、午後から町へ行く事に定められてゐました。私はどうしても母に許しを願はなければ。默つて午後を他處に過すわけには參りませんでした。さうかと云つて、云へば必ず好い顔をされない事は私にも豫想されました。だからと云つて何にも云はずに中學校行きを止めてしまふのには私の執着が許しませんでした。

私は此年頃をどんなに次郎さんの姿を見ることにあこがれてゐたでせう、殊にあの手紙を見てからと云ふもの、私はひそかに夜毎に次郎さんに貰つた繪はがきを眺めてはさまざまに次郎さんを胸に描いて見るのでした。

次郎さんと一處に同じ學校に過した三年の月日は、私をいろ〳〵にもてあそびました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

孤獨で意地惡だつた私は、いつか次郎さんの愛を染てから優しい涙もろいをとめになつてゆきました。やがて不意に次郎さんを失なつた私は、やう〳〵憂鬱なそして氣の弱い疑ひ深い娘になつて行かうとするのでした。

私はどうしても中學校行きを思ひ斷つことは出來ませんでした。

私もやがて春になれば東京の女學校へ遣られなければならぬ身でした。今逢はねばいつ又次郎さんに逢ふ機會があるか知れませんでした。私の次郎さんを戀ふる心は此時になつて急に燃え上りました。

私はやう〳〵の思ひで母に申出ました。

「ねえ母ァさん、明日中學に運動會があるのでね、私の級がみんな呼ばれましたの、それでね、先生が連れて入らつしやるのですけれど、もし行かないと缺席になるんですつて。だから如何しませう。」

と私は何處までも自分では行きたくもないやうな樣子で云ひました。

「行くが好いぢやないか、可笑した子だよ、なにも用のある身ぢやなし缺席でもしないのがお前の役目ぢやないか。」

母は直ぐに斯ういひました。そして冷やかに笑ひました。

案じるより產むが易いといふのは此事でした。私は何の苦もなく次郎さんに逢ふ事が出來るのでした。しかし考へて見ればこれは當前の事でした。母はあんな手紙こそは書きましたけれども、もう次郎さんが學校へ來たいと云ふのを知つてしまへば、後は次郎さんが何處の學校へ行かうと構ひもしませんし、又授る人でも無いのでした。母は目の前の障さへ拂へればもう夫で總ての災惡は退れたのだと思ふやうな人なのでした。

私はその夜も寢苦しく明しました。いつまでももづ〳〵床の中で動いてると云つては幾度母に叱られたかは知れませんでした。

その日は思ふに增して好天氣でした。午前の授業中は誰一人として懸命に勉强するものなどはありませんでした。嬉しさに饒舌になつた少女達は彼處此處にたむろしてさま〴〵な噂ばなしに時を費すのでした。その時、私はふと思ふがけぬ話に小耳を傾けさせられました。(未完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生き路

本庄夏葉

、、、、、、、前略

あなたは私を幸福者だと仰言つて下さいました、私は其御言葉を有り難いと存じます、又私の幼稚な至らぬ想ひをば一つ一つ情けをかけてお聽き下さいました。私の目には知らず知らず涙が滲んで來るのでした、嗚呼長ーい間本當に長い間、私は世の中の事を知らなかつたのです、御聞き下さい此永久に何も云はずに默つた一筋の谷間に點のやうにぽつんと置かれた家の中に私は曙の色に朝々を息づくほか、全く搖籃の外を知らないと云つてよい程ぼんやりに育つて參りました、だん／＼學校に入るやうになつても毎日の敎師の語る懷しい講話や書物の示す極りない世界に遣瀨ない前途の憧憬や涯しない時代の追懷はあつてもやがて直ちに來るべき現實社會に對する些の智識も準備されては居らなかつたのでした、準備したと思つた事柄は却つて私を周圍からつき離し其場から退かしめるやうな事のみを敎へました。

まつたく其頃を回顧すると、私は何にも目醒めずにたゞ一向なるまふさぎのまゝ、放り出

された社會の一角に無鐵砲に露骨にやきもきと手足を動搖させて居つたのに過ぎません、[illegible]の目は此頃になつてやつと自分の周圍を見廻し得る程に開きかけて參りました、と同時に、これ迄自分の通つて來た道―、それから少し溯つて――、ばた〳〵と身をもがいて居た頃の其時々の世界がはつきりと見えるのです。

私ははじめはたゞ自分の眞實なる心を賴つて天を見、地を踏み、至る所の風物に自分の心を語りながらまつしぐらに歩かうとしました其頃の世界は私に嘲笑させたり奮勵させたり、興奮させたり感動させたりはしたが失望させるやうな事はさうなかつた、私はたゞ其頃入學試驗の爲め自分の職業の傍朝から晩までぐん〳〵と勉强するのに餘念がなかつたのです。

次に來た世界は實に私を不平と不滿の境に導きました。自分の周圍は何等の眞實も理解も伴はない技巧と虛僞と輕薄と、それ等の中でのみ成功する下品なる得意者に取り捲かれて居た、私は試驗に失敗したが餘り失望はしなかつた、それは自分の前途とそれに對する憧憬があながちに入學する事にのみよつて展開されるときまつて居らなかつたから、――けれども私は悲觀し悔恨し慨歎する日が多かつた、それはまつたく眞實なる自分の心と同じに世間を要求した生一本なる誤りからでした、世間には人間の要求するいろ〳〵の物が雜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

多に措かれてある、たゞしそれは自分の心の向ふ部分部分に於てのみ、その部分を見ると云ふ事が私には出來なかつたのです、そして見るもの聞くもの悉くに崇かれ淸かれと敎へられた純心のまゝに迫つたのです、はじめは人を容れなくとも人に容れられなくとも强靱なる希望のはびこりが地を蔑げて居りました、今は其希望も疑ひとなり曇りとなり焦悴となり、常に一歩を出でんと焦る私の現在に澹さして術によつてのみ居を成さんとする周圍のはびこりは常に私を惱ましめ、疑はしめました、そして實際に於て周圍の方が幸福なる勝利者であつた事が又私の胸に絶えず疑問の塊となつて迫りました。

私は遂に此世界には共鳴する事が出來なくて久しい間、二年も三年も、もがきにもがきたる揚句、とう／＼心から、立ち離れてしまひました、自分は最早此處に居る中だけはどうでも宜い、周圍の赴くまゝに任せて、輕く／＼其群をうち見遣りながら、自分の道を行かう、と決しました、そして私はもう誰とも手をつながずにいつも少し離れた所をぽつ／＼と氣輕に歩きはじめて見ました。

それからはもう何にも惱む事がなくなりました、どんな事にも苦しまなくなつた、同時に意持と云ふものを持たないやうになつてしまひました、希望もなく未來もない、たゞどうでも宜いと思ひ諦らめる事に浸り入つた、然し悲しい事には諦め通しと云ふ事が聽て自分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に敢果なさを語つた、やはりさうばかりして居る事が自分の本眞ではなかつたのです。

斯くて私は眞實なる心の遣り場を他の何物にか求めやうとしました、幾たびか都に出て先輩の人を訪ふて見た、或時は自分の前途が急に勢づいて來たやうになつて身邊のあらゆるものが一途に輝かしくなつたり、又聽て暗澹たる絶望の淵に沈んだやうな氣がしたりしました、要するに考へては望みをかけ、又退いて自ら失望したりして居たが、社會はそんなに自分の思ふやうに希望をかくべきものでも又失望すべきものでもなかつた。

それに私はあまりに多く要求し希望をかけたために、却て自分の行路を因循にし、絶望して居つたので御座います、思へば私は實に極端なる悲觀者でした、廣い〳〵世の中に自分ほど下らない腑甲斐ない人間が又とあらうか、こんなに下らなく生きるのならば、寧ろ生きない方がましだと思つた。

永い間本當に私は苦しんで生きて來ました、人より多く書を讀み多く物をも思ひながら、私には何一つ自分を幸福ならしむべき道を求め得なかつたのです、たま〳〵にして何か少しでも解つたかと思ふと、それは却て自分をより皮肉に、より孤獨に——、より悲觀的に——、あゝ自分は永らくのこんな心的傾向——、經過事實をたゞありふれた悲觀だの、孤獨だの、皮肉だのと世間並に云つてしまふのはあまりに簡單すぎ又無意味すぎるやうな思

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひがする、けれど其ほかに適當な言葉を知らない、又あり來りなこんな言葉の中には全く一視事に附し得ない痛切な適當した事實がいくらでも含まれて居ると云ふ事を自認し得て此言葉を用ひます、敎育の職にありながら敎へる事も私は世の誰よりも下手でした、敎へ子に對する切なる思ひと希望とは夢にも忘れられない程でしたが、渠等の群の一人をも滿足なる發展を與へたとは思へません、かうしてだん〳〵に自分の行く道が暗く重苦しくなつて來ました、或時はぽつねんと座つた窓先の硝子戸にチョロ〳〵と走る一露の滴りにも――、又或時は老先短かい路傍の一老翁の細杖の搖ぎにも、價ない自分の生を思つて泣いた、何を見ても何を聞いても私の前に來るものはたゞ生くる事の苦しさであつた。身は限りもなく涯世になつかしみを持ちながら、又限りもなく世に離れ人に離れ、大宇宙に浮く點の一點にも價ひしないさゝやかなる我姿を置きかねて、空に浮び地に沈み、一向に絶叫せずに居られなかつたので御座います。

斯うして私は何年かの間、勿論毎日――といふ譯ではありませんけれど、大體通じてたゞ苦しみながらに、たゞ知られざるものゝために、憧憬の瞳を走せながらあえぎ〳〵やつて來たので御座います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

遂に私は知る事が出來ました。
自分は苦しみのために生れて來なかつた事を………、私は自分の生をのみ否定してはいけないと云ふ事を知りました…………………××様
人間は在る間は生きなければなりません、何處までも――、自分が此世にあると云ふ事が卽ち生きて行くべき道理である、もし私が生きて甲斐ないそんなに下らない人間なら自然は、私を此世に置きはしない、とうに私と云ふものが滅すべき筈である、私があんなに窮極する程に苦しい生を續けてまでも、なほ滅せずに今迄斯うして在つたと云ふのは自然が私の生を否認しない證據である、と知る事が出來ました、知ると共に私は戀しい未來を思つて泣きました、潸然として世にある人の凡ての生を最もよく解釋し得たのです、父を思ひ母を思ひました、兄弟を想ひました、嗚呼彼の人達は如何に私を要求するでせう!!、亡くなつた地下の兄弟を偲びました。
私は少時一刻一秒時がめき〳〵と身をさして尊く感せらるゝを知りました、愛惜の涙は滂沱として靜寂の座に漲つた。
あゝ懐しいお父様！其父はもう生くるに餘り計畫をもたない年に入つて居る、お母様！オゝ其母は如何に私がお母様々々と追跡して大聲に其名を呼ぶとも溺々として老ひの巷に行

く事をば止めやうとして呉れない、オ、其父母は何を私に要求して居つたらうか！。

家に居る自分は愛々たる父母のいとし娘である、私には優しいたゞ一人の姉樣がある、いとしい一人の妹がある、其爲には私は切なる姉妹の情を永續せねばならぬ、私には又任せられたる一つの職業がある、與へられたる敎へ子の尊い群がある、嗚呼かの群のためには私は親切なる伴侶たらねばならぬのであつた、思へば長い間私は何に報ゆるとて、何に此身を供するとて、世にそむき人にそむき周圍にそむき、我なつかしき父母兄弟を忘れてまでも、否そはまだ身の周圍である、何に左右さるゝとて此我がいぢらしく可憐なる清心をせめさいなんで居つたらう、私は不幸者でない、何で世の中にはじめから不幸者たれと生を享受し來るものがあらう、少くも私は何處が不幸なのだらう、何處に私にさいなむべき惡い所があるだらう、私の心は純眞であつた、そして他の世間の人々と共に同じく此世に生くべき生の特權を享受して居る筈であつた。

私が他の人より優つて居ると云ふのでない、私が他の人より劣つて居ると云ふのでもない、私には世界の誰にも代へ難い、王公にも代へ難い私自身と云ふたゞ一つの生が與へられて居る、實に此つきせぬ淸淚を內に藏し、廣世人をなつかしみ想ふ切なる胸の想ひも單然と我が行く道に力を與へ、悠々と立つ碧下の步調に鼓響を送る胸裡の血潮も實に何物も左右

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

し得ない我一人のみの所有物であつた。
かくて私はもう誰にもさいなまれやしない、何にも浸されやしない。二十六年堅然と、枯枝の如く見ゆる早春の樹枝にかつしりとしがみついた蕾の如く、鎖し來つた心の芽は、かくて今こそ適當に開き得るのであらう。
あゝ私は實に極端なる悲觀厭世の徒であつた、今こそ蹶然として世に出でねばならぬ。
私はこれから寸陰を惜んで自分を重んじつゝ行かなければ申譯がありません、何よりも過去二十五年の沈默鍛究の日月に對して濟まぬ。
からつとした晴れたる心になつて、人を歡び、我を愛し、再びと得難い現實の一歩々々を計畫し期待し其時と其場所とに親しみつゝ行かなければなりません。
而して前半生に於て堅く鎖しつゝ知得した凡ての事は私のこれからの生き路をして決してあやまらしめたり不自然ならしめたりはしないだらうと思ひます。
よし又誤つた道に入つたにせよ間違つた考に至つたにせよ、私は其時々に最も適切なるそして最も賢良なる省察と慮想とを加へて、其都度一歩すゝんだ價値ある歩調の活力を調製せねばなりません(終り)

——大正四年二月——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

含葉嘯葉

三ケ島葭

歌よまずもの書かぬ日のつづくなりうきうつそ身に涙流れて

いつのまか子のさかしまに倒したる時計の音の止まぬいみじさ

わがあるは泣くに聲なくもの言ふに言葉のあらぬむな國にして

千たびきき千たびおのれのうけがひてなほのたまへることは知らじな

安らひのえやすき世とも思ひけりわがうとましき性を忘れて

なにごとぞ君を思ふをおのが世のわざはひのごと思ひなせるも

戀しさのいやまされども寂しかり君がかたへの一人のわれ

身にあまる力か戀か知らねども抑へてしばし心足らへる

否まれし言葉の中に新らしくおぼゆる戀のしづかなるかな

わが男わき目もふらず踏みゆきし麥に寂しく夕日さすかな

妬よりこしさびしさか誇よりこしさびしさかいまだ知らねど

ゆくりなく君と別れて初春の心となれる我にはあらぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

目閉ぢたるばかりに人もみづからも命のほかの心地するかな

おのれらの幸てふことをゆくりなく思へるのみに人を恨みき

まぎらすにすべなかりける寂しさを求むる日ともなりにけるかな

君戀ふと苦しきことを言はんより悲しさなどの言はまほしけれ

ああわが世さびしき道のはてなきかはたうつつなき夢に盡くるか

はげしくも燃ゆる心かみこころの靜まりゆくをひとり見ながら

さびしさかはた戀しさか知らねども一人しあれば涙流るる

みづからに捨てし心もあらずして忘れしことの恥ぢらるるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

晩秋初冬

山の井みね子

日もすがら裏の畑に豆打ちの音さび行けり秋深くして

豆打ちの音もきこえず夕されればねかへりをして人待ちにけり

一杯の煎藥をかもふゝみつゝ此秋の日をいたつきにぬる

黄に紅にうるめる紅葉見へゐたる我瞳にしとゞ涙たまるも

病む一日外の面を見ねばうらさみし猫のなく音の細り行くなる

親猫と子猫となける日もすがら聲細り行き夕去りにけり

待つ人も今はなけれどかりそめの我戀心戸を明くるなり

秋雨のふりみ降らずみ我戀は絶えなんとして悲しくは湧く

山の湖ひつそりとしてむら／＼と立ち上る煙うつろひにけり

落葉たくそのそま人をなつかしみ近くすわりて息ひけるかも

栗の葉の落ちたゝまれば道の邊の小川の水はよどみけるかも

朝降れる雪はしつとりとおちつきてその上に松葉いたく散りしく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あか〱と夕映のして照りかへす町の水たまり薄氷はる

雪どけの水いつしかに藁屋根のその先に白く氷そめけり

雨垂のたる音遠みやねぎしに小さき氷たれそめにけり

町中の水たまり今光りたり夕風渡り雨垂も光る

天井の奥がにこもり夜くれば何故にかなしくねずみはなくや

下駄の緒のうすじめりさへかなしけれつとめの道を獨なりけり

足あとを辿りて急ぐ朝まだき村の街道雪降りやまず

大、四、一二、九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白山下より――野枝

泙花様　御返事を後らしました事をおゆるし下さいまし。

あなたが、あのお手紙をお書きになる迄は隨分いろ／＼お考へになつて、其上で決心をなすつた事と存じます。けれどもあのお手紙では一寸私にはあなたがどんな方だか、また何の爲めに、どう云ふ考で、私にあの手紙をお書きになつたか分りません。それが一番大事な事ではないでせうか。あなたがもうすこし具體的に御自分の事情をお明しになればどうにかまた考へ方もあるかもしれません。けれどもあれ丈けでは私もどうにも考へ方がありません。

實はあんな手紙をよこすのはあなたお一人ではないのです。隨分いろ／＼な方があります。私が、何の爲めにあなたへの返事を公開するかと云へばそれは其等のすべての方に讀んで頂きたいからです。

あなたがどんな考へで、またどう云ふ事情で東京へ出たいと仰云るのか分りませんが、大きな期待や希望をもつてお出になるのならばそれはお止しになるがいゝと思ひます。もしも御自分の天分と云ふやうなものを自覺してぜひその芽をのばしたいと云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふやうな希望をもつてゐらつしやるやうな場合には出來る丈けの苦しみを甘んじて受ける覺悟でなくてはいけないと思ひます。處が今迄の二三の人を見ますと、本當にその覺悟をもつてゐる人はまあ、ありませんでした。大抵は皆、自分の力を過信して、自分を尊大にもつやうな傾きがあります。これはあなたにばかりあてゝ云つてゐるのではありませんから、どうかそのおつもりで讀んで下さいまし。それで、その人たちは苦しみに堪へる事に不服なのです。いゝものゝ芽を持つてゐると云ふことは大變に幸福な事ですけれども、芽が直ぐと、そんなに、のびるものではないのですもの、成長するには、相當の時もかゝります。肥料もまた手も入ります。處が、それを芽とは思はずに、芽を本物に、もう成長しきつてゐるやうに考へる人が多いらしいのです。

つい、二三日前まで私の家にゐた人の例をあげて見ますと、その人は、去年の秋頃まで原田皐月さんの處にゐた人です。大した理由もなしに、たゞ家が窮窟だと云ふ丈けの理由で、家を出て原田さんにたよつたのです。原田さんは、その人に矢張りいゝヂヤアムがあることを認めてゐましたのでその世話をしてやつてゐらしたのだす。處がその人は始めは滿足して原田さんの世話になつてゐたのですけれど、先づ、一番その人の大きな不平は自分がまだ一人前に認められないと云ふことらしいのです。いろ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵な事があつた後に、私たちが九州へ行つた留守宅に、原田さんの處を出て、その人は來たのです。私達は斷らうとしましたけれどもその人は、私達が留守を賴んだ妹夫婦をたよつて來たのだから私たちから、不服を云はれる筈はないと、大變な見幕で反抗して來ました。それならば私達も別に云ふことはないので默つてかへつて來ました。かへつて來て二三日前まで一緒にゐたのです。一緒の家にゐて朝夕その人のやつてゐることとなり何なり見てゐて、私は實に情なくなりました。私は
「他人の家に厄介になる位なら、女中になる」度々さう云ひました。全くさうなのです。その人ばかりでなく去年も一人そんな人が來てゐました。私達はでもその人たちが多少物の道理の分つた人たちだと思ひますので出來る丈け寬大に遠慮しながら用事も賴み、一つの食物もわけて食べる位にしてゐるのです。處がその人たちは、非常な傲慢なのです。私たちから云へば、貧乏な中から物ずきに人をおいて置く譯けではないのですから少しはどんな位置にゐるかを考へてくれるといゝのですが、私が非常に低く出て氣がねしながら賴んでゐるにもかゝはらず、少し用事が重なつたりすると直ぐに自分の自由を束縛されると云ふやうな不快な顏をして仕舞ひますしどうしていゝか知らないやうな氣になります。私はつく〳〵さう云ふ人を置く事にこりました、居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る人は平氣だから幸福ですけれどもおく私の方では不快な目に遇ひつゝけてゐなくてはならないのです、こんな馬鹿々々しい事はありません、私の方はおいて氣兼なくどしどし自分の思ふ通りに働いて貰ふことの出來る下女をおく方がどの位いゝか知れません。また置いて貰ふ方の側になつて考へますと、これも矢張り馬鹿々々しい目に合ふことになります。

一體、何故さう云ふ人が獨立心をもつと起さないかと思ひます。「自分の標榜してゐる生活と合はない」と云つて家を出て直ぐ他の人の家を便り、それで合はなくなればまた出ると云ふ調子では何時までたつてもさいげんがないと私は思ひます。他人の厄介になつてゐて自分の自由を主張しやうとするのは間違つてゐるのではないでせうか他人の厄介になると云ふことは既でにもう自由をなげ出した事になります。女中の方がまた本當に自由を主張する資格をもつてゐます。正當な勞働をして正當な報酬を貰つてゐる以上は立派に獨立の働きをしてゐると思ひます。私は何時でも自由々々と云つて大概の人達が外面的な些末なことに拘泥して、つまらない反抗心を出したり、わがまゝをしたりするのを、苦々しい事に思ひます。本當から云へば外面的な束縛などは、もつとずつと内面的に喰入つてゐる人には何でもないのです。多くの場合、外面的な自由を欲して不向見な事をする人は内

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

面的な非常な不自由を見ることになります例を舉げれば澤山あります。今云ひました人にしても、他人の處へなど便る位ならば少しの不自由を忍んで自分の家にゐれば左迄氣がね苦勞をせずとも、多少自分の時間を見出すことも出來ますし、心掛一つでは結構勉强が出來ます。けれども一たん家人を突きはなして、一人して出て來た上は直ぐに他人に衣食の道をすがらなければならないやうになるぢやありませんか、それでは折角自由を欲して出ても、却つて窮屈な處に自分をおくやうなものです。とう／＼その人は、私達の母の前に、何時迄もゐてなくかうしてゐられないから、實家へかへるやうにすると云つたさうです。さうして此度家に入れば以前にました不自由が身をとりまくに違ひありません。出ない昔の方がずつと自由であつたと云ふ事が結局になります。また他の例は、たゞ、自分の天分と云ふものを便りに折角上京しても直ぐに衣食の道に困ると云ふ一樣な難關にあたつてついに心にもないつまらない職業に逐はれてとう／＼天分どころの騷ぎではなくなつてともすればより處のないような不幸な身になつて仕舞ふのです。私は、あなたが必ずさうだと云ふのではないのですけれどもこの位の事でも知つてお置きになつた方がいゝと思ふのです。勿論少數の例で一々推斷をだす譯ではありませんがつまらない私の老婆心から申上げるのです。もしあな

たが本當に決心してお出になるのなら私は決してゐらつしやるなどは申ませんけれどもよく〳〵熟考の後になすつて下さいましでないと、どんな事になるかも知れません衣食の仕事に從ひながら勉强すると云ふことは非常に六ヶ敷いことであります。一寸空に考へて見るのと實際とは非常な差異です。そんな事も綿密に考へて欲しいのです

他人を便ると云ふことは自分を狹めることになるのだと私は思ひます。まさかの時には飯たきをしても自分丈けの始末は出來る位の覺悟がありさへすれば大抵は大丈夫です。處が少し敎育を受けた人は、一般に、「氣位が高い」と云はれるやうに、自分をなるべく樂に多少の尊敬を拂つて貰ひたいばかりに習俗的な考へから、どうかいくらか上品な仕事につきたいと云ふやうな欲で、實際は、使はれることに於いては少しも違はないのですけれども、多少輕侮をまぬかれない女中になどはならないと云つたやうな固陋な考へをもつて實際は下女以上に不見識な境遇に身をおく事に平氣になつてゐるのを見ますと私は本當にその人が分らなくなつて仕舞ひます。

何が困ると云つて生つ噛りな理屈程自分を墮し他人を苦めるものはありません。若しもあなたが外面的な生活に何處までも無頓着に本當にどんな苦しい場合にも自分を忘れずに把持して內面的な生活を深めてゆくことが出來る丈けのお覺悟があればそし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てまたもつとあなたと云ふ方がどんな方かと云ふことを具體的に私にのみ込まして下さる事が出來れば何とか考へ方があるかもしれません。何しろ、あのやうな漠としたつかまへ處のない夢のやうなお手紙では私には何にも分りません。從つてとてもそれを眞面目に考へて見ることは出來ません、殊に前に申しましたやうに幾人もの人の例がなを私を臆病にします。如何に私が親切氣を出さうと思ひましてもこれ丈けは出來ません。何卒御熟考の程をねがひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

更に論旨を明かにす

青山菊榮

野枝樣にお逢ひして一通り話の濟んだ樣な形になつてゐる今日となつてはこの筆をとる必要も薄らぎ熱も褪めはしたものの猶一應私の論旨を明かにしておく爲に再び誌面の一部を拜借致します。

公娼廢止と私娼增減の問題に關しては諸所で御質問をうけました。私娼は本來社會の裏面に散在するもの故精確な數を知る事は困難ですが一般の黴毒率を以てその影響を推す事が出來ると思ひます。日本に於ける唯一の廢娼縣群馬——明治二十六年斷行——に於ける壯丁の黴毒率は全國中最低の部に屬して居りますし、クリスティアナの如きも廢娼後黴毒率は低下して參ります。大都會は小都會ほど好成績には參りません、つまり積極的に減少はしないにしても、人口の急激な增加に比して黴毒の增加は極めて遲々たるものがあるのです、隨つて長い間には率の低下を豫想する事が不可能でないのでより以上に不自然な社會狀態に强ゐられて賣笑婦の供給が增加する樣に思はれるのです。もしも東京が三四十年前の大きさと人口とを保ち、婦人の職業範圍が廣く手當てもよく、且戰爭も恐慌も全然來

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないのであつたなら――つまり生活難の壓迫が無いのであつたなら――吉原は衰微しても私娼は殖えなかつたかも知れません。恐らくは殖えなかつたでせう。

廢業後の娼妓の處置などは愈々廢止と極まればどうにでも工夫がつくでせう。私は各府縣に救護所をおいて有志の婦人が指導の任に當り職業教育と多少の智識を與へでもするが宜からうと思ひます。さうなれば政府でも相應の負擔はするでせうし見え坊の金持などは相應に金を出しませうから。廢業娼妓一人の費用が月に二十圓とすれば概算五萬人に要する額は年に一千二百萬圓、それに雜費を加へて二千萬圓として、全國の遊廓に年々落ちると云はれて居る五千萬圓を思へば差引日本は年々三千萬圓得をする譯でせう。

私は公娼問題は「何をおいても其爲に働く事に一番意義がある」といふ程には嘗て考へた事も無し、云つた覺えもありません。只これを保存す可きや否やといふ場合には飽迄否と答へます、そしてさういふ制度の不必要とその廢止に弊害の伴はぬ事とを證明する爲めにこれ丈書きました、これで公娼問題は打切ります。

さて一部的な枝葉な公娼問題は片づいても賣淫といふ事實は依然として殘つて居ります。本來賣淫は都會現象であつて都市の大きさと人口の多少とに比例して消長するもの故東京の樣な大都會は相應の設備を以て禍を未發に防ぐ必要があるのです。歐州諸市殊にコ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ペンハーゲンの如きは婦人が市政に關與してゐて婦人の救濟及職業周旋等に盡力する結果廢娼後の成績が甚だ良好だと云ふ事です、又花柳病の豫防の爲には患者があり次第醫師から當局に屆け出ることになつて居り屆出を怠る者は嚴罰に處せられます。日本に於てもこれは參考にして好い事だと思はれます。公娼は許し且檢黴を施せば人が公然と又意を安んじて近づくので餘計危險が多いのです。又醫者でも卜者でも評判な者が出來ると其附近に似た樣な構へや名稱をもつモグリ然たる同業者が殖えて、最初は落ちこぼれを拾つてゐるうち段々顏馴染が出來て根が、固くなるさうです。遊廓を中心にして魔窟が勢を得、やがては本家を凌がうとするのも之に似て居ります。どの道公娼制度が私娼の增加を防いで居ない事は明白です。隨て私は存置の理由を知るに苦みます。

又吉原が衰微に傾いた今日、市內の私娼の增加は驚くに足るといふ事實を何で說明するかといふ野枝樣の仰せですが、私はそれには吉原の衰微よりも東京市の膨脹と近年の經濟的不安及婦人の勞働賃銀の低廉等が與かつて力ある樣に思ひます。一月號にも申しました樣に多少は一般の人氣が私娼に向いてゐる爲めもありませうが、それよりは如上の三ッが直接且最大の原因である樣に思はれます。つまり需要に挑發されるより又婦人の勞働賃銀と賣笑婦の供給との間には密接な關係があるのですから女は自衞上誠實なる勞働に公正に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

報ゐられることを主張しなければなりません。又さういふ自覺を吹き込んでゆく事が必要であらうと思ひます。

私娼の取締に就て私は寛に失するよりも嚴に失する事を恐れて居ります。賣淫は形式はともあれ事實上婦人自身好んで陷るよりは社會の狀態が之をそこへ導くのですから實際は後者の責任であると云はなければなりません。然るに可憐な犧牲者に自己の責任を轉嫁して之を罰することは社會が二重の罪を犯す事になります。もし賣笑婦を處罰するならば共犯者たる男子をも同罪に處す可きです。私は賣笑婦の處罰が單に不正にして不公平に陷ることを恐れるのみならず賣笑婦自身に及ぼす社會的並びに心理的惡影響を更に恐れます。一旦犯罪者の烙印をおされゝば賣笑婦の自暴自棄を招くと共に社會の指彈を嚴しくして正業に復する希望及機會を減少するとも多くする事は無からうと思ひます。刑罰は賣笑婦に限らず凡て人を矯正よりも墮落に導く事が多いのは一般の認める事實です。又賣淫は壓迫に依て消滅するものではなく之を餘儀なくせしむる根本原因を除去する事に依てのみ根絕せしむる事が出來るのですから先第一に生活難を緩和する方策を講じなければなりません。その一法として有志婦人が職業敎育及周旋の任に當る必要があらうと思ひます。社會は賣淫を婦人の先天性に歸する習慣をもつて居ります、通常其等の婦人は淫婦惰婦である

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と云はれて居ります、この非難に對しては性の解放及教育の革新と普及の必要が答へて居ります。又虚榮心といふ事を以て婦人を非難する人々には私は斯う答へ度いと思ひます。世間が普通に意味する所に隨つて虚榮心といふ言葉を美衣及裝飾品に對する熱望と見ればそれは人間自然の要求であり、美に對する憧憬の發現であつて進化し鍛錬する必要はあつても咎む可き理由はありません。趣味も美術もさういふ本能の發達した結果であつてそれに依て人生を快美ならしめて居るものではありませんか。この人間自然の寧ろ助勵す可き本能の滿足を一部階級のみの特權としておく事が惡いので之を羨望し之を熱求する他階級の人々を責める事は背理です。私は專恣なる徒食階級が他人の勞働結果を占有して樂しむ贅澤を等閑視して、他の階級に屬する婦人らにのみ人間として等しくもつ本能を抑壓す可く強ゐる社會、特に教育業者の態度を憎まずには居られません。左樣した不自然な抑壓が男女の師範出身者のいぢけた卑屈な陰險な通有性を生み出したのではありますまいか。斯樣に人間の自然を蹂躪する樣な教育方針は早く改めなければなりますまい。

猶一月號に野枝樣は「男女の人口が不釣衡になり益々結婚が困難になつて來る」とお書きでしたが――これは女が不釣衡に殖えるといふ意味なさうです――今の所日本には左樣いふ形跡は毫もありません。歐洲各國に於ても出產數は女兒の百に對する男兒の百五乃至

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七だと申します、それが生長後生活難に逐はれて他大陸へ移住するので女子の方が多數になるのです。歐洲で不足して居るのとほゞ同數の男子が米大陸に餘つて居ると申します。戰爭其他の災害が無ければどこの國でも男女數は本來大抵平均して居るものださうです。日本に於ては目下男子の女子に優る數は五十萬餘に及んで居ります、此うち海外移住者等をひいても猶當分女子の超過することはありますまい。衛生局年報からひいた左記の數字は其關係をよく示して居ります。これに依て私は日本の結婚難は決して男女數の不釣衡に基くものではなく全く經濟事情にのみ基因してゐるといふことが出來ます。

生産	男	女	女百に付男
明治四十二年	八六三、八五五	八二九、九九五	一〇四、一
同　四十三年	八七二、七七九	八四〇、〇七八	一〇三、九
同　四十四年	八九一、〇四九	八五六、七五四	一〇四、〇

死産	男	女
明治四十四年年（前二年もほゞ同じ）	八二、五一五	七二、三六二

死亡	男	女
明治四十二年	五五〇、二六七	五四〇、九九二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

同　四十三年	五三九、〇七六	五二九、一五六
同　四十四年	五二六、一四一	五一七、七六二
明治四十一年末調本籍人口	同上百分比例	明治三十六年末調本籍人口の百分比例
總數　四九、五八六、一七六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
男　二五、〇四四、六七九	五〇、五一	五〇、五〇
女　二四、五四一、四九七	四九、四九	四九、五〇

さて次には時對人間の意力の問題ですが、これに就ては野枝樣は運命論者であり私はさうでないのですからどこ迄行つても意見の一致し樣はありません。只私が考へましたのはもし運命論に徹底すれば人間の一切の努力を無意義とする事になりはしないか、つまり人間の意見は無きに等しいと云ふ事になりはしないかといふ事でした。さうなつて來ると私共の立脚地は根抵から覆されてしまひます。私はどうしても努力の價値を否定する事は出來ません。「いかにもがいても時が來なくては駄目だ」。と仰せのその「時」は人間の努力次第心懸次第で早くも遲くも來るものであり、來させる事も來させぬ事も出來得るものだと思ひます。私は人間自身それを欲するや否やが第一の問題だと思はずには居られません。

私が「凡ての社會制度は人間が作つたのであり、こわしたい時にはいつでもこわせる」と云つたに就て野枝樣は疑をおはさみになり社會制度は粘土細工ではないといふ仰せですが法律で制定された諸般の制度は大抵少數の權力者が自己の利益の爲めに造つた「粘土細工」だと私は思ひます。それを粘土細工で無く地から根の生えた石造りの樣に信じさせ樣とする所に政府者の苦心は存するのです、そして其計畫は圖に當つて今日まで又今猶大多數の人間はそれを生え拔きの石造りだと考へて居ります。御用憲法論國民性論等の效績は實に沒し難いものがあるのです。ひとり思索の方法のみならず感情にまで浸透する事に成功したこの種々の敎育は今日日本の國民をして世界に類なき重税を負ひ乍ら猶且瑞穩國の光榮を謳歌する程天下泰平なおめでたいものにならしめたのです。私共の戰ひの相手は粘土細工其物ではありません、粘土細工を石造りと信せしめる樣な人及其思想に外ならないのです。人間の思想は時代と共に推移致します。社會はその推移しつゝ行く思想に應じて變化を遂げなければなりません。その變化を妨げるものがとりもなほさず吾々の敵であり同時に人類の敵であるのです。私は人間は誰が作つたのか知りません、神の細工でも宜しアミーバの成り上りでも差支へありません、誰が作つたにせよ私は私のより善く生きんとする本能に導かれて行く外無いといふ事實は動かされません。私は「威大なる自然力」であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らうと造物主であらうと私の生活本能を防遏せんとする者は凡て敵と看做す事を憚りません。私は私自身に忠實であることが直ちに自然なり造物主なりに忠なる所以であると考へます。

又過日野枝樣は人を覺醒させる事の是非に就てお話になりましたが、私は如何なる人でも覺醒させた方が好く――無論自發的に――且其刺戟を與へる事を必要と致します。畢竟今日の人間の悲慘は其無知無自覺が最大の原因なのですから。各自が自己の尊貴を認めて自己の爲に生きるのであつたなら今日の要らぬ戰ひ、要らぬ涙を人類は經驗せずに濟んだでせう。永く其の要らぬ戰ひ、要らぬ涙を續けまい爲には人間は各自一刻も早く自己に目ざめる必要があります。私共は私共自身を鞭韃して愉安を戒めると共に人の惰眠をも出來るだけさましたいと思ひます。野枝樣が婦人矯風會に向けて攻擊の矢をお放ちになつたのも意識的か無意識的かは知らず、やはり覺醒を促す意味、刺戟を與へる意味に外ならなかつたのではないでせうか。もし人は人、自分は自分でほんとにかまはないならば人間は互に默々の裡に自己の道を歩めば好い譯です。既に人間が互に共存する以上、社會は自分の一部であり同時に自分も亦社會の一部であつて、互の利害休戚は密接な關係がある筈です。それを無視してそれから孤立して自己の生活を築き上げる事が出來るでせうか。侵さず侵さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れぬ事が個人主義の要義であるからには無知無自覺なるが故に人を侵し又人に侵され乍らそれと覺らずにゐる人々を目ざますことは個人主義を徹底させる所以だと考へます。人を覺まし人を導くといふ事は――そして各自に自主的精神を與へることは――個人の權利を侵すことでは無くて却てそれを尊重する所以なのです。下等な生活でも本人が滿足してゐる以上、他人はその改善を圖るに及ばぬ樣に野枝樣は仰せでしたが私はそれをす可きや否やより以上、見るに忍びるや否やの問題だと考へます。例へば春の日永の波打際に快げに身を延ばして長閑な睡りを貪つてゐる人があり、そこへ段々潮が高まつて來るとします。睡つてゐる人にも自分を呑まうとする波の音を夢心地に天上の音樂と聞きまがへて眞に幸福らしい微笑を寢顏に浮べて居ります。そこへ突然聲をかけて呼びさまされたならまだ自分がどんなに危險な地位に居るか知らぬその人は安眠を妨げられたと許り思つて怒るでせう。亦其人が其時波にさらはれた方が幸福か、餘生を續けた方が幸福かは恐らく誰にも分りますまい、しかし見すく\さうした危險に迫られて居る者を餘り心持が好さゝうだからと打捨ておく事はどうしても私には出來ないと思ふのです、自覺の無いものの幸福は私の眼にはいかにも脆さうで危くて見てゐられないのです、そこで其小さな擬ひ物の幸福を捨てさせて一層鞏固な基礎の上に自己の生活を築かしめ一層安全な確な幸福を捉ませせ度いと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思ふのです。法華經の火宅の譬への樣に火のついた家の中で何も知らずに嬉戲して居る子供らを餘り面白さうだから餘り樂しさうだからとて打捨てゝおく事が出來るでせうか。

私は各自の獨立を尊重致します、決して私の意思を人に强制し樣とは思ひません、しかし自分が或信仰を得た時人にそれを頒ちたいとは思ひます、そして眞の生命の源泉に口をふれて始めて味ひを得らるゝ幸福の味を人に吹聽せずにはゐられません。人は人、自分は自分といふ工合でなく、各自互に啓發し合ひ影響し合ふ事に依て始めて自己の生長は期し得られ社會の進歩が可能になるのだと考へます。

猶野枝樣は十二月號の論文に就て深い自信は無いものであつたとお斷りになりました。自信の無い言論は遊戲です。それは公人としての責任と矛盾しは致しませんか。向後は確實な知識の上に築かれた自信ある言論をのみ公表されん事を切望致します。(一月十八日)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

再び青山氏へ

野枝

私は、もう、あなたのお書きになつたものに對しては出來る丈け口をつぐみ度いのですけれども、矢張り私の考へ方が誤解されてゐるのに對しては、あんまり默つてゐられませんので、もう一度かきます、もうこれでおしまひです。

賣淫制度については、私はさう云ふ專門的な智識を私は少しも持ちませんからとお會ひした時にもお斷はりいたしましたのです。私があの感想を書きましたのは田舍の新聞にたのまれてその爲めに書いたので、私としてはあの感想は、さう根深いものを意識して書いたのではない事は事實です、たゞ私は多くをあの文の前半について云ひたかつたのです。併しこんな事は云はなくてもいゝ事でした。私が此處で申上げたいことは、「時」と、云ふ問題ですが、私は、造られた物の價値その物と云ふ側よりも「質」はどうとしてもそれを造つた努力には相當の尊敬を拂ひたひと思ふのです。爲ることの內容は善であつても惡であつても遂げやうとする努力は眞劍なものだと云ふことは何時も私の頭にあります。それで社會制度と云ふものが、それが、畢竟は人類の爲めには不利なものであるとしても——實際

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それがどの位、人間の生活を慘めにしてゐるかは私も知つてゐます――それ迄とにかく多くの人間の生活を支配するやうにまで根強くさせたのは權力階級の熱心な努力ではないでせうか？　私はそれが決してなまやさしい事ではなかつたであらうと云ふ事を思ひます。それをくつがへすには――是非くつがへさねばならぬ程それが非道な制度だと云ふことも承知してゐます。――矢張りそれ以上の努力が必要だと云ふことになります。彼等は長い時を費して、今日に到りました。處で私は矢張り、その革命も結局はそれと同じ長さの努力歴史を造らなくては成功することは出來ないだらうと云つたのです。私は努力を無視した覺はありません。私の「時」と云ひ、また運命と云ふのは恐らくあなたの考へてお出になるよりもつと廣い意味であるらしく思はれます。私の運命と云ふのは、人間のすべての營みと云ふものも皆ずつと高い或意力によつて動かされてゐるのであるとしか思へません。何の爲めに、自分と云ふ人間が、「生」と云ふものを與へられたか？　と云ふ根本問題を考へ始めますと私は結局は生きてゐることが出來なくなります。私達の知ることの出來ない更に大きな目的の爲めに、――と私はそれですましてはゐらないのです。けれども私にはたゞ、「存在」と云ふことが事實である丈けは分ります。私たちはその事實にたよつて生きてゐるより仕方がありません、人間生活のすべての基調となつてゐる、眞とか、美とか云

ふ觀念も實は私達に知れないい目的の爲めに働いてゐるより高い意力の働きではないかと私には思はれるのです。で私は決して、私の運命論を徹底させても無爲と云ふことにはならないと思ひます。私は與へられた「生」を與へられ大意力によつて出來る丈け步みをつゞけさせやうと思ひます。であなたは私の運命論を徹底させれば努力が無意義になり意志と云ふものが無いも等しいのだと仰云います。さうです。つまりはさうなります。人間が或意思をもつてゐることは確かですが、更に高い意力がそれを支配してゐると云へば無いも同然になります。其處で、私は何の爲めにその支配を受けるか、と云ふことが分らない事になりますね、すると私は何の爲めに生きてゐるかゞ分らなくなります。問題はもう一度あと戻りをします。私は其處にばかりこびりついて考へますと結局はその支配を斷らなければなりません。さしあたり自殺でもしなければなりません。處がもつと考へをすゝめて見ます。かうやつて、そんな事を考へる事でさへ矢張りその支配下にあるのです。私たちは死ぬにも生きるにも、一擧手一投足にもその力の支配を受けてゐるのです。それで私は不可抗力と云ひました。私はそれを絕對と云ひます。それで人間の意志と云ふやうなものを全然獨立した働きだと見てそれですべてをしやうとしてこの考へにぶつかれば一度は信念と云ふものもぐらつきます。併し都合のいゝ事には、人間は始終そんな根本問題ばかりに

頭をなやましてゐる事が出來ないやうな生活狀態にあります。そしてその爲めには各自にもつた意力を働かしてゆけばいゝやうになつてゐます。此處に、私とあなたとの考へ方の根本の差異があります。私は何時でもその絕對と云ふ力を後に自分の生活を出來るだけよくして行きたいと思ふのです。ですから、私は先づ自分の意力を出來る丈け自分の爲めにのみ驅使したいと思ひます。そうして後にもし、自分の意力が生み出した自分の生活を常に觀察しながら、若し、人間の共通點や類似點と云ふものによつて、自分の生活が自然に他人のそれを啓發することが出來れば私にはこれは立派な一つのよろこびであります。私が自分の感想を――貧しい、下らない――でも發表すると云ふのは、その意に他ならないのであります。

私は何時でも絕對を眼中において、考へ、あなたはその力を無視してゐらつしやる丈けの違ひなのです。結局は矢張り一つ處に行つてゐます。何故なら、あなたは、矢張り自分自身に忠實であることが直ちに自然だと仰云つてゐらつしやいます。私もさう考へます。たゞあなたと、私の差異が、この異つた議論を生んだものであることを私は信じます。人間の思想が推移して行くと云ふことはあなたも承認してゐらつしやいまず。私は今からしてこんな考へでゐますけれども自分で、自分の考へがどう變つて行くかもしれないと思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひます。（餘計な理屈を此處でもう一つ付ければ、若し人間の意志が全然人間の自由になるものならば自分自身の一生の計畫が苦痛なしに正確に出來なければならないと思ひます。）

私は現在の社會制度に對しては、あなたと同樣に不平と不滿と憤激をもつてゐます。或はあなた以上にもつと反抗心を持つてゐるかもしれません。けれど、今の私はあまりに自分の生活の健在を祈つてゐすぎるのです。その事は自分でも知りすぎてゐるのです。若し私が今日迄家庭生活と云ふものを知らなかつたら、私は眞直に反抗心の火の手をあげたかもしれません。幸か不幸か、私は人間の親になりました。私は子供を出來る丈け、幸福に、立派に育てたいと云ふ本能の爲めに、先づ自分と云ふものから省みて行かなければならなくなりました。私は出來る丈け自分に無理をしたくないのでその本能的な生活にひたすら沒頭してゐます。けれども私の頭の中から。全然その不平や不滿が逃げた譯けでなく、此度は方向をちがへてこれから生れて行かうとする子供達の爲めにまた社會制度にぶつからねばならないのです。私のそれに對する憤激の熱度がまたどの位に上るかは自分でも分りませんが、これがまた、私の生活をどう轉化するかしれないのです。ですから、今の私は一般に對しては感想を發表するにしても批評をするにしても自分を中心として極く消極的な考へでゐますけれど何時積極的な意志をもち出すか分りません。唯、現在では、さうした

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

外的な運動をするには私はあまりに、自分と云ふことにこだはりすぎてゐますので、出來ませんのです。自分の生活のぐら付きさうなのが氣になつてとても他人のことに積極的な手出しが出來ないのです。つまり、意久地なしだと云ふ事です。私の熱情がまだ其處に生き甲斐を見出す程に炎え上らないのです。

くだ／＼しい事をかくのは止めます。これで私の考へ方があなたに通じないとしても私はもうお答へは出來かねます。私はこの問題はもうこれで打ち切りにしたいとおもひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

折りにふれて

岡田ゆき

あの時程血の色が美しいと思つた事はない。

それは先週の土曜の夕方であつた。T町の叔母が來て急にA館に行く事になつたのでそゝくさと風呂に入つた折り、暫く顔を剃らないから自分で剃つた。

丁度弟が頭髪を刈るので萬公(床屋)が來てゐたのに、

「もう遲いからひとりで剃るわ」。

とばかりで持ちつけない日本剃刀で剃つてゐた。

こころがどうした機勢か自分ながらわからずにハツと思ふ間に唇の右側を少し切つた。

濡れて居た所だつたので少しの血でも繪筆にたつぷりと朱をふくませてぼかした樣に色あざやかに散つた。私は血の色を見ると、一寸どぎまぎして急いで剃刀を仕舞ふとして湯をかけてタオルでこすつた。周章てたと見えて双の上をこすたからたまらない。右の中指のさきを切つた。

「あゝ切つたな。」

と思ふとやつぱり濡れ手だつたので美しい血はひろがつた。血止めを貰ふために芳(女中)を呼んだので叔母も來た。

彼女は風呂場の戸口に立つて。

「まあ、どうしたんだれ。どの位切つたのさ。」

と途方もない大きな聲を出した。

それを聞くと私は指を抑へながら。

「爪を殘してぶら／＼よ。」

と心にもない事を云つてしまつた。餘り美しいあざやかな血の色に魅せられたのか、少しゝか切らない事を知つてゐながら途方もない事を云つたのである。

それにひきかへて、昨日程血からいやな感じを受けた事はない。

朝山田先生へ上らうとして、學習院の横を曲らうとした時だつた。坂であつたので下を向いて梶棒を握つてゐた虎(車夫)が

「あゝ大變な血だ。およそ一升位。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さゝけんだ。

往來に凍つた樣なひからびた黑血。殺された犬や猫の血にしては少し變である。通りがゝりの人が吐いたのかも知れない。男か女かわからないがやせて目ばかり大きい、硝子玉の樣な感じの人間か血を吐いてゐるのが突差に頭に描かれた。

何だか胸がムカ／＼するいやな氣持ちになつた。

御講義最中も私は此の血を思ひ出した。血は……殊に、此の血は私にいやな聯想をさせる。歸宅後食事の時も、床に入る時も幾度となくこれを思ひ出して其の度にいやな氣持になつた。

自分の生活が眞實でない事を見出して私は先日來悶へてゐた。自己の力で徹底した生活がしたいと考へ出したらもうこうしては居られない樣なもどかしさを感じた。けれど殼を破るには餘りに私は育つてゐない事を心づいた時、何んとも云へないやるせない氣持ちになつた。此の樣に私が考へたのは現在の自分は準備の時代にあると云ふ事をからりと忘れたゝめであつた。ぐず／＼考へてゐる程人間として馬鹿らしい事はない。こんな事を考へるひまに、私は努力しなければならないのである。つまり現在は此のまゝでみつちり勉强するのが最もよい事なのだ。

必ず早まつてはならないのである。

昨夜有樂座に露國人の曲藝を見た。

一行は十人餘りで喜歌劇團と銘うつてあつても、オペラはしないのである。劇場一杯に人が入つた幕間には煙草と香水の香が廊下に燻ゆる位でなければ何の力も熱もおこらないものだ。昨日の樣に寂しい座に入つた事は初めてゞある。觀客も皆いやに寒さうに霜げた樣子をしてゐるし、演者も何となく旅藝人らしい暗い影を持つてゐる人達であつた。

水を渡つて來る冷い川風に、しよんぼりと立つ色の褪せたらしい幟。それに座の入口の淡い電燈の光りがあたつて人つ子一人ゐない札賣場がたまらなく物悲しさを感受させる。

ほゝ笑みつゝ體をかろがろしく踊りまはる若い踊り子を見ながら、舞臺から來る冷い風に身をふるはせつゝ遠く故國を離れて此の樣な土地へ來た彼等のライフを考へて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

無性に寂しくなつた。心に悲しみを抱きながら表面は無理に快活をよそほふてゐる様な年増女が鸚鵡を十六羽使ひわけた。藝そのものは只あき足らない、つまらないものであつた。

然し一座の女は皆相當に美しい皮膚と立派な曲線美を持つてゐる。それが尚一層私にいたましさを増した。興行しながら知らぬ土地からまた見知らぬ土地へと渡り歩く彼等の氣持ちはどんなであらうか。まして入りのなかつた場合は。などゝ考へたらひとしほ寂しくなつてしまつた。

自分がいつも劇場に入つて受ける感じは、友禪染のそれの様に、花やかなものであるが昨夜はさうでなかつた。灰色の様な地味な感じであつた。

私は覺えてゐる。たしかそれは日露戰爭後の祝勝の時であつたから今より十餘年前の事である。叔母達に連れられて慶應の坂下で紅のだんだら絞りを肩にかけたかの様に後から後からと續く學生のカンテラ行列の火の流れを見たのは。

其時は力士が各科の考案に成つた萬燈をかついで行つた事が幽(かす)かに心にきざまれてゐる。

今夜慶應に御大典奉祝のカンテラ行列があると云ふので夕飯後女中達を見せにやる事になつてゐた。母が私にも

「皆と行つて御覽なさいよ。」

と云ふ。けれど只單にカンテラをわざ〳〵見に行くのは云ふ迄もなく馬鹿らしい事である。然し私はたとへ幽かながらも幼い時の記憶の鏡にうつて消えずに居る事を、今またくり返して遠い過ぎし日を追憶するに一種何とも云へぬ興味を持つてゐる。

今夕も此の心持ちが大部をしめて、丁度來合せた師匠と共に私を三田通りへ走らした。けれど少し行き方が遲かつたゝめ、行列はもう通り過ぎて群集がくずれた所であつた。

然しかなり離れてはゐたが火の帶の端を見た。それでも見ないよりはよいと思つたのである。

（大正五、一一、五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□今月は校正の出方が大變に後れました爲めにおそくなりました。先月號は二ケ月ばかり遞信局の納本がしてありませんでした爲に郵便局に三四日留め置かれましたので地方へは大變に後れましたでせうと思ひます。何卒あしからず。

□歐洲戰爭の爲めに洋紙の價が非常に高くなりまして此の頃では以前の倍高くなりましたので情ない私の經濟狀態では思ふやうな紙も使ひきれなくなりましたので今月からはずつと質をおとしましたけれども、それでも價の點では以上のいゝ紙よりまだ高い位です。だんだんにまだ高くなりさうですがそれではとてもやりきれませんので今月から少し頁數を減じました。併し出來る丈けの頁數はとりたいとおもひます。

□雜誌をもつと少さくしろと云ふ忠告を度々受けますけれど私としては成べく現在のまゝに續けてゆきたいと思ひますので出來る丈け働いて、もう少し經濟狀態をよくしたいと思ひますが私自身がその日の生活に逐はれてゐる位で御座いますので、思ふばかりで手が屆きませんのです。せめて少しづゝでも稿料をお拂ひする位には賣りたいのが私の望みなのですが、賣ることゝ本當にいゝ雜誌をこしらへることゝは兩立しませんので――もつとも今の處ではよくて賣れないのではありませんが――まあ現在のまゝでとにかく每月發行を續けて行く事が出來さへすればよいと思ひます。そんな狀態ですから何卒直接購讀者の方で前金切れの方はお拂ひ込み下さいますやうにお願ひいたします。

□大阪每日新聞へ「雜音」として今書いてゐますのは私としては非常に自分でもいやでたまらないものです。もつと／＼書けるつもりで居りましたのですが十分一もかけません。何れまとめて出します節にはもう少し自分で滿足の出來るやうに書きたいと思ひます、今讀ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

で頂いてゐる方にはどうか今書いてゐる方は默つてゐて頂きたいのです。本當におはづかしいものですから。

□野上さんがこれから本號にお出し下すつた題で續けていろ〳〵なものを書いて下さるさうで御座います。來月號は哥津ちやんも久しぶりで書いて下さることになつてゐます。

□二月中旬頃か三月にはいつてからか、皆樣の御都合のよさうな時に在京の方々と一度集まつて見たいと思つてゐます。

□「淸子」と仰云る方に申ます。何時ぞや下さいましたお手紙では、私にはまだはつきりとあなたの理解が出來ないと仰云つてお出になる點が分りません、お別れになつたのは御尤もな事に思へます。あなたとしてはそれより他に道は御座いませんでしたらうと思ひますがその後に何が殘つてゐるのでせう、何卒もう少し委しくあなたの、お心持なり、其處までになつた經過を具體的にお知らせ下さいませんか。

□來月號からは、今月内には皆樣のお手許に届く位に早く編輯いたしますつもりです。何卒、今月號の後れましたことをお許し下さいまし。

新刊紹介

社會的個人主義　大杉榮著

これは大杉氏が「生の闘爭」出版後一ヶ年間の諸論文を集めたものであります。社會的個人主義と云ふのは「各個人の個性の多種多樣なる自由な發達が、社會組織の第一條件であり、社會進化の第一要素であるべき事を主張する、一社會的學說」ださうでございます。內容は「個人主義と勞働運動」「現代社會觀」「男女問題」「個人と社會」と云ふやうなミダシの下に氏の熱烈、眞摯な論議が最も徹底的に披瀝せられてゐます。只だ遺憾なのは雜誌の上で一度通過したものが御上の干渉で抹殺されてゐることです。今この書の結論とも見做れる「近代個人主義の諸

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

相」から數節を引照して見ます。

「――近代の思想界に於ける固有の意味の個人主義は、全く內にのみ向ふ心理的態度に陷つて了つたのであるが、そして其處から心理的個人主義の名を與へられ得るのであるが、それとは別に、猶外に向ふ社會的個人主義がそれと並行して存在した事を忘れてはならない。……此の個人主義は、ミルがその「自由論」の題辭として選んだフンボルトの次の言葉をそのモットオとする。

「此等の中に說かれたる一切の議論の歸着する大原則、主要原則は、各人が最も豐富なる多樣多種の發達を遂げん事の絕對的價値である。」

即ち此の種類の個人主義は、一切の個人が社會の中に互に調和しつつ發達し、其の多樣多種なる事が却つて文明の富と美との保證になると信じてゐる。

彼等は、秩序と統一と調和とを原則とする理性を信ずる合理主義者である。彼等は、社會的正義の實現さるべき事を信ずる人道主義者である。極めて廣い意味で社會主義者である。個人と社會を分離せしめず、又對立せしめず、個人を以て社會の一要素なりと爲し、部分が全體と調和すると見做す所にその社會的個人主義の名稱を與へられる。」氏は心理的個人主義が今日の社會組織に對する客觀的智識を缺き、社會的個人主義が稍もすれば外にのみ向つて社會組織に對する主觀的感情を缺くことを遺憾とし、それ等を合體した上に生れて來る新個人主義を力說しようとしてゐられるやうに思はれます。そしてこれは「平面的に見れば心理的個人主義と社會的個人主義との融合であり、そして又立體的に見れば先きの第一期個人主義(個人が社會を支配して、その夢想する所に從つて社會を改造せんとする雄々しき叛逆)と第二期個人主義(一切の努力を無益であると觀念し、社會的定命と桎梏との前に、飽くまでも敵意を抱きながら、それと戰ふ事を餘儀なく斷念した永久に不服從のしかし又永久の敗北者)との調和である。更に言葉を換へて云へば、第一期個人主義がその後種々なる方面の經驗と智識とを蓄積

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して、新しき内容を以て復活し來たつたものである。」

この書は昨年末に現はれた最も價値ある論集であります。私どもは深い尊敬と感謝を以つて大方の兄弟姉妹にこの書を推薦したいと思ひます（定價九十錢新潮社發行）

農民の言葉（福田正雄詩集）

「最も庶民的なる、平明純一の言葉がこの一卷に集めらる、そして、そこに農民生活の眞實な告白がある。鮮かな民族の使命がある。大いなる詩人のよろこびがある。表現せられたる感激はあらゆる人々の胸裏に共鳴し、民族の新生命を受胎せしめるであらう。」と純朴な口語體の詩集である。かくの如き詩人を有つ農村は幸福である。（東京府下豐多摩郡南郊堂書店定價五拾錢）

神祕主義者の思想と生活（吉江孤雁著）

外國の神祕主義者として日本人の耳に親しんでゐるものに、スヱデンボルグ、ヤコブベーメ、キリヤム、ブレーク、マアテルリンク、近くは又グリヤースンなぞ云ふ人々がある。この書は徒にそれ等の人々の断片皮層な研究に落ち入らず、マアテルリンク一人をして代表せしめ、彼の心理、生活と藝術、彼の運命觀、生命觀なぞが理解ある筆路によつて、尤も秩序的に論じられてゐる。著者は又序論に於て神祕主義者が徒に現世を厭ひ、孤獨隱遁の生活のみを送るものでないことを大に辨護されてゐる。（牛込西五軒町天絃堂、定價五拾錢）

女性中心說

（レスター、ウオード著、堺利彦解說）

レスター、ウオードは米國の社會學者であります。その純正社會學の中の一編を解說したものであります。私はまだ詳しく讀んで見ませんが、これは是非よんでおいてよいものと信じます。何れ私も讀んでから來月號で感想位は述べたいと思つて居ります。（正價七拾五錢牧民社發行）

童貞（山崎俊夫著）

「童貞」「夜の鳥」「夕化粧」「きさらぎ」等の數篇の小說をまとめたものであります。氏を最もよく知つてゐる三田

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文學の人は「齡若く眉目美はしき少年がかたみに慕ふ戀ならぬ戀物語、そは宛然夕暮の薄明に繙く草双紙か、さなくば土藏の奥に秘められし古き繪卷物の類にてもあるか、その惱ましさ、美はしさ、げに一夜の寵の夢にも似通ひたり」と云つてゐます。現に異常に微妙な感覺と情緒をもつて書かれた美しい小説です。(四方堂發行定價壹圓)

狂犬　厨川白村著

近頃もつて甚だ痛快な本であります。卷頭に「かりに狂犬のこゝろもちになつて世の人を見たならば、かくもあらうかと想つて書いて見た」と著者は云つてゐます。これを讀む人は誰れしも漱石氏の猫を聯想させられますが、マルツキリ異つた味のするものです。狂犬は遺憾なく、極めて露骨に生一本な調子で痛烈に吠えて俗物の心膽を寒からしめてゐます。かう云ふ狂犬がドン／＼ふえて癪に障はる奴にグン／＼と咬みついたら、さぞ心持がいゝだらうと思はれます。作者は世道人心を益する爲めと云ふやうなことを云つて居られますが、狂犬式にイツソ攪亂と云つた方が適當かと思はれます。尙卷末に附錄として短篇七章の譯文が收められてゐます。讀者諸姉に一讀をおすゝめいたします。(大日本圖書株式會社定價七拾五錢)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行

■定價一册金貳拾五錢(郵税壹錢五厘)

■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓

■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓

■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。

■郵券代用は一錢五厘切手に限る(但し一割增のこと)。

■編輯事務、補助團會費拂込は青鞜社へ。

■廣告申込、交換廣告は日月社へ。

■圖書、雜誌交換、購讀に關する一切の事務は日月社へ。

■原稿〆切期日は毎月十日限とす

大正五年一月卅日印刷納本
大正五年二月一日發行

禁轉載

編輯兼發行人 東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地 青鞜社内 伊藤野枝

印刷人 東京市京橋區弓町十三番地 柴田杠一郎

印刷所 東京市京橋區弓町十三番地 千代田印刷株式會社

發行所 東京市小石川區指ヶ谷町九十二 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 本郷區元町二丁目廿五 日月社 振替東京二八九一四番

大賣捌 東京 東京堂

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〔平明〕COSMOPOLITAN 改題

二月號

目次

産む自由と産まぬ自由……堺利彦
フランシスコフエラアと
近代學校……………………辻潤
首が飛ぶ……………………中村一義
晩れ行く日…………………ゆたか
所謂生意氣とは何ぞや……荒川義英
女性中心説と坑夫…………同
餌食…………………………田戸正春
天上から……………………幸太
短歌…………………………本山俊助
當面の問題…………………幸太

定價一部金五錢

下谷區茅町二丁目拾番地
平明社發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二月號

科學と文藝

二十五錢
郵稅二錢

■新しき道德……西村伊作

□性の二次的特徴……野村七錄

□ゲーテの色彩學……小川政修

□宇宙の構造……兒玉昌

■夢の話……杉山元治郎

■家鴨……山野虎一

■Beyond the Sea…陶山務

■自由と所有 マックス・スティルネル 辻潤譯

近代個人主義者の第一人者にしてニイチエ、イブセンを刺衝し創成したるマックス・スティルネルの思想の眞髓は最も精到なる洞察と緊密なる同情と細心なる理解とを以て譯出されたり四十餘枚の大論文にして正に新春文壇の最大提供たらん

□長詩二篇……長與善郎

□無明（長篇小說）加藤一夫

□新生……ダンテ原作 中山昌樹譯

■偶然と必然……景山哲雄

■新年の文壇……S・T・K・

■挿畫……セザンヌ自畫像其他澤山

■エトマンドの犯罪 シェクスピアの研究……秦豐吉

發行所 東京市牛込區矢來町三番地 交響社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年6月15日発行　　【第10回配本】

青鞜第6巻　2月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
B45
V.6
no.2

53 126CO XL 407
04/09 30016-162 UR
HFGroup

University of Colorado at Boulder
U18304 6746602

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可 第六卷
大正三年二月一日發行（毎月一回一日發行） 第二號 青鞜

ASN
PL
756
W6S45
v.6
1916

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

PASCAL
Dep P Mod 2 Ran 04 Sect 11 Shelf 21 Tray 12 Item 008

PASCAL

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER